

学校法人 埼玉医科大学

## 埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

### 令和3年度自己点検・評価報告書

(2021年度年報)



埼玉医科大学短期大学

令和4年3月31日発行



学校法人 埼玉医科大学

## 埼玉医科大学短期大学

Saitama Medical University College

# 令和3年度自己点検・評価報告書

(2021年度年報)

埼玉医科大学短期大学

令和4年3月31日発行



# 適格認定証

埼玉医科大学短期大学

貴短期大学は令和元年度  
認証評価の結果 適格と認定する



ACCREDITED  
2019

令和2年3月17日

一般財団法人 短期大学基準協会

理事長

関口



## 目 次

ページ

埼玉医科大学短期大学の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 沿革</li> <li>2. 概要</li> <li>3. 組織・役員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1</li> <li>1</li> <li>5</li> </ul>
I 建学の精神と教育の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1)建学の精神</li> <li>2)本学の目的</li> <li>3)本学の三つの方針・学修成果</li> </ul> </li> <li>2. 教育の効果（看護学科・専攻科）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1)教育理念</li> <li>2)教育目的</li> <li>3)教育目標</li> <li>4)三つの方針</li> </ul> </li> <li>3. 内部質保証（自己点検・評価体制）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1)本学における自己点検・評価体制</li> <li>2)自己点検・評価の担当部門一覧</li> <li>3)教員評価への取り組み</li> <li>4)卒業生・修了生による本学に関する評価</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7</li> <li>7</li> <li>7</li> <li>7</li> <li>8</li> <li>8</li> <li>9</li> <li>9</li> <li>10</li> <li>18</li> <li>18</li> <li>24</li> <li>25</li> <li>28</li> </ul>
II 教育課程と学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1)卒業認定・学位授与，修了認定</li> <li>2)学修成果</li> <li>3)教育課程の編成・実施</li> <li>4)入学者の受け入れ</li> </ul> </li> <li>2. 学生支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1)教育活動</li> <li>2)社会活動</li> <li>3)生活への支援</li> <li>4)学生の健康管理</li> <li>5)クラブ・同好会</li> <li>6)学生のボランティア活動</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>36</li> <li>36</li> <li>37</li> <li>40</li> <li>66</li> <li>75</li> <li>75</li> <li>78</li> <li>89</li> <li>92</li> <li>93</li> <li>93</li> </ul>

<p>Ⅲ 教育資源と財的資源</p>	<p>1. 人的資源  1)活動組織  2)学生による授業評価  3)FD 活動  4)SD 活動  5)委員会活動  6)教育・研究活動（実績）</p> <p>2. 物的資源  1)施設設備の整備・運用状況  2)令和3年度購入物品  3)図書利用状況</p> <p>3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源  1)学術情報システムの整備・活用状況</p> <p>4. 財的資源</p>	<p>94  94  94  104  107  110  144</p> <p>149  149  149  150</p> <p>151  151</p> <p>151</p>
<p>Ⅵ リーダーシップと  ガバナンス</p>	<p>1. 理事長のリーダーシップ  2. 学長のリーダーシップ  3. ガバナンス</p>	<p>152  152  152</p>

## 埼玉医科大学短期大学の概要

### 1. 沿革

#### 1) 認可申請から現在まで

昭和62年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第一次申請
昭和63年 6月	埼玉医科大学短期大学設置認可申請 第二次申請
昭和63年 12月22日	埼玉医科大学短期大学設置認可
平成元年 4月1日	埼玉医科大学短期大学開学
平成 8年 12月19日	埼玉医科大学短期大学専攻科設置認可
平成 9年 4月1日	埼玉医科大学短期大学専攻科開設 (地域看護学専攻・母子看護学専攻)
平成20年 3月31日	埼玉医科大学短期大学臨床検査学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学理学療法学科 閉学科
平成21年 3月31日	埼玉医科大学短期大学専攻科地域看護学専攻 閉攻

#### 2) 短大看護学科の母体校

埼玉医科大学附属看護専門学校（学校法人 埼玉医科大学）

設立	昭和51年4月	(昭和54年より専修学校)
閉校	平成 3年3月	
入学者総数	718名	
卒業生総数	701名	

### 2. 概要

1) 所在地：埼玉県入間郡毛呂山町大字毛呂本郷 38 番地

#### 2) 校舎

埼玉医科大学短期大学校舎	地下1階 地上7階	6,789.4m <sup>2</sup>
同専攻科校舎	9号館 6階	383.3m <sup>2</sup>

3) 看護学科・専攻科入学定員、修学年限

看護学科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
看護学科	100名	3年

専攻科入学定員、修学年限

	定員	修学年限
母子看護学専攻	20名	1年

4) 図書

(1) 埼玉医科大学短期大学図書館（令和4年3月31日現在）

延面積		187.2 m <sup>2</sup>
総蔵書冊数		22,811 冊
年間受け入れ冊数		356 冊
雑誌数	155 誌	155 誌
	4 誌	4 誌
年間入館者数		2,558 人

(2) 埼玉医科大学附属図書館及び分館一覧（令和3年3月31日現在）

		埼玉医科大学 附属図書館	川角キャンパス 分館	総合医療センター 分館	日高キャンパス 分館
延面積		4,238 m <sup>2</sup>	1,055 m <sup>2</sup>	261 m <sup>2</sup>	1,455 m <sup>2</sup>
総蔵書冊数		250,088 冊	13,501 冊	24,500 冊	44,252 冊
年間受け入れ冊数		2,369 冊	782 冊	747 冊	1,973 冊
雑誌数	541誌	46 誌	100 誌	148 誌	148 誌
	46誌	4 誌	4 誌	8 誌	9 誌
年間入館者数		11,014 人	3,255 人	7,766 人	19,850 人

5) 関連施設

(1) 学校法人 埼玉医科大学

埼玉医科大学医学部（毛呂山町）
埼玉医科大学保健医療学部（日高市・毛呂山町）
埼玉医科大学病院（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子センター（川越市）
埼玉医科大学国際医療センター（日高市）
埼玉医科大学ゲノム医学研究センター（日高市）
埼玉医科大学かわごえクリニック（川越市）
埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校（川越市）
埼玉医科大学訪問看護ステーション（毛呂山町）
埼玉医科大学介護支援センター（毛呂山町）
埼玉医科大学総合医療センター訪問看護ステーション（川越市）
埼玉医科大学総合医療センター介護支援センター（川越市）
埼玉医科大学在宅介護支援センター（川越市）
保育園めぐみ（毛呂山町）
埼玉医科大学つばさ保育園（川越市）
託児所あすなろ（日高市）

(2) 社会福祉法人 埼玉医療福祉会

丸木記念福祉メディカルセンター（毛呂山町）
障害者自立支援施設やすらぎ（毛呂山町）
デイケアセンター・地域活動支援センターのぞみ（毛呂山町）
ケアハウス薫風園（毛呂山町）
介護老人保健施設薫風園（毛呂山町）
地域包括支援センター薫風園支所（毛呂山町）
特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷（毛呂山町）
老人福祉センター 山根荘（毛呂山町）
光の家療育センター（毛呂山町）
埼玉医療福祉会看護専門学校（毛呂山町）

(3) 社会福祉法人 育心会

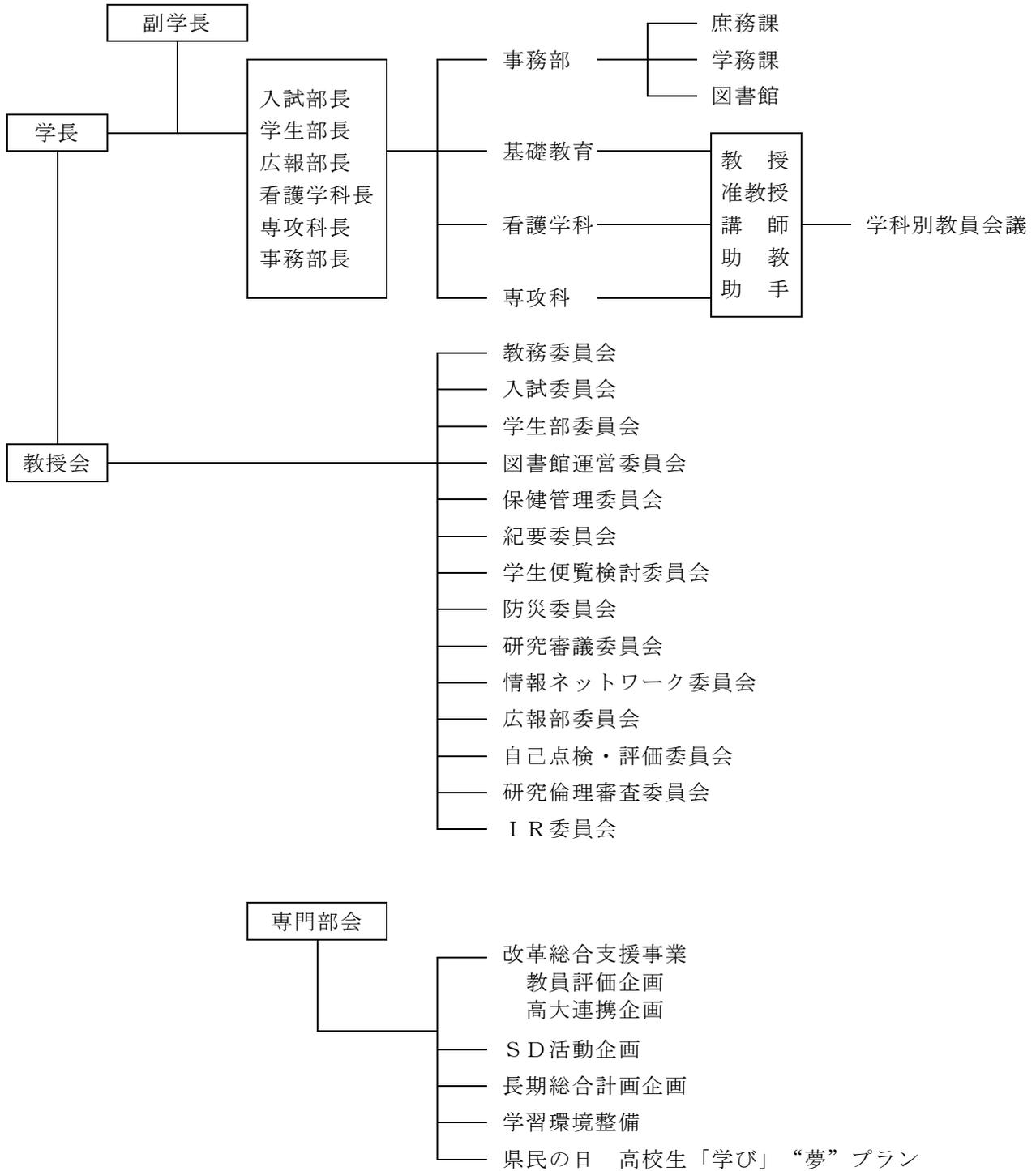
障害児入所施設 障害者支援施設 育心寮 (毛呂山町)
救護施設 育心寮 (毛呂山町)
特別養護老人ホーム 悠久園 (毛呂山町)
悠久園 短期入所支援センター (毛呂山町)
悠久園 居宅介護支援センター (毛呂山町)
悠久園 デイサービスセンター (毛呂山町)
障害者支援施設 光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 第2光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 第3光風寮 (毛呂山町)
障害者支援施設 松山荘 (毛呂山町)
障害者支援施設 報恩施設 (毛呂山町)
生活支援センター 向陽 (毛呂山町)

(4) 社会福祉法人 埼玉医大福祉会

医療型障害児入所施設 カルガモの家 (川越市)
-------------------------

### 3. 組織・役員

#### 1) 学校法人・短期大学の組織図



2) 法人役員（令和3年度）

学校法人埼玉医科大学

理事長：丸木 清之

理事：丸木 清之、別所 正美、相木 七良右エ門、江利川 毅、小室 秀樹、小山 勇、  
塩川 修、関根 則之、田島 賢司、棚橋 紀夫、堤 晴彦、原 敏成、武藤 光代、  
茂木 明、吉野 重彦、吉本 信雄

監事：香西 敏男、三和 彦幸

3) 短期大学役職者（令和3年度）

学 長	丸木 清之
副学長	所 ミヨ子
入試部長	所 ミヨ子
学生部長	霜田 敏子
図書館長	霜田 敏子
広報部長	今野 葉月
看護学科長	久保かほる
専攻科長	稲井 洋子
看護学科教務主任	霜田 敏子

# I 建学の精神と教育の効果

## 1. 建学の精神

### 1)建学の精神

- 一、 真に求められる、人間性、技術共に優れた医療技術者の育成
- 二、 自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成
- 三、 師弟同行の学風の育成

### 2)目的

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、医療技術に関する高度の理論と技能を教授研究し、あわせて豊かな教養と人格を備えて、ひろく国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的とする。

### 設立の趣旨

現代社会の目ざましい進歩発展は、医学の分野にも著しい進歩をもたらした。医療の内容もますます高度化し、複雑化し、かつ専門分化し、医療技術者が医療チームの一員として、医師と共に果たす役割は一段と重要性を増している。より高度な専門知識と技術、そして人類愛に燃える豊かな人間性を備えた医療技術者が切実に求められている。また単に知識や技術のみでなく、人間に対する深い洞察力を発揮し得る資質の高い人材も強く求められる。

そこで、本法人において、既設の看護専門学校、医学技術専門学校ならびに本法人設立の母体である、社会福祉法人毛呂病院が設立する埼玉リハビリテーション専門学校の三専門学校を母体として、「看護学科、臨床検査学科、理学療法学科」の三学科を置き『埼玉医科大学短期大学』を開設した。その後、専攻科を設置し、地域看護学専攻、母子看護学専攻を開設した。保健医療学部の開設に伴い、臨床検査学科と理学療法学科、専攻科地域看護学専攻は閉学科・閉攻となった。

### 3)本学の三つの方針・学修成果

#### (1)ディプロマポリシー（卒業・修了認定・学位授与の方針）

本学は「人間性、技術共に優れた医療技術者の育成」、「自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成」、「師弟同行の学風の育成」という建学の精神のもと、医療技術に関する高度の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と人格を備えて、国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として教育課程を編成している。このカリキュラムを履修し医療技術者として必要な次の「知識・技能」、「思考・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけた学生には卒業・修了を認定し、看護学科は短期大学士（看護学）の学位を授与する。

[学修成果]

【知識・技能】

1. 人間を総合的に理解できる
2. 科学的な知識・技術を身につける

【思考力・判断力・表現力】

1. 知識・技術・態度を統合して看護が実践できる

【主体性・協働性】

1. 高い倫理観をもって看護者として自己成長できる
2. 社会の変化に対して適応できる
3. 自己の責任を自覚し、問題解決のために積極的にさまざまな立場の人と協働できる

(2)カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

豊かな教養と看護の専門的知識を身につけ、地域の保健医療に貢献できるよう、教養教育の充実、双方向型教育、早期からの臨地実習、臨床指導教員の配置などきめ細かな学習支援を心がけた教育を実施している。

(3)アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

看護の対象となる人々の信頼を得られる看護師・助産師の育成を目的としているため、専門的な知識・技術と同時に高い倫理観や人の痛みがわかるような人間愛を兼ね備えた医療人を目指す学生の入学を希望している。

## 2. 教育の効果

### 看護学科

#### Plan

- 1) 建学の精神を基盤として看護学科の教育理念・教育目的・教育目標を設定しており、今年度もこれらを学内外へ明確に表明する。看護学科の教育理念、教育目的、教育目標は次の通りである。

#### 教育理念

看護学科の教育は、優れた看護専門職業人の育成を目指している。看護専門職には生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観、教養ある社会人としての豊かな人間性と良識を持って積極的に社会に貢献する姿勢が望まれる。また、科学技術や医療の著しい進展に対応しうる絶え間ない努力が求められている。すなわち、看護の学問的研究を推進する能力、新しい知識と技術に裏づけられた看護実践能力が求められる。

さらに本学は、高度医療機関であり、地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、学んだ成果を地域に還元することを自らの社会的役割として自覚できる人材を育成しなければならない。以上の観点から、教育目的・目標を以下のように設定している。

### 教育目的

看護専門職として、看護に関する専門的知識と技術の教育研究活動を通じ、生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観を持ち、また、教養ある社会人として、豊かな人間性と良識をもって積極的に社会に貢献できる看護師を養成する。

### 教育目標

- a. 幅広く豊かな教養を身につけた社会人になる。

豊かな感受性と幅広い教養を身につけるだけではなく、科学的に問題を解決する能力を持つことや、倫理的判断能力があること、自らの社会的役割を認識して自主的に行動し、社会的責任を担う能力を持つことが含まれる。

- b. 社会の変化に対応しつつ、生涯に亘って社会に貢献できる看護の専門職業人になる。

看護を実践するための専門的な知識や技術を修得することはもちろんのこと、社会における医療や看護の役割を認識し、その責任を果たす能力を身につけることが含まれる。また看護の専門職業人として研究的態度を培い、看護の発展に寄与するため生涯に亘って学習を継続していく姿勢を身につけることを意味する。

- c. 看護の専門家として地域の医療水準の向上に貢献できる人となる。

本学の社会的役割は優秀な人材の育成によって、地域の医療水準の向上に貢献することである。この理念に沿って、地域の医療に関心と情熱をもって対処する姿勢と実践能力を身につけることを意味する。

- 2) 教育理念・教育目的・目標をもとに看護学科の三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）に基づいて教育を実行する。

### Do

- 1) 学生に対しては、学生便覧や教室、掲示板にこれらを明示し、入学時及び新年度時にオリエンテーションを行い教育目標と各授業科目との関連を説明している。教員に対しては様々な会議で定期的に教育目的・目標を確認した。FD活動での新カリキュラム学習会等や新任教員に対しては新任教員研修に組み入れて周知できるようにした。学外に向けてはWEBページ上やパンフレットへの掲載を行った。

- 2) 三つの方針

- A. ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

看護学科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位 101 単位以上の単位を修得したうえで、下記のような知識・技術・態度を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

[学修成果]

①社会の変化に対応できる能力

- a. 社会情勢の変化に関心を持つ。 b. 社会の変化に対応する。

②人間を総合的に理解できる能力

- a. 他者を尊重し共感的に理解する。 b. 人間を多角的な視点で理解する。

③科学的な思考ができる能力

- a. 論理的に思考する。 b. 物事を系統的に考える。

④専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力

- a. 専門的知識を活用し、健康状態をアセスメントする。  
b. あらゆる健康レベルに対応した看護を計画・実施・評価する。  
c. 高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護する。

⑤保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力

- a. 継続看護（支援）の重要性を理解する。  
b. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し遂行する。  
c. 地域の医療水準の向上に貢献する。

⑥看護者として自己成長ができる基盤を身につける能力

- a. 自分自身を客観視する。  
b. 主体的に行動し、建設的な人間関係を構築する。  
c. 自分が置かれている立場・役割を認識し行動する（リーダーシップ・メンバーシップ）。  
d. 継続的に学習し、新しい知見を得る。

B. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマポリシーを学生が修得できるように以下の教育内容と教育方法を取り入れた授業を実施し、学修成果の評価を行う。教育内容については、科目構造図と科目進度表に示し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

①教育内容

- a. 3年間で101単位以上を履修する。  
b. 保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則とする）と本学の教育内容の対比は、表1の通りである。  
c. ディプロマポリシーを修得するための教育内容は、表2（p.12）の通りである。  
d. 看護専門職の責任を自覚し、自ら学ぶ力を高めるために早期から臨地実習を設定する。

表 1 指定規則と本学の教育内容との対比

指 定 規 則		本 学
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進
		健康支援と社会保障制度
専門分野Ⅰ	基礎看護学（臨地実習を含む）	看護の基本（臨地実習を含む）
専門分野Ⅱ	成人、老年、小児、母性、精神看護学 （それぞれ臨地実習を含む）	ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法（成人、老年、小児、母性、精神、在宅看護学） （それぞれ臨地実習を含む）
統合分野	在宅看護論、看護の統合と実践 （それぞれ臨地実習を含む）	看護の総合（臨地実習を含む）

表2 ディプロマポリシーを修得するための教育内容

学 修 成 果		教 育 内 容						
		人 間 と 生 活 ・ 社 会 の 理 解	科 学 的 思 考 の 基 盤	人 体 の 構 造 と 機 能 ・ 疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度	看 護 の 基 本	ラ イ フ サ イ ク ル と 生 活 の 場 に 応 じ た 看 護 の 方 法	看 護 の 総 合
① 社会の変化に対応できる能力	a. 社会情勢の変化に関心を持つ。	○			○			○
	b. 社会の変化に対応する。	○			○			
② 人間を総合的に理解できる能力	a. 他者を尊重し共感的に理解する。	○						○
	b. 人間を多角的な視点で理解する。	○	○	○	○			
③ 科学的な思考ができる能力	a. 論理的に思考する。	○	○					○
	b. 物事を系統的に考える。	○	○	○	○			
④ 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力	a. 専門的知識を活用し、健康状態をアセスメントする。					○	○	
	b. あらゆる健康レベルに対応した看護を計画・実施・評価する。					○	○	○
	c. 高い倫理観をもち、他者の尊厳と権利を擁護する。					○	○	○
⑤ 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力	a. 継続看護（支援）の重要性を理解する。					○	○	○
	b. 保健医療福祉チームの一員としての役割を自覚し遂行する。					○	○	○
	c. 地域の医療水準の向上に貢献する。				○		○	○
⑥ 看護師として自己成長ができる基盤を身につける能力	a. 自分自身を客観視する。					○	○	○
	b. 主体的に行動し、建設的な人間関係を構築する。					○	○	○
	c. 自分が置かれている立場・役割を認識し行動する（リーダーシップ・メンバーシップ）。					○	○	○
	d. 継続的に学習し、新しい知見を得る。					○	○	○

②教育方法

- a. 講義・演習は、学生の主体的な学びを促進するために、双方向型教育を実践する。また、参加型授業形態の工夫として、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。
- b. 臨地実習は、実践の機会を多く持てるように、指導教員および臨地実習指導者が連携する。
- c. シラバスに、卒業認定・学位授与の方針に基づく学習の到達目標、評価方法、予習・復習の内容と学習時間の目安を具体的に記載する。
- d. 授業評価アンケートを実施し、授業内容や教授方法の改善、組織全体として授業が円滑に運営されているかを検証する。

### ③学修成果の評価

- a. 授業科目の到達目標に応じて到達基準を明確化し、その到達状況を適切に評価する。
- b. 授業科目の学修成果は、授業内容に応じて筆記試験、レポート、実技試験、学習態度などを総合して評価する。
- c. 学修成果はフィードバックを行ない、学生が自身の学修成果と課題を把握できるようにする。
- d. GPA を用いてフィードバックを行ない、学生が自身の学修成果と課題を把握できるようにする。
- e. 毎年アセスメントテストを実施し、学生・教員の双方が学修成果を確認する。

### C. アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

①ディプロマポリシーに定める知識・技術・態度の修得を目指し、カリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、a.～d.の基礎学力を身につけるための科目を履修していることが望ましい。

a.「読む・書く」能力及び「論理的思考」能力を必要とする基礎学力

科目：国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ等

b.科学的判断・問題解決能力を高める基礎学力

科目：数学Ⅰ・数学A、化学基礎、生物基礎等

c.人間・健康・生活・社会（環境）への関心を高める基礎学力

科目：現代社会等

d.倫理観を高める基礎学力

科目：倫理等

②保健医療福祉の分野で活躍、貢献したいという目的意識をもっている。

③豊かな感性、表現力、他者との協調性やコミュニケーション能力を身につけるために、下記 a.～c.のような活動をしていることが望ましい。

a.課題への積極的・主体的な取り組み（総合的な学習時間等）

b.生徒会活動や部活動

c.ボランティア活動

### Check

- 1) 卒業生を対象に実施している当短期大学に関するアンケート結果では、全ての項目の平均が中央値以上ということから教育理念・目的・目標は周知できた。
- 2) 教員は常に意識しながら教育活動及び委員会活動等を行った。

### Action

- 1)看護学科の教育理念や教育目的、教育目標を今後も学内外へ表明することを継続する。
- 2)情報化社会や少子高齢社会、また疾病構造の変化や大災害の発生等に伴い、今日の医療・看護に対する国民のニーズが変化してきているので、時代の変化を見据えながら常に点検、見直しをする。

- 3)看護大学が年々増加し短期大学が激減している現状において、短期大学における教育の特色を出すために、教育内容をさらに精選し、教育方法を工夫しながら質の向上に努める。
- 4)県内の医療・福祉及び医療教育の中核的役割を担う埼玉医科大学病院に併設されている利点を最大限に生かし、病院看護部と協同して学生の教育はもとより地域の医療水準の向上に貢献できるように卒業生の卒後教育、公開講座等を行う。

## 専攻科 母子看護学専攻

### Plan

- 1) 建学の精神を基に専攻科の教育理念・教育目的・教育目標を設定しており、本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針を周知する。専攻科の教育理念・教育目的・教育目標は次の通りである。

### 教育理念

埼玉医科大学短期大学の教育の基本姿勢は、一般社会人としての幅広く豊かな教養と良識を持ち、生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って、積極的に社会に貢献できる人材を育成することである。母子看護学専攻の教育は医療全般にわたる広範な視野と高い見識を持ち、急速かつ多様に変化しつつある社会状況を的確にとらえ、対象者および家族・地域に対して母子看護専門職としての社会的役割を担う人材を育成することである。さらに、本学は、高度周産期医療機関であり地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、高い専門性を活かし専門的指導的役割を果たせる人材を育成しなければならない。

### 教育目的

看護基礎教育を基盤として、母子看護学に関する教育研究活動を通し、専門的知識と技術を深く身に付け、社会に貢献できる助産師を養成する。

### 教育目標

- a. 広範な視野と高い見識を持った社会人になる。
  - b. 多様に変化する社会状況及び価値観を的確にとらえ、高い専門性と指導的役割を担い生涯に亘って社会に貢献できる母子看護専門職業人になる。
  - c. 母子看護専門職として、周産期医療の水準・向上に貢献できる人となる。
- 2)策定した教育理念・教育目的・目標をもとに専攻科の三つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の策定後の検証と新カリキュラムに向けた見直し。

### Do

- 1)専攻科の教育方針の周知

学外に対してはホームページへ掲載、パンフレットへの掲載及びオープンキャンパス〔WEB〕時に入學を希望する学生と保護者へ説明を行った。助産学実習開始前には、助産師のアイデンティテ

イとして、助産師の役割や責務を自覚し、助産師であるということの認識と誇りを持つことの周知に力を注いだ。合わせて近年の周産期医療の変化に伴い、基礎的知識に加え高度周産期医療に対応できる能力として最新の知識と技術さらに周産期医療チームの一員として様々な職種と連携を図り協働できることが求められている旨を強調し説明を行った。

## 2) 3つのポリシーの策定後の検証と新カリキュラムに向けた見直し

本学の建学の精神を基に専攻科の教育理念・教育目的・教育目標を示しているが、2020年度より【三つの方針】として下記のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを活用している。また、令和4年度からの新カリキュラムの導入に向け、教育内容と学修成果との整合性について検討を重ね、専攻科のディプロマポリシーと教育内容を編成した。

### ディプロマポリシー（修了認定・修了証明書授与の方針）

専攻科の課程を修め、授業科目区分ごとの所定の単位を修得し、且つ修了要件の31単位以上を修得したのものには、全ての女性及び周産期にある母子とその家族に対して健康を支援し、地域母子医療・保健の向上に寄与できる助産師に相応したことを認め、修了を認定する。

〔学修成果〕

1. 広範な視野と高い見識を培う能力
  - (1)生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。
  - (2)倫理観を持った行動ができる。
  - (3)社会情勢の変化を的確にとらえる。
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力
  - (1)女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。
  - (2)高度周産期医療に対応する知識を持つ。
  - (3)科学的思考を持ち総合的に判断する。
3. 地域の保健医療福祉水準の発展に貢献する姿勢を培う能力
  - (1)社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。
  - (2)保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力
  - (1)生涯学習を行い自己研鑽する。
  - (2)課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。

### カリキュラムポリシー（教育課程の実践方針）

女性と子どもの健康的な生活を支援するための基本理念と知識、周産期にある母子と家族のケアに必要な助産診断と実践のための基礎的能力を修得し、地域社会に貢献できる助産師を養成する教育課程を編成する。

1. 基礎助産学：女性と子どもの健康を支える基本理念と知識・技術を養う。
2. 助産診断技術学：助産学領域における専門的な実践能力を養う。
3. 地域母子保健：地域の特性を知り、助産師として多職種と協働できる能力・態度を養う。
4. 助産管理：助産管理者として必要な基礎的知識と能力を養う。
5. 助産学実習：知識を統合し、ウェルネスもしくは問題解決の視点で助産過程を展開できる能力を養う。

表3 専攻科のディプロマポリシーと教育内容（2021年度）

学 修 成 果		教 育 内 容				
		基礎助産学	助産診断・技術学	域母子保健	助産管理	助産学実習
1. 広範な視野と高い見識を培う能力	(1) 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持つ。	○				○
	(2) 倫理観を持った行動ができる。	○				○
	(3) 社会情勢の変化を的確にとらえる。	○		○	○	○
2. 高い専門性を持った実践能力を培う能力	(1) 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援する。	○	○	○	○	○
	(2) 高度周産期医療に対応する知識を持つ。	○	○			○
	(3) 科学的思考を持ち総合的に判断する。	○	○			○
3. 地域の医療水準の発展に貢献する姿勢を培う能力	(1) 社会資源を活用し、保健医療福祉の向上に貢献する。			○	○	○
	(2) 保健医療福祉チームの一員として多職種と連携し協働できる。			○	○	○
4. 助産師としての専門的自立能力を培う能力	(1) 生涯学習を行い自己研鑽する。	○	○	○	○	○
	(2) 課題意識を持ち研究を行い、成果を活用する。	○	○	○	○	○

アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

1. 人間に対する関心を持ち、生命の尊厳を重視できる人
2. 責任感と倫理観を備え、社会性を兼ね備えた人
3. 生涯学習を行い自己研鑽することができる人
4. 看護師として、基礎学力を有している人
5. 協調性があり、高いコミュニケーション能力を備え、多職種連携に意欲を持つ人
6. 保健医療分野の指導的役割を担う意欲のある人
7. 課題意識を持って科学的に探究し保健・医療に貢献しようとする意欲のある人

## Check

### 1)専攻科の教育方針の周知

今年度も学外に対してはホームページとオープンキャンパス時に本学専攻科について周知した。オープンキャンパス時の Zoom 相談会でも教育方針への関心は高かった。学生へは入学時と実習開始時及び実習終了時に本学専攻科の教育方針について、繰り返し説明する機会を設けた。助産師になりたいというモチベーションを維持し続けることは容易ではないが、学んだ知識を助産学実習で実践する時期に本学専攻科の教育方針を再認識することで、本学専攻科の方針を確認するだけでなく具体的な目標を再確認することにも繋がったと考える。

### 2) 3つのポリシーの策定後の検証と新カリキュラムに向けた見直し

【三つの方針】ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの整合性を整え、シラバスには関連内容を示し活用した（表3参照）。各授業の開始時にオリエンテーションする際にも方針を意識づけたことで、各科目の繋がりや関連性を意識した学習となったと考える。また新カリキュラムに向けて、三つのポリシーを意識して教育内容と学修成果との整合性について再検討を行い、カリキュラムを編成できた。

## Action

本学専攻を希望する学生へ明確な教育方針の提示をすることは入学後のモチベーションを維持し目標に向かい学ぶための道しるべともなる。そのためにも専攻科独自の三つの方針（ディプロマポリシー／修了認定にあたっての具体的な方針の提示、カリキュラムポリシー／1年課程でのカリキュラム編成と運用の方針の提示、アドミッションポリシー／専攻科で募集する入学者の明確な表現）を意識し、一貫のある取り組みを行わなければならない。次年度からは新カリキュラムがスタートするが、今後も学内外へ教育方針を周知するとともに助産師教育の動向を捉えつつ、点検と修正を行って行きたい。また、新たに編成したカリキュラムの評価を行いつつ、変化する学生の特徴を捉えながら、教育方法を工夫し、助産師の質の向上に努めてゆきたい。

### 3. 内部質保証（自己点検・評価体制）

#### 1) 本学における自己点検・評価体制（p.23）

##### Plan

大学が自らの教育研究の理念・目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検・評価するという理念の基に、本学は自己点検・評価委員会規則（平成30年11月16日改正）に則って、教育・研究水準の向上を図り、かつ本学の目的及びその使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。

2021年度の活動計画は以下の通りである。

- (1) 令和3年度（2021年度）自己点検・評価報告書の発刊
- (2) 令和2年度（2020年度）卒業生・修了生の卒業時・修了時の本学に関するアンケート実施結果の分析
- (3) 令和元年度（2019年度）卒業生・修了生の卒業後・修了後1年目の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- (4) 令和3年度（2021年度）卒業生・修了生の卒業時・修了時の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- (5) 3つのポリシーをふまえた教育活動の適切性について学外及び学生参画による点検・評価
- (6) SD活動の実施、報告書の発刊（SD活動企画委員会による）

##### Do

- (1) 自己点検・評価委員会を12回開催し、自己点検・評価委員会規則に則って各活動の自己点検・評価を行った。
- (2) 令和4年3月『2021年度自己点検・評価報告書（2021年度年報）』を発行した。
- (3) 昨年に引き続き、私学振興・共済事業団の情報公開要件に応じて次をHP上で公開した。  
『2021年度シラバス』、『2021年度学生便覧』、『2021年度自己点検・評価報告書』
- (4) 2021年度に実施した学生による授業評価の集計結果を『学生による授業評価アンケート集計報告書・2021年度』として令和4年3月に発行した。これは全教員に配付され、これまで通り図書館に配架して学生に閲覧可能とした。
- (5) 令和3年度（2021年度）の卒業生・修了生による当短期大学に関するアンケートを、卒業時・修了時に実施した。
- (6) 令和2年度（2020年度）卒業生・修了生の卒業時・修了時の当短期大学に関するアンケート実施結果を分析した。
- (7) 令和2年度（2020年度）卒業生・修了生の卒業後・修了後1年目の本学に関するアンケートを実施した。
- (8) ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをふまえた教育活動の取り組みの適切性を確保するために以下の内容を実施した。

①学外（毛呂山町教育委員会）に点検・評価を受けた。

②学生参画の自己点検・評価委員会を開催した。

③外部アドバイザー（主たる実習施設の総看護部長）と情報交換した。

(9)授業評価アンケート（学習態度）結果の学生自身の活用状況について、看護学科の1、2年次生に指導した。

(10)FD・SD活動については本誌 p.104-109 を参照。

## Check

(1)卒業生・修了生による卒業・修了時、卒業・修了後1年目の短期大学に関するアンケートの結果（p. 28-35 参照）。

### ①卒業時・修了時

#### i.看護学科

すべての項目が3.0ポイント以上であり、概ね良い評価であった。

対象学生が異なるので一概に比較することはできないが、全体的にみると前年度と比べポイントの平均はアップしている（今年度4.6、昨年度3.9）。

ポイントが最も高かった項目は昨年度と同様、「在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた」（今年度4.7、昨年度4.5）であった。コロナ禍で遠隔授業が導入され、個人学習の時間が増えたことから、直接・間接的に身近な友人と関わることの大切さをより意識した結果ではないかと考えられる。

ポイントが最も低かった項目は、「先輩・後輩とともに学ぶ気持ちをもてた」であった。この項目は昨年度も最も低かった（今年度3.3、昨年度3.3）。コロナ禍の影響で、学校祭、クラブ活動等が制限され、先輩・後輩との交流の機会が少なくなったことも考えられるが、コロナ禍以前のデータでも、全体からみるとポイントが低い。このことからカリキュラムの過密さや、他者との関わりが苦手という現代学生の気質も要因の1つになっていることが考えられる。

#### ii.専攻科

すべての項目が3.0ポイント以上であり、概ね良い評価であった。しかし、対象学生が異なるので一概に比較できないが、昨年度と比べ平均ポイントが若干低下している（今年度4.1、昨年度4.2）。

昨年度よりも最もポイントが低くなった項目は、「臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた」（今年度3.3、昨年度4.0）であった。コロナ禍、また出生率が減少している中での臨地実習は、目標の分娩介助件数を目指すことが精一杯となり、課題を意識し追究するまでには至らなかったのではないかと考えられる。

他の項目はほぼ同ポイントであったが、その中でも「専攻科での1年間は自己成長につながった」が最も高かった（4.7）。これは、「同級生と共に学ぶことができた」（4.6）、「専攻科で学んでよかった」（4.6）という比較的ポイントの高い項目とあわせて考えると、専攻科で学ぶ1年間は、学生にとって自己の成長を自覚できる充実した期間であったのではないかと考えられる。

## ②卒業、修了後1年目

### i.看護学科

平均ポイントを卒業時と比較してみると、卒業後1年目の方が若干低い（卒業時 3.9、卒業後 3.6）。社会人として成長し、より客観的に評価できるようになったためではないかと考えられる。この成長は、「看護師として自ら学び、努力している」（4.2）、「他者への労り、奉仕心を持って実践している」（4.2）、「先輩・後輩（学生）とともに学ぶ気持ちを持って実践している」（4.1）という項目のポイントが高いこと、また、「在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている」（3.2）、「困ったこと、疑問点を教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある」（2.6）という項目が、卒業時よりも低くなっていることから、他者にモデル像を見出したり、他者に頼るのではなく、自らの目標に向かって努力している姿が伺えることから考えられる。

「科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解の科目は役に立っている」は、卒業時とほぼ同様で（1年目 3.0、卒業時 3.3）で低かった。この学習内容は人間的成長と関係するものであり、直接、看護実践で活用できるものではないことから、役立つという実感がもてなかったのではないかと考えられる。

「勉強以外に部活・ボランティア・委員会活動は役だっている」は卒業時よりも低い結果となった（1年目 2.8、卒業時 3.6）。これは、1年目は業務を覚えることで精一杯であること、またコロナ禍の影響で種々の活動が思うようにできなかったことが要因の1つではないかと考えられる。看護学科は平成 29 年度から評価した理由を学生に記述してもらっている。これにより学生の意識がより明確になった。

### ii.専攻科

修了時と修了後1年目のアンケートの項目が若干異なるが、平均ポイントは 4.0 以上で良い評価であった（修了時 4.0、修了後 4.1）。特に高い評価を得た項目は、「他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している」（4.5）、「先輩・後輩（学生）と共に学んでいる」（4.5）、「在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた」（4.5）であった。これらの結果から、専攻科で学ぶ1年間は、専門的な知識・技術・態度の修得のみではなく、人間的にも成長できる充実した期間であったのではないかと考える。これは「学生生活は有意義だった」（4.4）、「専攻科で学んでよかった」（4.4）という学生の評価からもいえる。

ポイントが低かった項目は、「助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた」（3.7）、「社会情勢の変化をとらえることができた」（3.7）であった。修了後1年目という時期は、広く社会に目を向け、主体的に課題を見いだして学習していくというよりも、職場や業務に慣れることや、助産師としての専門的知識・技術を習得することで精一杯になっているためではないかと考えられる。また、コロナ禍にあり、思うように学会参加や社会貢献活動ができにくい状況であったことも要因の1つと考えられる。

## (2)授業評価アンケート集計結果(別冊:学生による授業アンケート集計報告書・令和3年度参照)

### ①教員側の集計結果の活用

#### i.講義・演習

看護学科も専攻科も、教員個々の担当科目は3ポイント以上獲得している、このことから教員は授業改善に努めていると考えられる。2016年度からは教員個々が担当科目(または単元)の中で最も評価が低かったものについて、その内容を分析し、次年度に向けて具体的な改善策を考え指定の用紙に記述し、年度初めに学科長、専攻科長に提出している。そして今年度の授業改善計画も立案し提出している。さらに、2020年度から全教員がティーチングポートフォリオを作成し提出した。教員個々が自己の教育活動をエビデンスに基づいて内省することにより、一層の授業改善がなされている。

#### ii.臨地実習

看護学科と専攻科の臨地実習について、学生による授業評価アンケートを実施した結果、どの実習科目も、平均3ポイント以上の満足度を示している。唯一、3ポイントに満たなかった項目は、

看護学科の科目【基礎看護実習Ⅰ】の「記録物の量は適切であった」(2.9)、「事前課題の提示の時期・量は適切であった」(2.8)であった。看護学科の基礎看護実習Ⅰは、1年次で初めて履修する臨地実習であるため、事前学習や記録の書き方等の学習方法が身につけていないことから満足度が若干低くなったのではないかと考えられる。2年次から3年次へと学年が進むにつれてポイントはアップしていることから、学習内容が深まり人間的にも成長するにつれて、学生は自分なりの学習方法を見いだせるようになり、満足度がアップしたのではないかと考えられる。今後も学生の満足度が高められるように、レディネスに応じた指導内容と方法を工夫していく必要がある。

### ②集計結果の学生側の活用(詳細は p.102-103 参照)

看護学科は2019年度から、学生自身が自己の学習態度を定期的に内省し、見出した自己の課題の解決に活用するという目的で、年に2回、自己評価を実施してきた。その結果は学習成績管理ファイルに綴じてアドバイザーへ提出することにより助言を受けられるようになっている。関わったアドバイザーと学生の反応から実際の活用状況をみると、GPAが低い学生は、自己評価が具体的に記載できず活用できずにいる様子が見られた。しかし、自己評価は学生が自己の学習態度を振り返り、改善策を考える機会になっていると考えられる。

## (3)3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)をふまえた教育活動の適切性

①学外(毛呂山町教育委員会)の評価者より点検を受けた結果、「適切である」との評価を得た。

②学生参画による点検・評価は今年度で4回目であった。看護学科の1、2年次生(3年次生は臨地実習のため欠席)及び専攻科のクラス委員が出席し、自己点検・評価委員と協議した。その結果、施設・設備面では「教室、学修ホールの設備改善、特にWi-Fi環境の整備」、「照明の改善」、「視聴覚機器の改善」等の課題が明らかになった。また、学習方法や学習支援では「教材の提示の仕方」、「事前学習の課題の提示時期」、「出席確認の方法」、「技術指導の統一」等が課題としてあげ

られた。さらに、新型コロナウイルス感染症対策の問題として「アルバイト」や「食事場所」が課題としてあげられた。

協議の内容は全学掲示板で全学生と教職員に周知した。「設備の改善」については、短大の予算の関係もあり、即、改善できないものがあるが、優先度を考えて、すぐにでも改善可能なものから対処することになった。学習方法・学習支援に関しては、「教材作成の工夫をする」、「事前学習課題の提示時期を早めにする」、「教員間で指導内容を確認する」等で対処することになった。また、感染対策として学生部と検討し、「アルバイトの制限と条件」について指導することになった。食事場所については、学内の限られた場所を有効に活用し、看護学科は学年毎に昼食場所を設定し密を避けるように工夫した。

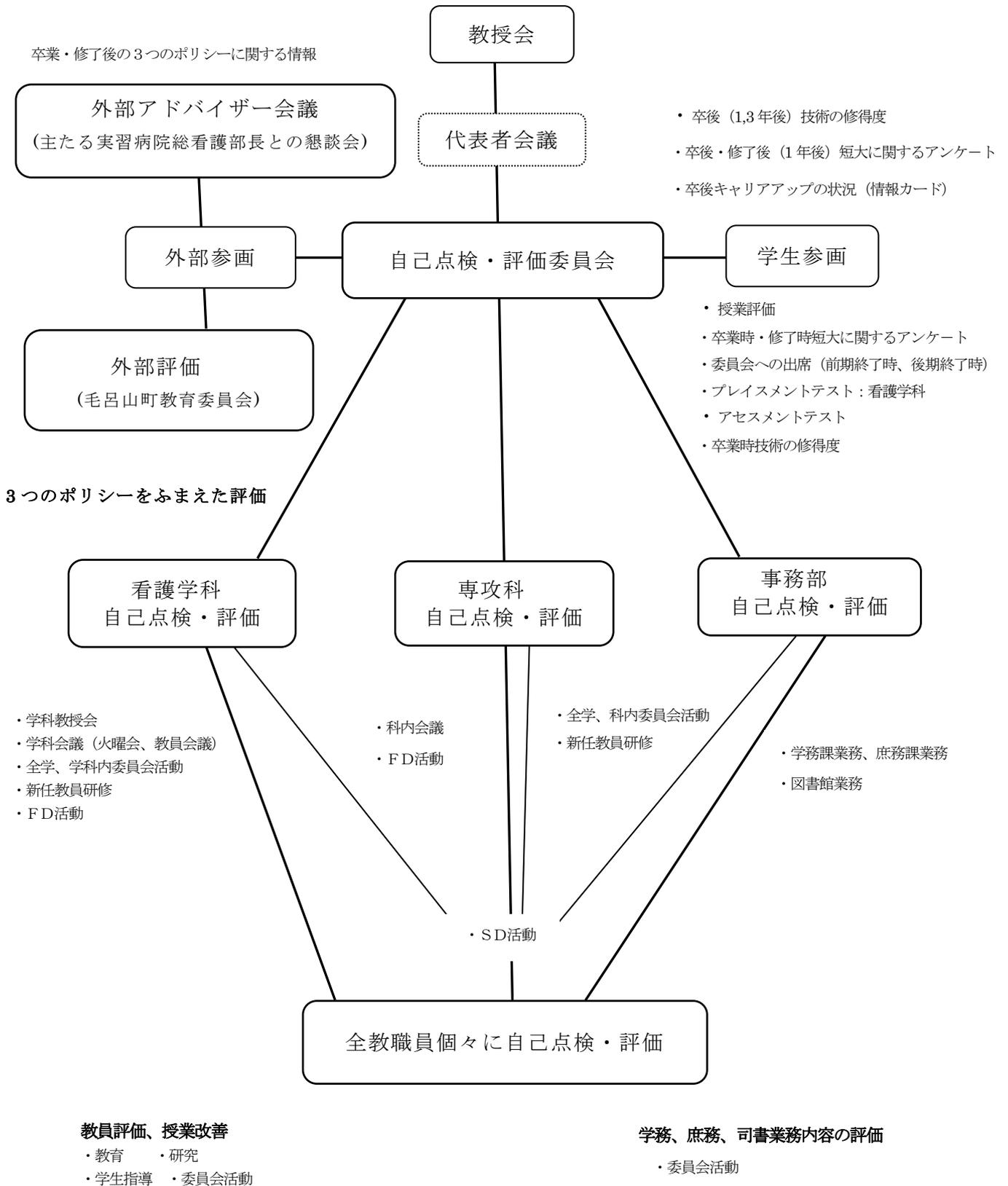
③外部アドバイザーとの情報交換を随時おこなった。特に新型コロナウイルス感染症対策に関連した臨地実習の方法に関する情報交換が多かった。コロナ禍の影響で臨地実習の方法が変化していることから、看護技術の目標達成度が低くなっているのではないかと懸念され、基礎教育と卒後教育の連携の大切さを再確認した。

#### Action

- (1)2022 年度の自己点検・評価報告書を発刊
- (2)学生による授業評価アンケートの実施、集計結果、報告書の発刊
- (3)2021 年度卒業生・修了生の卒業時・修了時の本学に関するアンケート結果の分析、報告
- (4)2020 年度卒業生・修了生の卒業後・修了後 1 年目の本学に関するアンケート実施、集計、分析、報告
- (5)看護学科は授業評価アンケート集計結果(学習態度)を学生が十分活用できるようにする。また、専攻科は自己評価した結果を学生自身が分析できるような用紙を作成し活用する。
- (6)ディプロマポリシー(学修成果)を学生に意識づけられるようにする。
- (7)3 つのポリシーをふまえた教育活動の適切性について学外および学生参画による点検・評価の実施
- (8)外部アドバイザー会議の充実



【本学における自己点検・評価体制】



## 2)自己点検・評価の担当部門一覧

平成3年大学審議会答申による自己点検・評価項目について、本学における本年度の担当部門を教授会の議を経て下表のように決定した。なお、どの項目についても事務部が関与・協力するものとする。

自己点検・評価項目	担当部門
1. 教育理念及び目的に関すること 短期大学（学科）の教育理念・目標の設定 教育理念・目標の点検・見直し 短期大学（学科）の将来構想 教育研究の活性化・充実のためのこれまでの取組み	自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科
2. 教育活動に関すること 1)学生の受入れ (1)学生募集・入学者選抜の方針・方法 (2)学生定員充足状況	広報部委員会，入試委員会 入試委員会，事務部
2)学生生活への配慮 (1)奨学金制度・授業料免除の状況 (2)学生生活相談 (3)課外活動 (4)保健管理	事務部，教務委員会 学生部委員会 学生部委員会，各学科 保健管理委員会
3)カリキュラムの編成 (1)カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係 (2)基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (3)専門基礎教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (4)専門教育の内容とカリキュラム全体における位置付け (5)カリキュラムの編成及び見直しの方法・体制	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
4)教育指導の在り方 (1)科目ごとの授業計画の作成状況 (2)カリキュラムガイダンスの実施状況 (3)クラスの大きさ、編成方法 (4)教員1人当たりの授業時間数 (5)各授業科目担当者間での授業内容の調整 (6)演習・実験等の実施状況 (7)視聴覚教育の実施状況 (8)他大学・短大等との単位互換の方針と状況 (9)編入学希望者への指導状況 (10)職業資格取得に係る指導状況・取得状況 (11)進級状況（留年・休学・退学）	教務委員会 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 教務委員会，各学科 各学科 各学科 各学科
5)教授方法の工夫・研究 (1)教授方法の工夫・研究のための取組み (2)教員の教育活動に対する評価の工夫 (3)成績評価・単位認定	自己点検・評価委員会 自己点検・評価委員会 教務委員会
6)卒業生の進路指導 (1)職業指導及び就職状況 (2)卒業生の大学への編入学状況	各学科 各学科
3. 研究活動に関すること 1)構成員による研究成果の発表状況 2)研究誌の発行状況と編集方針 3)共同研究の実施状況 4)研究費の財源 5)研究費の分配方法 6)学会活動への参加状況	各学科 紀要委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 研究審議委員会 各学科

4. 教員組織に関すること 1)専任教員・非常勤講師の配置状況 2)教育補助者・研究補助者の配置状況 3)出身大学の構成 4)年齢構成 5)採用・昇進の手順・基準 6)教員の兼職の方針と状況 7)教員人事についての長期計画	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
5. 施設設備に関すること 1)施設設備の整備 2)図書館の利用状況 3)学術情報システムの整備・活用状況	事務，防災委員会 図書館運営委員会 情報ネットワーク委員会
6. 国際交流に関すること 1)留学生の受入れ状況・指導体制 2)在学生の海外留学・研修（研修旅行）の方針と状況 3)教員の在外研究の方針と状況 4)海外からの研究者の招致状況 5)海外の短大との交流協定の締結状況・活用状況	各学科 各学科 各学科 各学科 各学科
7. 生涯学習への対応に関すること 1)公開講座の開設状況 2)生涯学習センターの設置・活動状況 3)社会の生涯学習事業に対する連携協力状況	各学科 各学科 事務
8. 社会との連携に関すること 1)教員の学外活動状況 2)学外の意見を教育研究に反映させる仕組み	各学科 各学科
9. 管理運営・財政に関すること 1)教育研究に関する意志決定の方法・体制 2)事務組織 3)予算の編成と執行の方針と状況 4)学外資金の導入状況	事務部，研究審議・紀要委員会 事務部 事務部 事務部
10. 自己評価体制に関すること 1)自己評価を行うための学内組織 2)教育研究活動等の公表 3)評価をフィードバックするための仕組み	自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科 自己点検・評価委員会，各学科

### 3)教員評価への取り組み

#### Plan

2015年7月より発足した専門部会“教員評価企画部会”は質の高い教育を目指すために、教員が自ら教育活動を見直し、主体的に改善していくとともに、教員の能力を的確に把握することによって、計画的な人材育成を実現し、組織の活性化を図るという教員評価の目的を達成するために活動している。

年間目標：(1)昨年度の活動の評価結果を全教員にフィードバックする。(2)自己評価、他者評価の総合点の最高得点者1～2名を表彰する。(3)実施要領の見直しを行いながら引き続き教員評価を実施する。

#### Do

企画部会は2回開催した。活動した内容は次の通りである。

- (1)令和 2 年度（2020 年度）の評価結果を全教員へフィードバックした。
- ・全教員の評価項目の得点の平均点をグラフ化し、全教員に電子メールで配付し説明した（図 1）。
- (2)自己評価と他者評価の総合点の最高得点者 2 名について“埼短賞”として副賞を添えて表彰した。  
（表彰状、図書カード 1 万円分）

## Check

- (1)2020 年度の全教員の活動内容全項目の平均得点は 152.3 点(得点率 76.2%)の到達度であった。  
昨年度の平均得点 155.3 点（得点率 77.7%）と比べ若干低くなっている。毎年、教員のメンバーが数名、替わっているので一概に比較はできないが、過去 6 年間の平均得点率（表 4、平均得点率）と比較してみても大きな差はなくほぼ例年並みであった。概ね良好な活動状況であると考ええる。

表 4. 年度別平均得点率

年度	2015 (H.27)	2016 (H.28)	2017 (H.29)	2018 (H.30)	2019 (R.1)	2020 (R.2)	6 年間 平均
得点率(%)	77.1	78.5	77.9	74.7	77.7	76.2	77

- (2)項目別では社会活動の平均得点が低くなっている。これは、コロナ禍の影響で研修会等が開催されず、外部からの講師依頼等が減少したこと、感染対策としてボランティア活動を自粛していたことが要因と考えられる。
- (3)教育活動はコロナ禍の中、急遽、時間割の変更や遠隔授業が導入されたが、各教員は臨機応変に対応し、平均得点 8.0 以上を獲得している。
- (4)研究活動は例年の傾向と変わらずやや低迷傾向にある。教育活動、学生指導を中心に、組織運営上の活動を行う中では、時間の確保等が難しく、思うような研究活動ができにくかったのではないかと考えられる。  
今後も基礎学力の低下、生活経験の希薄さからくる技術修得の困難、人間関係がつかれない等の問題を抱える学生が多くなることが考えられ、ますます学生指導に多くの時間を要することが予測される。したがって教員個々は自己の働き方を見直しながら、限られた時間を有効に活用し、大学教員としての責務である教育研究活動（教育活動、学生指導、研究活動）を中心に、組織運営活動や社会活動も積極的に遂行していく必要がある。
- (5)一次評価後、結果を個別にフィードバックできるように希望者との面接を設定したが、期間内に面接を希望した教員はいなかった。処遇に直接反映されないためか、他者評価の必要性に関する意識が低いためか明確ではない。より客観的に自己の活動内容をふりかえるためにも、フィードバックシステムを積極的に活用できるようにしていく。
- (6)今年度も自己評価と他者評価の総合得点が高かった上位 2 名の教員に対して、副賞を添えて表彰した（埼短賞）。新型コロナウイルス感染症対策のために、表彰式には全教員が立ち会うことができなかったがメールで全教員に周知した。“埼短賞”を贈ることについては、活動の貢献度に対す

る顕彰と、さらにモチベーションをアップし、組織の活性化を図るといふねらいがある。これまでに受賞した教員のモチベーションにどのような影響を及ぼしているかについての検証が必要である。

(7)教員評価の目的の1つである「主体的に教育活動を見直して改善している」の達成度を測定する方法として、今年度も学生の授業評価結果を基に「授業改善策」を全教員が提出した。この結果をみると、教員それぞれが、自己の授業内容を省察しており、工夫しながら授業を実施していることが明確になった。

改善策を実施した結果については、自己分析し所定の用紙に記述して提出している。また、令和2年からは、全専任教員がティーチングポートフォリオを作成し自己の教育活動を考察している。これによりさらに授業改善がなされると考える。

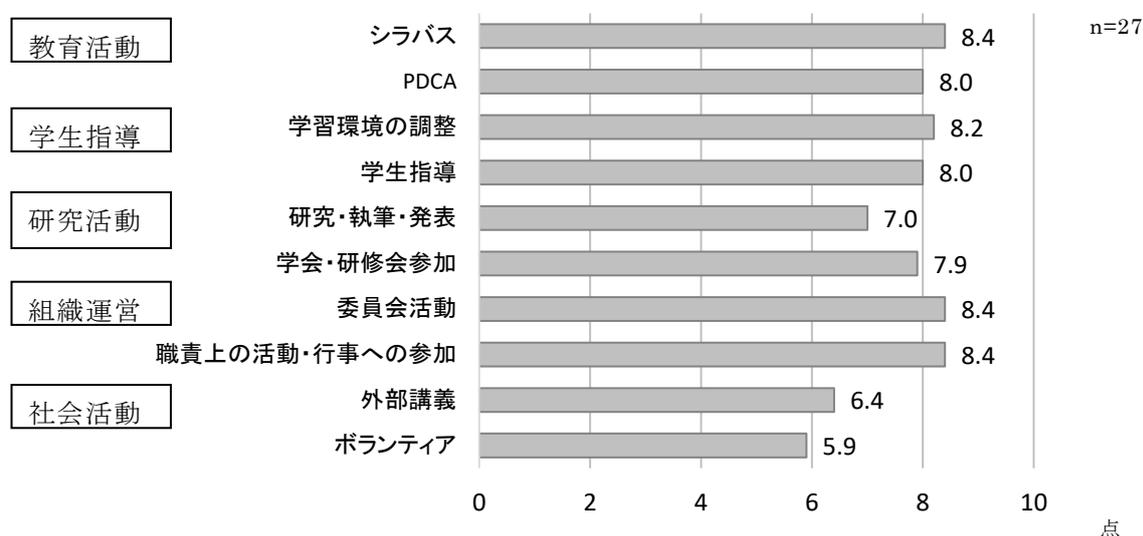


図1. 令和2年度 教員のための振り返りシート集計結果

## Action

教員評価の目的・方法をふまえた内容を検証していく。

- (1)教員の能力を的確に把握し、計画的な人材育成につながっているか。
- (2)組織は活性化しているか。
- (3)表彰の効果
- (4)ティーチングポートフォリオの活用と評価



看護学科

卒業生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(卒業後1年:R3.5)

		看護
卒業者数	101	
回収数	73	
回収率(%)	82.3	
<b>I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。</b>		
1. 専門的な知識・技術と共に人間性を育みながら実践している。	4.0	
2. 看護師として自ら学び、努力している。	4.2	
3. 他者への労り、奉仕心を持って実践している。	4.2	
4. 先輩・後輩（学生）とともに学ぶ気持ちを持って実践している。	4.1	
<b>II. 当短期大学看護学科「学修成果」は現在、身につけていますか。</b>		
5. 社会の変化に対応できる能力が身についた。	3.8	
6. 人間を総合的に理解できる能力が身についた。	3.8	
7. 科学的な思考ができる能力が身についた。	3.6	
8. 専門的な知識・技術・態度を統合して看護実践できる能力が身についた。	3.6	
9. 保健医療福祉チームメンバーとして地域に貢献する能力が身についた。	3.5	
10. 看護師としての自己成長を促す能力が身についた。	3.8	
<b>III. 当短期大学看護学科の「学習環境・学生生活」について現在はどう思いますか。</b>		
11. 3年間の授業は順序立てた構成であり、科目間の関連が理解しやすかった。	3.4	
12. 「科学的思考の基盤」・「人間と生活・社会の理解」の科目（心理学、社会学、情報科学、英語、体育実技 等）は役に立っている。	3.0	
13. 講義、演習、実習の評価は公平だった。	3.4	
14. 臨地実習の指導体制は今の自分に良い影響を及ぼしている。	3.7	
15. 短大で身につけた学習方法は役立っている。	3.7	
16. 教員、司書、事務職員の対応は現在参考になっている。	3.4	
17. 在学当時の友人と悩みを相談したり励ましあったりしている。	4.2	
18. 在学中に出会えた看護専門職業人をモデルとして働いている。	3.2	
19. 卒業後も困った時に教員、司書、事務職員に相談しよう（したい）と思う時がある。	2.6	
20. 当短期大学の施設・設備は充実していた（教室、図書館、コンピューター室、実習器具 等）。	3.0	
21. 勉学以外の部活・ボランティア・委員会活動は役立っている。	2.8	
22. 学生生活は有意義だった。	3.5	
23. 当短期大学で学べて良かった。	3.7	





## 専攻科修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

対象：平成専攻科 令和元年3月修了生（令和3年5月実施）

目的：当短期大学専攻科で学んだこと、身についたことが助産師として働くうえで活かされているかを知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了した当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

### I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。
3. 助産師として自ら学び、研鑽している（研究、研修会・学会参加、社会貢献等）。
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。
5. 先輩・後輩（学生）とともに学んでいる。

### II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができています。
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができています。
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができています。
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。
13. 社会資源を活用し、他職種と協働・連携ができています。
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができています。
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。

### III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

16. カリキュラムは系統だった。
17. 授業科目は役に立った。
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
20. 学生生活は有意義だった。
21. 専攻科で学んでよかった。

修了生による当短期大学に関するアンケート集計結果

(修了後1年:R3.5)

(5 : そう思う 4 : やや思う 3 : どちらとも 2 : やや思わない 1 : 思わない) として点数化		専攻科	
		修了者数	20
		回収数	13
		回収率(%)	65.0
<b>I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。</b>			
1. 知識・技術・態度を活用して助産ケアを実践している。		4.0	
2. 修了時に明確になった自己の母子看護観・倫理観を持って助産ケアをしている。		4.0	
3. 助産師として自ら学び、研鑽している(研究、研修会・学会参加、社会貢献等)。		3.7	
4. 他者への労り、奉仕心を持って常に助産ケアを実践している。		4.5	
5. 先輩・後輩(学生)とともに学んでいる。		4.5	
<b>II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。</b>			
6. 生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って行動している。		4.1	
7. 「助産師の倫理綱領」に沿った行動ができている。		4.1	
8. 社会情勢の変化を的確にとらえることができている。		3.7	
9. 生涯学習を行い自己研鑽ができている。		3.8	
10. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援している。		3.8	
11. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めている。		3.9	
12. 科学的思考を持ち総合的に判断している。		3.9	
13. 社会資源を活用し、他職種と協働・連携ができている。		3.8	
14. 保健医療福祉チームの一員として連携・協働することができている。		4.0	
15. 地域貢献の為に、自律的に学習を継続している。		4.1	
<b>III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。</b>			
16. カリキュラムは系統だった。		3.9	
17. 授業科目は役に立った。		4.1	
18. 臨地実習の指導体制は整っていた。		4.2	
19. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.5	
20. 学生生活は有意義だった。		4.4	
21. 専攻科で学んでよかった。		4.4	

## 専攻科修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート

対象：専攻科 令和3年度修了生（令和4年3月実施）

目的：修了生から当短期大学専攻科に対する意見を知り、教育や学習環境のさらなる向上を図る。

あなたが修了する当短期大学に関して、下記の質問に1～5でお答え下さい。

5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない

### I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。

1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。
5. 同級生とともに学ぶことができた。

### II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。

6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。
7. 倫理観を持った行動ができた。
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。

### III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。

15. カリキュラムは系統だった。
16. 授業科目は役に立った。
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書館、コンピューター室等)。
20. 演習時の物品は充実していた。
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。
25. 学生生活は有意義だった。
26. 専攻科で学んでよかった。
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。

修了生による当短期大学専攻科に関するアンケート集計結果

(修了時：R4.3)

(5：そう思う 4：やや思う 3：どちらとも 2：やや思わない 1：思わない) として点数化	専攻科	
	修了者数	19
	回収数	19
	回収率(%)	100
<b>I. 当短期大学の「建学の精神」についてお聞きします。</b>		
1. 助産ケアに必要な知識・技術・態度が身についた。		4.3
2. 自己の母子看護観・倫理観が明確になった。		4.0
3. 助産師として自ら学び、努力する姿勢が身についた。		4.4
4. 他者への労り、奉仕心が身についた。		4.5
5. 同級生とともに学ぶことができた。		4.6
<b>II. 当短期大学専攻科の「修了時の特性」についてお聞きします。</b>		
6. 生命に対する畏敬の念と人類愛を持つことができた。		4.2
7. 倫理観を持った行動ができた。		4.3
8. 社会情勢の変化をとらえることができた。		4.1
9. 女性の一生と家族のライフサイクルの健康を支援することができた。		4.1
10. 高度周産期医療に対する知識・技術を高めることができた。		3.9
11. 科学的思考を持ち総合的に判断することができた。		3.9
12. 社会資源を活用し、他職種との協働・連携が理解できた。		4.1
13. 保健医療チームの一員として連携・協働することができた。		3.9
14. 臨床場面で得た母子看護学の課題を研究する姿勢が身についた。		3.3
<b>III. 当短期大学専攻科の「学習、学生生活」についてお聞きします。</b>		
15. カリキュラムは系統だった。		3.9
16. 授業科目は役に立った。		4.0
17. 講義、演習、実習の評価は公平だった。		3.7
18. 教員、司書、事務職員の対応は適切だった。		3.8
19. 当短期大学の施設・設備は充実していた(講義室、図書館、コンピューター室等)。		3.3
20. 演習時の物品は充実していた。		3.7
21. 臨地実習の指導体制は整っていた。		3.9
22. 学内および実習施設で職業人としてモデルになる人に出会えた。		4.0
23. 国家試験対策は主体的に取り組めた。		4.3
24. 在学中、悩みを相談したり励ましあったりできる友人に出会えた。		4.5
25. 学生生活は有意義だった。		4.5
26. 専攻科で学んでよかった。		4.6
27. 専攻科での1年間は自己成長につながった。		4.7

## II 教育課程と学生支援

### 1. 教育課程

1)卒業判定・学位授与、修了認定

#### 看護学科

(1) 卒業要件

授業科目の区分		履修単位	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	2 単位以上	16 単位以上
	社会科学	2 単位以上	
	自然科学	2 単位以上	
	外国語	4 単位以上	
	体育	1 単位以上	
小 計		16 単位以上	
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進		14 単位	
健康支援と社会保障制度		7 単位	
小 計		21 単位	
看護の基本	基礎看護学	13 単位 (3)	64 単位以上
ライフサイクルと 生活の場に応じた 看護の方法	成人看護学	12 単位 (6)	
	老年看護学	7 単位 (4)	
	精神看護学	5 単位 (2)	
	在宅看護学	5 単位 (2)	
	小児看護学	5 単位 (2)	
	母性看護学	5 単位 (2)	
看護の総合	看護の総合	12 単位以上 (2)	
小 計		64 単位以上 (23)	
合 計		101 単位以上	

( ) は実習単位

(2) 資格取得

看護師国家試験受験資格，保健師・助産師学校の受験資格，大学への編入学の受験資格

#### 専攻科 母子看護学専攻

(1) 修了要件

授業科目の区分	履修単位数
専門科目	31単位以上
合 計	31単位以上

## (2) 資格取得

助産師国家試験受験資格

受胎調節実地指導員認定講習終了資格

新生児蘇生法普及事業における NCPR 講習会 (A コース) の受験、申請資格

\*上記の資格保有者はインストラクター補助の申請資格

## 2)学修成果

### (1)成績評価

#### Plan

- ①シラバスに記載された成績評価方法及び成績評価基準に沿って成績評価を行う。
- ②成績評価方法及び成績評価基準は、科目責任者が授業内で説明する。
- ③成績評価は S・A・B・C・D の 5 段階で表し、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。
- ④看護学科領域別看護実習の態度について、統一したルーブリック評価表を用いて評価する。

#### Do

対面と一部オンラインで授業を実施し、Plan に沿って科目の成績評価を行った。領域別看護実習の態度のルーブリック評価を基に、基礎看護実習のルーブリック評価表を検討した。

#### Check

成績評価は、小テストやレポート等の授業内試験、実技試験や筆記試験を行う定期試験、学習態度等、多様な方法で行われた。一部の科目では学習管理システム WebClass を活用した試験を実施した。試験結果は感染対策を考慮した方法（分散、個別、WebClass の活用等）でフィードバックを行った。オンライン授業を実施した科目の中には、十分な学習を積み重ねることができず不合格となった学生もいた。フィードバックや補講を実施した後に再試験として筆記試験やレポート等を実施したが、成績不振となる学生がみられた。領域別看護実習の態度評価については、評価を判断しにくい評価基準があった。

#### Action

成績評価は、多様な成績評価方法で行っている。今後は科目間で形成的評価の時期を確認し、課題や小テストの重複による学生への負担に配慮する。感染状況により急遽、授業方法や試験方法を変更せざるを得ない状況になった場合、学生が不利にならないような対応を検討する。領域別看護実習の態度評価の評価基準は表現や評価の内容を検討し、次年度に向けて一部変更した。

(2)留年・退学・休学・復学・除籍者数：令和3年4月1日～令和4年3月31日

	留年*			退学			休学			復学			除籍		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
看護学科	0	0	10	1	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
専攻科	1	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—

\*留年は令和3年度末に決定した者

(3) 卒業生数・修了者数（令和4年3月卒業・修了者）

看護学科 卒業生： 90名

専攻科 母子看護学専攻 修了者： 19名

(4) 国家試験合格状況

看護学科：看護師国家試験（令和2年3月～令和4年3月卒業生；括弧内は合格率%）

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第109回（令和2年）	101	94(93.1)	5	2(40.0)	106	96(90.6)	(89.2)
第110回（令和3年）	106	98(92.5)	9	4(44.4)	115	102(88.7)	(90.4)
第111回（令和4年）	90	88(97.8)	12	8(66.7)	102	96(94.1)	(91.3)

専攻科 母子看護学専攻：助産師国家試験（令和2年3月～令和4年3月修了者；括弧内は合格率%）

	新卒者		既卒者		新卒+既卒		全国合格率
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	
第103回（令和2年）	19	19(100)	—	—	19	19(100.0)	(99.4)
第104回（令和3年）	20	20(100)	—	—	20	20(100.0)	(99.6)
第105回（令和4年）	19	19(100)	—	—	19	19(100.0)	(99.4)

(5) 就職状況

看護学科（令和3年度卒業生 就職状況：令和4年3月31日現在）

就職先		人数
埼玉医科大学関連病院	埼玉医科大学病院	81
	埼玉医科大学国際医療センター	
	埼玉医科大学総合医療センター	
	埼玉医療福祉会	
外部病院		2
進学		7
合計		90

母子看護学専攻科（令和3年度修了生 就職状況：令和4年3月31日現在）

就 職 先	人 数
埼玉医科大学関連病院	14
県内他病産院	1
県外病産院	4
合 計	19

(6) 卒業生の大学等への進学状況

看護学科（令和3年度に進学する者；令和4年3月1日現在：学科で把握している者のみ）

進学先	助産師養成	保健師養成	合計
人数	7	0	7

3)教育課程編成・実施

(1) 学年暦 看護学科・専攻科

日時	看護学科	日時	専攻科
4月 3日 (土) 5・6・7・8日 (月・火・水・木) 6日 (火) 7日 (水) 8日 (木) 9日 (金) 12日 (月) 13日 (火)	入寮説明会 (入寮1年) 前期オリエンテーション 防災訓練 (3年) 入学式 防災訓練 (1,2年) 前期授業開始 (1,2年) 領域別看護実習開始 (3年: 11/20まで) 模擬試験	4月 6日 (火) 7日 (水) 8日 (木) 9日 (金)	オリエンテーション 入学式 防災訓練・オリエンテーション 授業開始
5月 4日 (火) 7日 (金) 12日 (水) 13日 (木) 29日 (土)	創立記念日 健康診断 (3年) 健康診断 (2年) 健康診断 (1年) 第1回オープンキャンパス (WEB)	5月 13日 (木) 24日 (月) 27日 (木)	健康診断 前期試験① 前期実習オリエンテーション
6月 1日 (火)	模擬試験	6月 4日 (金)	前期周産期援助実習5日間 (6/4,11,18,23,30)
7月 9日 (金) 10日 (土) 11日 (日) 29日 (木)	基礎看護実習 I (1年) 第3回オープンキャンパス (WEB) 第4回オープンキャンパス (WEB) 前期授業終了 (1,2年)	7月 3日 (土) 4日 (日) 5日 (月) 10日 (土) 12・13日 (月・火) 19日 (月) 19・20日 (月・火) 26日 (月)	第20回日本母子看護学会 (WEB学会) 第20回日本母子看護学会 (WEB学会) 後期実習オリエンテーション① 第1回オープンキャンパス (WEB) 前期試験② 新生児援助実習 (NICU見学) (7/19,20,21) 第1回模擬試験 地域母子保健実習:8/6迄3施設で実施
8月 2日 (月) 8日 (日) 10日 (火) 16日 (月) 22日 (日) 23日 (月)	前期試験開始 8/7まで 夏季休業 (8/15まで) 模擬試験 試験予備期間 8/16~21 第5回オープンキャンパス (WEB) 基礎看護実習 II①(2年) 9/4まで	8月 22日 (土) 23日 (月)	第2回オープンキャンパス (WEB) 後期分娩期援助実習 (一部施設開始)
9月 6日 (月) 21日 (火) 22日 (水) 25日 (土) 27日 (月)	基礎看護実習 II②(2年) 9/18まで 後期オリエンテーション 後期授業開始 (1,2年) 模擬試験 総合実習(3年) 11/20まで	9月 6・7日 (月・火) 8日 (水) 13日 (月)	前期試験③ 後期実習オリエンテーション 9/9まで 後期実習開始 12/10まで ☐ 周産期援助実習 分娩期援助実習 ☐ 新生児援助実習 助産管理実習
10月 16日 (土) 23日 (土)	遥光祭 (WEB) 第6回オープンキャンパス (WEB)	10月	第2回模擬試験
11月 6日 (土) 20日 (土)	模擬試験 宣誓式・領域別看護実習・総合実習終了	11月 25日 (木)	帰校日 第3回模擬試験
12月 9日 (木) 11日 (土) 17日 (金) 20日 (月) 27日 (月)	補習講義 12/24まで 模擬試験 後期授業年内終了 基礎看護実習 I (1年) 12/25まで 冬期休業 1/3まで	12月 1日 (水) 11日 (金) 27日 (月)	地域母子保健実習 (変更分; 12/24迄) 後期実習終了 助産管理実習のまとめ 冬季休業開始
1月 4日 (火) 5日 (水) 20日 (木) 26日 (水) 31日 (金)	後期授業開始 模擬試験 模擬試験 後期授業終了 後期定期試験 2/5まで	1月 5日 (水) 7日 (金) 18日 (木) 26日 (水)	始業(対面授業) 第4回模擬試験 補習講義 (1/21迄遠隔授業) 第5回模擬試験 後期試験

2月 7日 (月) 13日 (日)	試験予備期間 2/14まで 第111回国家試験	2月10日 (木)	第105回助産師国家試験
3月 5日 (土) 6日 (日) 25日 (金)	卒業式 学年末休業 3/27まで 第111回看護師国家試験発表	3月 5日 (土) 25日 (金)	修了式 第105回助産師国家試験合格発表

## (2) 授業科目一覧

## ① 看護学科 授業科目

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間					
		必修	選択	講義	演習	実 習	1 年次		2 年次		3 年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	人文科学	哲 学		2	○				30			
		心理学Ⅰ（心理学概論）		2	○				30			
		心理学Ⅱ（現代社会と心理学）		1	○					15		
		論 理 学		2	○					30		
		文 学		2	○					30		
	社会科学	社 会 学		2	○			30				
		法 学		2	○				30			
		教 育 学		2	○			30				
		統 計 学		2	○				30			
	自然科学	物 理 学		2	○			30				
		化 学		2	○			30				
		生 物 学		2	○				30			
		情報科学		2	○				30			
	外国語	英語Ⅰ（コミュニケーション）	2			○		30	30			
		英語Ⅱ（リーディング）		2		○			30	30		
		ドイツ語		2		○			30	30		
	体育	体育実技Ⅰ（健康スポーツ）	1				○	30				
		体育実技Ⅱ（生涯スポーツ）		1			○		30			
	小 計		3	30				180	150	210	75	

(看護学科)

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間					
		必修	選択	講義	演習	実 技	1 年次		2 年次		3 年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期
疾病の成り立ちと回復の促進 人体の構造と機能	解剖学	2		○			30	30				
	生理学	2		○			30	30				
	生化学	1		○			30					
	微生物学	1		○			30					
	薬理学	1		○				30				
	病理学	1		○				30				
	疾病総論	1		○				30				
	疾病治療論Ⅰ (循環器・呼吸器疾患等の病態生理・内科的治療)	1		○					30			
	疾病治療論Ⅱ (血液・神経疾患等の病態生理・内科的治療)	1		○						30		
	疾病治療論Ⅲ (外科的治療の基礎)	1		○				30				
	疾病治療論Ⅳ (消化器・運動器疾患等の病態生理・外科的治療)	1		○					30			
	成育医療論	1		○					30			
社会保障制度 健康支援と	公衆衛生学	2		○					30			
	社会福祉	2		○						30		
	関係法規	1		○						15		
	健康と栄養	1		○			15					
	健康と運動	1		○				15				
小 計		21					135	195	120	75		

## (看護学科)

授業科目の区分		単位数		内 訳			学年配当時間						
		必修	選択	講義	演習	実技・実習	1年次		2年次		3年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	
看護の基本	基礎看護学	看護概論	2		○			30					
		看護の方法Ⅰ（看護実践の基礎）	2		○			60					
		看護の方法Ⅱ（日常生活行動への援助）	2		○			52	8				
		看護の方法Ⅲ-1（診断・治療過程における援助）	2		○				60				
		看護の方法Ⅲ-2（治療過程における援助）	1			○				30			
		看護の方法Ⅳ（看護過程）	1			○				30			
		基礎看護実習Ⅰ（実践をととした看護の役割）	1				○	5	40				
		基礎看護実習Ⅱ（対象の基本的欲求の状態に応じた生活行動への援助）	2				○			90			
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	成人看護学	成人看護概論	1		○			15					
		成人看護Ⅰ（急激な変化への援助）	2		○				60				
		成人看護Ⅱ（長期的な経過への援助）	1		○					30			
		成人看護技術Ⅰ（健康障害をきたした対象への援助）	1			○				30			
		成人看護技術Ⅱ（実践に即した援助）	1			○						30	
		成人看護実習Ⅰ（手術を受ける患者の看護）	3				○					135	
		成人看護実習Ⅱ（長期的な経過・最期の時を過ごす患者の看護）	3				○					135	
	老年看護学	老年看護概論	1		○				15				
		老年看護Ⅰ（健康支援と健康障害時の援助）	1		○					30			
		老年看護Ⅱ（高齢者の援助技術）	1		○						30		
		老年看護実習Ⅰ（病院に入院している高齢者の看護）	2				○					90	
		老年看護実習Ⅱ（介護保険施設に入所している高齢者の看護）	2				○					90	

精神看護学	精神看護概論	1		○			15				
	精神看護Ⅰ（精神の病態・診断・治療過程）	1		○				30			
	精神看護Ⅱ（精神状態に応じた援助）	1		○					30		
	精神看護実習	2			○					90	
ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法	在宅看護学	在宅看護概論	1		○			15			
		在宅看護	2		○				60		
		在宅看護実習	2			○					90
	小児看護学	小児看護概論	1		○			15			
		小児看護Ⅰ（健康児と病児の援助）	1		○				30		
		小児看護Ⅱ（病児の援助・子どもの援助技術）	1		○					30	
		小児看護実習	2			○					90
	母性看護学	母性看護概論	1		○			15			
		母性看護Ⅰ（妊娠前～分娩期の援助）	1		○				30		
		母性看護Ⅱ（産褥期と新生児期の援助）	1		○					30	
		母性看護実習	2			○					90
	看護の総合	看護倫理	1		○			15			
コミュニケーション論		1			○		30				
生涯発達論		1		○		15					
看護管理		1		○					15		
生活習慣と看護		2		○			30				
災害・救急看護		2		○					30		
社会活動			1		○	30					
国際医療福祉事情			1		○			4	26		
看護学セミナー		1			○				30		
看護研究			1		○					45	
総合実習		2			○					90	
小計		63	3			207	243	349	341	810	165
合計		87	33			522	558	679	521	810	165

②専攻科 母子看護学専攻 授業科目

区分	授業科目	単位数		内訳			学年配当時間	
		必修	選択	講義	演習	実習	前期	後期
基礎助産学	助産学概論	1		○			15	
	助産形態・機能学	1		○			30	
	母子健康管理学	1		○			15	
	母子栄養学		1		○		30	
	性行動科学	1		○			15	
	母性の心理・社会学	1		○			15	
	家族社会学	1		○			15	
	乳幼児保健学	1		○			15	
	母子看護学研究Ⅰ（基礎）	1			○		30	
	母子看護学研究Ⅱ（応用）		2		○		60	
小計		8	3				240	
助産診断・ 技術学	妊娠期の助産診断・技術学	2		○			45	
	分娩期の助産診断・技術学	3			○		60	
	産褥期の助産診断・技術学	2			○		45	
	新生児診断学	1		○			30	
	生殖医学の生理と病理	1		○			30	
小計		9					210	
地域母子 保健	地域母子保健学	1		○			15	
小計		1					15	
助産管理	助産管理	2		○			30	
小計		2					30	
臨地実習 助産学実習	周産期援助実習		2			○	90	
	分娩期援助実習	6				○		270
	新生児援助実習		1			○		45
	出産前教育実習		1			○	45	
	地域母子保健実習	1				○		45
	助産管理実習	1				○		45
小計		1					540	
合計		28	7				1,035	

### (3) シラバスの作成状況

#### Plan

- ①2021年度シラバスの修正を学生に伝える。
- ②2022年度シラバスの全科目の記載内容をシラバス検討小委員会で確認し、編集と発行を行う。
- ③学生が主体的・効果的な学習に役立てられるよう、記載事項を見直す。
- ④全教員にシラバス作成上の留意点を周知させる。

#### Do

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業日程や方法の変更について、その都度修正したシラバスを WebClass に掲載した。
- ②シラバス掲載原稿チェックリストを用いて、全科目の記載内容を確認した。
- ③アクティブラーニング型の授業の場合は、授業内容に方法を記載した。準備学習は具体的な内容を記載した。課題に対するフィードバックの方法・時期を記載した。
- ④シラバスの記載要領とチェックリストを1枚にまとめ、活用しやすくした。新任の非常勤講師には別途に口頭で説明した。

#### Check

修正したシラバスと時間割を WebClass に掲載したことで、変更内容について周知することができた。シラバス検討小委員会でシラバス原稿を確認したところ、記載事項の不足等があり、科目責任者に修正を依頼した。編集と発行のスケジュールは予定通り進められた。

#### Action

シラバスや時間割の訂正の周知については、WebClass の活用を継続する。シラバスの準備学習等の活用については、授業評価アンケート（学習態度）結果や成績評価から振り返り、記載事項を検討する。

### (4) 教育指導

#### 看護学科

- ①カリキュラムに関する計画と実施状況

#### Plan

- i .カリキュラムの見直し
- ii .カリキュラムの運用
- iii .時間割作成の見直し
- iv .看護実践力の実態把握（卒業時、1年後、3年後に調査）
- v .「教育課程（2009年4月1日実施）」の見直し

## Do

### i.カリキュラムの見直し

本学は、平成元年4月開学時のカリキュラムの卒業要件は103単位以上の修得であった。その後、平成9年度の改正、平成11年度一部改正、平成15年度の改正、平成19年度一部改正、平成20年度の改正の5回にわたりカリキュラムの改正を行ってきた。平成20年度改正（平成21年度から実施）の現行カリキュラムの卒業要件は101単位であり、指定規則と本学の教育内容の対比の概要は、下記の表に示す（詳細については、平成21年度～平成26年度自己点検・評価報告書を参照）。

指定規則		本学
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	科学的思考の基盤，人間と生活・社会の理解
専門基礎 分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能，疾病の成り立ちと回復の促進
	疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度	健康支援と社会保障制度
専門分野Ⅰ	基礎看護学（臨地実習を含む）	看護の基本（臨地実習を含む）
専門分野Ⅱ	成人，老年，小児，母性， 精神看護学 （それぞれ臨地実習を含む）	ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法 （成人・老年・小児・母性・精神・在宅看護学） （それぞれ臨地実習を含む）
統合分野	在宅看護論 看護の統合と実践 （それぞれ臨地実習を含む）	看護の総合 （臨地実習を含む）

### ii.カリキュラムの運用

今年度も、授業科目の内容と順序についての基本的な考え方をふまえたカリキュラム編成（詳細は、平成21年度～平成26年度自己点検・評価報告書を参照）で運用した。選択科目の履修人数と受講状況を確認した。看護学セミナーは、領域ごとに開講するため、昨年度に引き続き学生選択の方法と領域別の履修人数を再確認した。

### iii.新カリキュラムの構築

2022年度からのカリキュラム改正に向けて新カリキュラム構築準備委員会を発足し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則及び看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの改正案から新カリキュラムに向けた方向性や課題を検討し、教育課程を構築した。それを基に看護学科カリキュラム委員会では、看護実践力の実態（卒業時、1年後、3年後に調査）やアセスメントテストの結果、学生の学習状況の評価等を参考に授業科目の内容を検討した。また、看護の統合科目である「看護技術の統合」、「統合実習」について検討し、学生に獲得してほしい能力と学習

内容、全領域で担当するという方法を確認した。

#### iv. 時間割作成の見直し

時間割は、科目の内容と順序性をふまえ、定められた学年ごとの配当時間にそって作成した。月曜日から金曜日まで 90 分授業で、9:00～16:10 までの 4 時限または、17:50 までの 5 時限の授業を組み入れた。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、遠隔授業と分散登校・対面授業の併用となり、時間割は時系列版で作成し、種々の状況に応じて頻回に変更し運用した。講師の都合で、土曜日に遠隔授業または分散・対面授業を集中して行う科目もあった。それ以外は自己学習ができる時間とした。

#### v. 看護実践力の実態把握

平成 26 年度に「看護技術の教育・指導の概要と到達度」の一覧を、文科省の看護師教育の技術項目と卒業時の到達度を基に見直した。それまでの 7 領域別の技術到達度を、平成 21 年度実施の現行カリキュラム編成の区分に合わせて、「看護の基本」の到達度、「ライフサイクルと生活の場に応じた看護」「看護の総合」の卒業時の到達度について、それぞれⅠ：単独でできる、Ⅱ：指導のもとで実施できる、Ⅲ：学内演習で実施できる、Ⅳ：知識としてわかる、の 4 段階で示した。平成 24 年度卒業生から卒業時に調査を実施している。今年度も卒業時、及び卒業後 1 年と 3 年の調査を行った。

#### vi. 「教育課程（2009 年 4 月 1 日実施）」の見直し

「教育課程（2009 年 4 月 1 日実施）」（以後、「教育課程」とする）を、平成 26 年度の全面的な修正後、平成 29 年度には看護学科の 3 つの方針の明確化、各科目の概要等を追加・修正した。平成 30 年度から HP 上に 3 つの方針を掲載している。

### Check

今年度も、看護実践力の実態調査（卒業時・1 年後・3 年後）の結果や各学年で行ったアセスメントテストの結果等をふまえて、カリキュラムについての見直しを行った。

カリキュラムの現状、及び運用、時間割作成の現状と見直しについては、計画に沿って適時検討した。2 年次の「看護学セミナー」は全ての領域で開講した。7 領域で履修者の人数を調整し、WebClass 上での全体オリエンテーションや希望領域アンケートを活用した選抜方法で学生を決定した。3 年次の「看護研究」は、平成 30 年度から全教員が領域の枠を超えて指導する体制にしている。昨年度の評価をふまえ、教員各 2 名ずつで 1 組の研究を指導したことで、スケジュール調整等が円滑にできた。新型コロナウイルス感染拡大のため、1 年次の「社会活動」、2 年次の「国際医療福祉事情」は、例年通りのボランティア活動や海外研修は行えず、課題を一部変更（グループワークを個人課題にする等）したり、遠隔授業を増やしたりして実施した。

1 年次後期の時間割が過密のため見直しをしたが、卒業要件の単位等で現段階では難しく現行のままとした。

## Action

- i.カリキュラムの定期的な見直し（選択科目の履修者数の見直しと履修状況，前期・後期の科目変更等）は継続課題である。
- ii.看護学科の三つの方針とそれに基づくカリキュラム構造を教員と学生が相互に理解し、学生が主体的に学習に活用できるよう、周知方法を更に工夫する。
- iii.看護実践力の実態把握（卒業時、1年後、3年後に調査）、アセスメントテスト結果の把握、学生の学習状況の評価等を継続し、カリキュラムの見直しに活用する。
- iv.2022年度からの新カリキュラム開始に向けた申請書類提出、人的・物理的教育環境の調整等を効率的に進める。

## ② 初年次教育

### Plan

目的：入学前の学習や生活から、能動的な学習活動と自律した学生生活に円滑に移行する。

目標：1. 大学で学ぶということを理解し、タイム・マネジメントを身につける。

2. 大学生に必要なスタディ・スキルを身につける。

3. 将来をイメージし、学習意欲をもつ。

4. 卒業までの学習の見通しを立てる。

5. ルールやマナーを守り、社会人としての自覚と責任をもち行動する。

6. 自ら他者と関わり、人間関係を構築する。

目標	取り組み	担当者
1, 2	スタディ・スキルプログラム 1回 4/14(水) 大学で学ぶ 2回 4/21(月) 授業を聴く、ノートをとる 3回 4/28(金) テキストを読む① 4回 5/19(水) テキストを読む② 5回 5/26(土) テキストを読む③ 6回 6/ 2(火) レポートを書く 7回 6/9,16(水)パソコンを使ったライティング・スキル	瀧山、浅見
3, 4	ミーティング、面談等	アドバイザー
5	接遇指導	学生部委員会
6	グループワーク、ボランティア活動、課外活動等	各科目の担当教員

### Do

目標 1, 2：計画通り実施した。

目標 3, 4：目指す看護師像を記述する等、意識づけを行った。

目標 5, 6 : 接遇指導、課外活動については別に記す。授業は各科目で実施・評価する。

#### Check

目標 1, 2 : プログラム参加状況は、1 回 99 名、2 回 96 名、3 回 86 名、4 回 96 名、5 回 100 名、6 回 99 名、7 回 90 名とばらつきがあった。確認テスト・アンケートでは、ノートをとる、レポートを書くことは授業で実行しているため、理解につながっていた。テキストを読むことは演習を取り入れて実施し、方法を理解したという学生は約 5 割、実践している学生は約 7 割であった。

目標 3, 4 : アドバイザーミーティングや面談を実施し、個々の学習状況等を把握しながら学習意欲や学習の見通しにつなげられた。

#### Action

目標 1, 2 : スタディ・スキルプログラムと授業科目の学習方法を連携させる。

### 専攻科 母子看護学専攻

#### ①カリキュラムに関する計画と実施状況

#### Plan

##### i .カリキュラムの確認

本学専攻科の現行カリキュラムの「すべての女性と子どもの健康的な生活を支援するための知識とケアの実践能力さらに地域社会に貢献できる助産師を養成できるよう編成し、さらに高度周産期医療に対応できる知識を修得できる」という目的を果たしているか確認する。

##### ii .カリキュラムの運用と科目進捗について

専攻科では、助産学を系統的に学習できるよう、助産診断学に関する学科目の殆どを前期に集中させ、後期に助産学実習（臨地実習）を配置して知識の統合学習が効果的に図れるように計画している。また、助産師としてのアイデンティティを意識し育めるように、助産学概論、母子看護学研究Ⅱ、助産管理、周産期援助実習を通年科目として展開し、研究的視点に基づき助産を実践できる人材を育成できるよう計画している。さらにコロナ禍にあり、助産学実習の一部を中止・変更せざるを得ない状況を加味して柔軟な対応ができるように計画した。

##### iii .助産師に求められる実践能力と到達状況の確認

本年度も修了時に「助産師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に示された教育内容を網羅し、実践能力を身につけられているか評価する。

##### iv .新カリキュラムの申請に向けた準備

2022 年からのカリキュラムは、基礎助産学：6 単位、助産診断・技術学：10 単位、地域母子保健：2 単位、助産管理：2 単位、臨地実習：11 単位／合計 31 単位以上となる。本学専攻科のポリシーを意識して、カリキュラムを編成し申請期日に提出する。

#### Do

##### i .カリキュラムの確認

現行カリキュラムは、令和2年度（2020年）の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部変更（基礎助産学：6単位、助産診断・技術学：8単位、地域母子保健：1単位、助産管理：2単位、臨地実習：11単位—合計28単位：930時間以上とする）に基づき編成されたもので、本学専攻科の今年度までのカリキュラムは、基礎助産学：11単位（必須8単位・選択2単位）、助産診断・技術学：9単位、地域母子保健学：1単位、助産管理：2単位、臨地実習：12単位（必須8単位・選択4単位）である（別表「専攻科授業科目及びその単位数」参照）。修了要件の31単位を必修科目28単位に選択科目7単位から選択して履修できるように編成し運用している。さらに、修了後に申請可能な資格として「受胎調節実地指導員認定講習」（平成26年埼玉県申請承認）に関する内容を授業内容に盛り込み、そしてハイリスク新生児にも対応可能なスキルとして、新生児蘇生法に関する内容も授業に盛り込んで実践した。

#### ii.カリキュラムの運用と科目進度について

今年度もコロナ禍にあり、カリキュラムを運用するにあたり助産学実習の一部変更を行って臨んだ。変更した内容は「周産期援助実習」の受け持ちケースの新生児訪問の中止、「助産管理実習」の妊婦水泳の中止である。中止された内容は、改正母子保健法にみる地域で生活する母子支援として、これからの助産師活動に重要な内容であるため、振り替えて学習できる機会を設け調整を図った。助産学実習の分娩介助例数の確保については、助産師養成指定規則に示されている一人あたり10例程度の分娩介助が確保できるように、確保している実習施設〔法人内の医大病院、総合周産期母子医療センター及び県内の病院（5施設）と診療所（2施設）の計7施設〕で、新型コロナウイルスの県内感染状況やインフルエンザウイルス等の感染症の流行を予測しながら、予定した実習期間内に終了できるように修正計画を立てた。しかしながら、県内に緊急事態宣言・コロナ感染蔓延防止措置が発令され、実習時期を繰り上げて実習することはできず、12月の実習期間に複数の科目が実施されることとなった。

#### iii. 助産師に求められる実践能力と到達状況

コロナ禍での授業対策として学内演習や学内実習では、感染予防に配慮して小グループで、学習できる機会をもった。目標到達にあたり、非常勤教員に尽力して頂けたことが大きな強みとなった。特に助産過程や助産技術の学習では、従来のグループよりも更に小規模なグループを編成しての学習となった。また、助産学実習については、実習の人数・時期・期間の調整を図り実践能力の到達を目指した。

#### iv.新カリキュラムの申請に向けた準備

本学専攻科の修了要件を保健師助産師看護師学校養成所指定規則の新基準に沿うよう32単位以上となるよう検討をした。専攻科の科目構成と構造を考えるにあたり、望ましい助産師教育のコア・カリキュラムを参考にA. 助産師として求められる基本的な資質・能力、B. 社会・環境と助産学、C. マタニティケア、D. プレコンセプションケア、E. ウィメンズヘルスケア（プレコンセプションケアを除く）、F. マネジメント・助産政策、G. 助産学研究の7つの大項目から構成した。構成にあたり、下記の①～⑥を加味して吟味した。①主軸となるマタニティケア

には、ローリスクからハイリスクまでのすべてを含めた。②切れ目のないケアとして、医療機関内、地域社会ケア、妊娠期から育児期迄の継続ケアを含めた。③プレコンセプションケアを独立させ、意識させた。④更年期から老年期女性のケアの強化としてウィメンズヘルスケアを独立させた。⑤社会的な側面として、多様な文化的背景をもつ母子やその家族の理解とケアを含めた。⑥マネジメント・助産政策を1つの柱とし、社会変化に参画していく視点を強調した。この科目構成と構造については、構造図を作成し次年度から活用することとした。

教育区分は基礎助産学：7単位以上（必須7単位、選択4単位）、助産診断・技術学：10単位（必須のみ）、地域母子保健学：2単位（必須のみ）、助産管理：2単位（必須のみ）、臨地実習：11単位以上（必須11単位、選択1単位）の必須科目32単位と選択科目5単位とした。また、現行カリキュラムからの継続内容として修了時に申請可能な資格「受胎調節実地指導員認定講習」を授業内容に盛り込み、さらに新生児蘇生法に関する内容を「新生児診断学」の中で展開することとした。

## Check

### i.実施したカリキュラムについて

総合評価として、今年度も修了前に「助産師教育に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」についてアンケート調査を実施し学生個々の目標達成状況を把握した。結果、本学専攻科の現行カリキュラムは、教育理念・目的・目標を達成するための内容になっていたと考える。

### ii.カリキュラムの運用と科目進度について

現行カリキュラムの進度は、必ずしも妊娠経過に応じて順序よく配置できてはいない。新カリキュラムの科目進度についても全ての科目で順序よく進めれるとは限らない。そのため入学オリエンテーションの時点で、学生個々が学習内容を再構築しながら進めていかねばならないことを周知する必要があることは継続事項となる。

### iii.助産師に求められる実践能力と到達状況について

毎年、修了時に実施しているアンケート調査「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」は、①母子の生命の尊重 ②妊娠期の診断とケア ③分娩期の診断とケア ④産じょく期の診断とケア ⑤出産・育児期の家族ケア ⑥地域母子保健におけるケア ⑦助産業務管理 ⑧ライフステージ各期の生と生殖のケア ⑨助産師としてのアイデンティティの形成の9つの項目について自己評価する内容である。結果、周産期にある対象に対し助産診断を行いケアすることの内容に関しては、「指導のもとで実施できる」「少しの助言で自立して実施できる」と概ね到達していた。コロナ禍にあり助産学実習が一部学内となったが、到達度への影響は少なかったと考える。

### iv.新カリキュラムの申請に向けた準備

申請に向けて2020年度より準備が進められたが、今年度は短期大学の新カリキュラム構築準備委員会とは別に、専攻科内にカリキュラム小委員会を立ち上げ2022年度の展開に向けて具体的な調整（シラバス内容の確認、非常勤教員の所属異動等による講義担当者の再確認、実習施設の分娩状況と学生配置人数の再調整他）を行い、変更申請の提出、認可を得ることができた。

## Action

- i.新カリキュラムは令和4（2022）年度から実施される。保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更に伴う様々な資料を参考に、本学専攻科のポリシーに沿うカリキュラム設計となっているか評価を行ってゆきたい。
- ii.県内の周産期医療の環境変化は、本学専攻科の教育にも正常分娩の確保困難という形で学習進度に影響しつつある。新カリキュラムが開始されるが、コロナ感染拡大予防もしくはアフターコロナの状況下で、実習施設の確保と実習期間、学習内容の充実等について検討し調整することは継続課題である。
- iii.助産師に求められる実践能力に課題を残していることについては、実習施設の1日の受け入れ人数の制限や時短実習、夜間実習の時期の制限、学内実習として対応しなければならない部分があったことが影響したと考える。例えば、分娩介助例数の確保については、学生平均9.47例（最低5例、最高10例）の分娩介助を実施できたが、不足例数は学内実習で内容を補った。これについては臨場感が得られない等の意見が寄せられ、個別的な助産ケアを体験し学習する工夫が課題となる。また、事例カンファレンスを開催する機会が少なく、他者と意見交換しながら学びを共有する機会が乏しくなった。

## ②授業について

### Plan

- i.授業展開の工夫、教授法の検討、教材の工夫
- ii.授業の調整、非常勤講師との連携
- iii.演習の調整、準備、実施
- iv.学習マニュアルの活用、学内教員・非常勤教員の連携
- v.学習支援、国家試験対策

### Do

- i.授業展開の工夫、教授法の検討、教材の工夫

基礎助産学と助産診断技術学、課題学習や前期実習の時期等、学習進度を考え時間割作成した。授業は、感染対策をした上ですべて対面授業を計画した。授業準備として講義資料を前日配付し、学生が事前学習を行い準備して受講できるようにした。学習システムWebClassを活用し、課題提出や資料の添付配付に利用した。分娩介助技術演習では、物品も確保し、動画を見ながら自宅で学習できるように工夫した。

多くの非常勤講師がおり講義内容の確認や連絡・調整を行った。遠方からくる講師の時間調整のため、今年も川越クリニックをサテライトキャンパスとして4日間活用した。講義に使う参考書等は、図書館で購入し活用できるよう調整した。「会陰切開及び裂傷に伴う縫合技術」、「新生児蘇生法講習会（NCPR）」の演習は、会場の変更し、密を避ける等の感染対策をした上で授業を展開した。「調理実習」は、時間制約もあり実習室内の密を避けることもできないため、講

師と調整し、自宅での課題学習となった。

なお、2021年度の専任教員及び非常勤講師を下記に示す。

専任教員	非常勤講師	
教授1	法人内	法人外
講師1	27	16
助教1		
3	43	

### iii. 演習の調整、準備、実施

助産診断・技術学における技術演習は、講義前に放課後を利用し、少人数に分かれ既習の基礎技術のチェックを行い臨んだ。その基礎技術を踏まえた上で本演習では場面設定の展開で実践を行い、実習のイメージができるように工夫した。感染対策としてゴーグル・マスクを着用し、換気を行い、広いスペースで分散し実施した。助産過程の展開については、個人ワークに切り替え授業内でフィードバックする形で取り組んだ。

### iv. 学習支援、国家試験対策

今年度は、国家試験対策として5回の模擬試験を企画した。国家試験対策補習講義として1月に「妊娠期と分娩期の助産形態・機能学」「新生児診断学」「地域母子保健学」を対面授業4日間実施した。

学習支援としてポートフォリオを活用し、実習開始前と実習終了後にポートフォリオを持参し、アドバイザー面接を行った。面接では、実習中や実習終了時には国家試験に向けた学習状況の確認を行いサポートした。成績不振者には、後期実習中に学校に戻り面接し、効果的に実習が行われるよう指導を行った。第105回助産師国家試験は2月10日に実施され、発表は3月25日である。

### Check

4月から計画通り対面授業で順調に講義開始となった。感染対策のため講義では座学や個人ワークが中心になった。入学時からの少人数グループワークによる基礎技術チェック演習を通して徐々にコミュニケーションがとれるようになった。さらに助産技術のグループ演習は、お互いの技術や実践の場をイメージすることで意見交換ができ、学びの成果を共有することに繋がった。助産過程の演習では、個人ワークを確認しながら講義内の時間でフィードバックし、質疑応答で対応した。

課題の提出にWebClassを利用したことは、学生の提出や印刷の無駄を省き教員が確認する上でも、効果的であった。

ポートフォリオの活用については、模擬試験の結果やレポート等を振り返り自身の学びに活かせるように声掛けしたが、学生全員が積極的に常に活用することはできていなかった。

新生児蘇生法講習会は、受講者が試験に合格し、認定資格の手続きを行うことができた。

### Action

学生全員が看護師国家資格を有する学生である。しかし、看護学生の時、新型コロナウイルス感

染の影響を受け、入学時に基本的な知識や技術が十分でないまま入学している現状がある。次年度も入学後に母性看護学内で行う知識や技術は、講義前に修得して臨めるようにする。また、母性看護学で学んだ知識を助産師教育の中で実践できるように助産診断技術学での演習を即実践の場で活かせるように実習の場面に即した演習にしていく。そのため、講義時間を有効に活用できるようにしていく必要がある。分娩介助技術の基本的技術は、動画を利用し、自己学習を行い確実に習得する。そして様々な場面での助産技術の実践をイメージできるようにして実習に臨む必要がある。

助産過程の展開は、実際に反映するため記録の仕方を共通認識することも課題である。学習の手引書となる学習マニュアルを見直し、全教員が理解し、活用することで学生の理解を深めることができると考える。学生が事前に学習内容を理解し主体的・積極的に準備したことを講義・演習・実習で繋げた展開できるようできるようにする。

本学専攻科は、4~7月までに講義科目ほぼ全ての科目を学び、後期実習3ヶ月間があり、国家試験までの期間は短くハードスケジュールである。学習マニュアルを活用し、学生が助産過程と助産技術を根拠に基づいた実践ができるよう支援していく。

## (5) 他大学・短期大学との単位互換

### Plan

短期大学設置基準16条に定める入学前の既修得単位の認定は、学則19条により、看護学科はすべての科目を対象として、一人46単位を上限として行う。

### Do

看護学科新入生に対し、短期大学学位規則4. 既修得単位認定規則に則り、認定手続きを行った。

### Check

2021年度は、既修得単位認定の申請はなかった。

### Action

短期大学設置基準及び学則に則り、認定の手続きを行う。

## (6) 専任教員・非常勤教員一覧

### ①基礎教育

#### 兼任・非常勤

講師	柳田 詩織	哲学	
講師	佐藤 礼子	心理学 I・II	埼玉医科大学 精神医学教室
講師	田村 慶一	論理学	
講師	芳賀 祥子	文学	
講師	牧野 修也	社会学	
講師	今出 和利	法学	
講師	矢島 伸男	教育学	

講師	山本 雅義	統計学, 物理学	
講師	土田 敦子	化学	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	山崎 芳仁	生物学	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	有田 彰	情報科学	
講師	荻原 利彦	情報科学	
講師	林 禅之	英語 I・II	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	種田 佳紀	英語 I・II	埼玉医科大学 医学基礎部門 教養教育
講師	勝亦 佑磨	英語 II	
講師	スティーブン・マーク・オトゥール	英語 I・II	
講師	リウ・サントス	英語 I	
講師	市岡 正適	ドイツ語	埼玉医科大学保健医療学部
講師	森 史枝	体育実技 I・II	

## ②看護学科

### 専任

教授	所 ミヨ子	基礎看護学
教授	田村 直俊	疾病総論, 疾病治療論 I・II, 成育医療論
教授	久保 かほる	成人看護学
教授	霜田 敏子	小児看護学
教授	今野 葉月	基礎看護学
教授	浅見 多紀子	成人看護学
准教授	蒲生 澄美子	基礎看護学
准教授	内田 貴峰	母性看護学
准教授	瀧山 文恵	老年看護学
准教授	秋山 千恵子	成人看護学
准教授	鈴木 夕岐子	成人看護学
講師	宮崎 素子	基礎看護学
講師	勝久 淳	精神看護学
講師	清水 百子	基礎看護学
講師	小池 啓子	在宅看護学
講師	荒川 みひろ	老年看護学
講師	海野 文子	在宅看護学
講師	渡邊 あゆみ	精神看護学
講師	北田 良子	小児看護学
助教	榎本 佑美	基礎看護学

助教	石川 裕貴	母性看護学
助教	布施 好朗	小児看護学
助教	加藤 穂高	基礎看護学
助教	持田 奈穂美	老年看護学
助教	杉本 真弓	成人看護学
助教	増田 睦美	母性看護学
助教	櫻井 邦恵	基礎看護学
助教	小野 真央	成人看護学

兼任・非常勤

講師	小島 龍平	解剖学	
講師	有田 彰	生理学	
講師	内田 康子	生理学	埼玉医科大学 保健医療学部
講師	仁科 正実	生化学	
講師	町田 早苗	微生物学	埼玉医科大学 医学研究センター
講師	周防 諭	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	吉川 圭介	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	柳下 楠	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	岩佐 健介	薬理学	埼玉医科大学 薬理学教室
講師	安田 政実	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	佐藤 次生	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	小路口 奈帆子	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	美山 優	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	伊豆 麻末	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	大森 悠加	病理学	埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科
講師	高山 哲嘉	疾病治療論Ⅲ・Ⅳ	埼玉医科大学 消化器一般外科学
講師	前山 昭彦	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学 麻酔科学
講師	秋山 正年	疾病治療論Ⅲ	埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科
講師	藤巻 高光	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 脳神経外科学
講師	小林 正人	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 脳神経外科学
講師	梶原 健	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 産婦人科学
講師	朝倉 博孝	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 泌尿器科学
講師	門野 夕峰	疾病治療論Ⅳ	埼玉医科大学 整形外科
講師	亀井 良政	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	難波 聡	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	高橋 幸子	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室

講師	田丸 俊輔	成育医療論	埼玉医科大学 産婦人科教室
講師	高橋 美保子	公衆衛生学	埼玉医科大学 社会医学
講師	小林 明弘	社会福祉	丸木記念福祉 MC 法人事務局
講師	本橋 千恵美	関係法規	埼玉医科大学 社会医学
講師	堀口 さやか	健康と栄養	埼玉医科大学病院 栄養部
講師	浅見 真一	健康と運動	
講師	加藤 純一	成人看護技術 I	埼玉医科大学病院 本館 8 階病棟
講師	山崎 志文子	成人看護技術 I 成人看護実習 II	埼玉医科大学病院 南館 11 階病棟
講師	松永 晴子	成人看護技術 I 成人看護実習 II	埼玉医科大学病院 南館 9 階病棟
講師	阿久津 あゆみ	成人看護技術 I	埼玉医科大学病院 ICU
講師	礒崎 雅美	成人看護技術 II 成人看護実習 I	埼玉医科大学病院 本館 7 階病棟
講師	川村 日輪	成人看護技術 II	埼玉医科大学病院 手術室
講師	宮崎 深	成人看護技術 II	埼玉医科大学総合医療センター 10 階東病棟
講師	輿石 真弓	成人看護技術 II	埼玉医科大学総合医療センター 10 階西病棟
講師	長谷部 愛覧	成人看護技術 II	埼玉医科大学総合医療センター 4 階東病棟
講師	高橋 由貴	成人看護技術 II 成人看護実習 II	埼玉医科大学病院 南館 6 階病棟
講師	中里 里沙	成人看護技術 II	埼玉医科大学総合医療センター 6 階西病棟
講師	大田 千穂	成人看護技術 II	埼玉医科大学総合医療センター 5 階西病棟
講師	志賀 路子	成人看護実習 I	埼玉医科大学病院 本館 8 階病棟
講師	佐々木 知佳	成人看護実習 I	埼玉医科大学総合医療センター 6 階西病棟
講師	本橋 奈津紀	成人看護実習 I	埼玉医科大学総合医療センター 5 階西病棟
講師	坂本 里恵	成人看護実習 II	埼玉医科大学病院 南館 8 階病棟
講師	大塚 宏美	成人看護実習 II	埼玉医科大学総合医療センター 10 階東病棟
講師	山根 望	成人看護実習 II	埼玉医科大学総合医療センター 10 階西病棟
講師	金森 恵美	老年看護 II 老年看護実習 I 老年看護実習 II	埼玉医科大学病院 本館 9 階アイセンター
講師	鈴木 敦子	老年看護 II	丸木記念福祉 MC 特別養護老人ホームナーシングヴィラ本郷
講師	齊藤 由希	老年看護実習 I	丸木記念福祉 MC 薫風園 5 階
講師	齋藤 宏一	老年看護実習 I	丸木記念福祉 MC 薫風園 6 階

講師	吉益 晴夫	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	梅村 智樹	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	安田 貴昭	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	栗原 瑛大	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	藤井 良隆	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	嶋崎 広海	精神看護 I	
講師	倉持 泉	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	長谷川 哲也	精神看護 I	
講師	畠田 順一	精神看護 I	
講師	棚橋 伊織	精神看護 I	丸木記念福祉 MC 医局
講師	志賀浪 貴文	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	中島 崇博	精神看護 I	埼玉医科大学総合医療センター 精神神経科学教室
講師	荒瀧 千絵子	精神看護 I	
講師	小倉 圭介	精神看護 II	
講師	小林 貴子	在宅看護学	
講師	原 智子	小児看護 I	埼玉医科大学病院 東館こどもセンター外来
		小児看護 II	
講師	矢島 伸男	小児看護 I	
		小児看護 II	
講師	佐藤 祐美	小児看護 II	埼玉医科大学病院 南館 4 階病棟
講師	加藤 久栄	小児看護 II	埼玉医科大学病院 南館 3 階病棟
講師	永野 真弓	小児看護 II	
講師	小林 由貴	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 3 階東病棟
講師	野口 香	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 周産期 4 階病棟
講師	一條 香織里	小児看護実習	埼玉医科大学総合医療センター 周産期 4 階病棟
講師	加藤 暢子	母性看護学	
講師	加藤 順子	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2 階病棟
講師	羽鳥 真由美	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2 階病棟
講師	宮岡 律子	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2 階病棟
講師	小室 咲江	母性看護 I	埼玉医科大学病院 南館 2 階病棟
講師	小澤 千恵	母性看護 II	埼玉医科大学総合医療センター 周産期 3 階病棟
講師	鈴木 裕貴	母性看護 II	
講師	池田 光子	看護管理	埼玉医科大学総合医療センター 看護部長
講師	畠中 完	看護管理	埼玉医科大学病院 南館 5 階病棟
講師	猿谷 倫史	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター

講師	武川 礼子	災害・救急看護	埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センター
講師	柿沼 望江	特別講義	埼玉医科大学病院 西館 5階病棟
講師	関口 六月	特別講義	埼玉医科大学病院 南館 3階病棟
講師	宮里 未来	特別講義	埼玉医科大学病院 南館 11階病棟
講師	友部 透	特別講義	埼玉医科大学国際医療センター A棟 5階病棟

### ③専攻科母子看護学専攻

#### 専任

教授	稲井 洋子	助産学概論、乳幼児保健学、分娩期の助産診断・技術学、助産管理、母子看護学研究Ⅰ、助産管理実習、分娩期援助実習	
講師	北川 典子	妊娠期の助産診断・技術学、産褥期の助産診断・技術学、周産期援助実習 分娩期援助実習 新生児援助実習、地域母子保健実習	
助教	橋本 祐佳	周産期援助実習、分娩期援助実習、新生児援助実習	

#### 兼任・非常勤

講師	岡本 喜代子	助産学概論	公益社団法人東京都助産師会館
講師	石原 理	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	亀井 良政	母子健康管理学 助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	相馬 廣明	助産形態・機能学	
講師	梶原 健	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	高井 泰	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	齋藤 正博	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科
講師	照井 克生	助産形態・機能学	埼玉医科大学総合医療センター 産科・麻酔科
講師	高橋 幸子	助産形態・機能学 母子健康管理学	埼玉医科大学・医療人育成センター 埼玉医科大学病院 産科・婦人科（兼務）
講師	左 勝則	助産形態・機能学 生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	田丸 俊輔	助産形態・機能学 母子健康管理学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	鈴木 裕之	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	山口 哲	助産形態・機能学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	難波 聡	母子健康管理学	埼玉医科大学病院 産科・婦人科
講師	田村 直俊	母子看護学研究Ⅰ	埼玉医科大学短期大学 看護学科
講師	荒川 浩明	母子看護学研究Ⅰ	埼玉医科大学短期大学 司書
講師	霜田 敏子	乳幼児保健学	埼玉医科大学短期大学 看護学科

講師	須田 幸子	母子栄養学	埼玉医科大学病院 栄養部
講師	竹下 美穂	母子栄養学	埼玉医科大学病院 栄養部
講師	齋藤 益子	性行動科学	関西国際大学 保健医療学部 看護学科
講師	齋藤 章佳	性行動科学	大森榎本クリニック
講師	虎井 まさ衛	性行動科学	
講師	田之内 厚三	母性の心理・社会学	
講師	對馬 秀子	家族社会学	
講師	阿部 一子	産褥期の助産診断・ 技術学	あべ母乳育児相談室
講師	側島 久典	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科、埼玉医科大学医学教育センター
講師	加部 一彦	新生児診断学	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 新生児科
講師	國方 徹也	新生児診断学	埼玉医科大学病院 小児科
講師	本多 正和	新生児診断学	埼玉医科大学病院 小児科
講師	馬場 一憲	生殖医学の生理と病理	埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター 母体胎児部門
講師	海老根 真由美	生殖医学の生理と病理	海老根ウイメンズクリニック
講師	菅沼 真樹	生殖医学の生理と病理	東海大学 文学部 心理社会学科
講師	本橋 千恵美	地域母子保健学	埼玉医科大学 社会医学
講師	武藤 光代	助産管理	埼玉医科大学 看護部
講師	山口 次子	助産管理	埼玉医科大学病院 成育医療センター南館 2階病棟
講師	中島 桂子	助産管理	中島助産院
講師	伊藤 匡子	助産管理	ナラヤマレディースクリニック
講師	谷島 春江	助産管理	埼玉医科大学総合医療センター 看護部
講師	関口 六月	新生児診断学	埼玉医科大学病院 こどもセンター
講師	鈴木 操	妊娠期の助産診断・ 技術学、分娩期の 助産診断・技術学、 新生児援助実習	
講師	小口 麻衣子	妊娠期の助産診断・ 技術学、分娩期の 助産診断・技術学、 産褥期の助産診断・ 技術学	

講師	斉藤 俊子	妊娠期の助産診断・ 技術学、分娩期の 助産診断・技術学、 産褥期の助産診断・ 技術学
講師	芹澤 深雪	分娩期援助実習

#### 教員人事異動

##### ①採用

看護学科	北田 良子	講師	(令和3年4月1日)
看護学科	小野 真央	助教	(令和3年4月1日)
看護学科	櫻井 邦恵	助教	(令和3年4月1日)

##### ②退職

専攻科	橋本 祐佳	助教	(令和4年3月31日)
-----	-------	----	-------------

##### ③配置転換

看護学科	加藤 穂高	助教	(令和4年3月31日)
------	-------	----	-------------

## (7) 学外実習施設一覧

## 看護学科

授業科目名	実習施設	実習フロア
基礎看護実習 I 基礎看護実習 II	埼玉医科大学病院  丸木記念福祉メディカルセンター	南館 11 階病棟 南館 9 階病棟 南館 8 階病棟 南館 6 階病棟 南館 5 階病棟 本館 11 階病棟 本館 9 階病棟 本館 8 階病棟 西館 5 階病棟 東館 4 階病棟 回復期リハビリテーション病棟薫風園 5 階 回復期リハビリテーション病棟薫風園 6 階
成人看護実習 I 成人看護実習 II 総合実習	埼玉医科大学病院  埼玉医科大学総合医療センター	南館 11 階病棟 南館 9 階病棟 南館 8 階病棟 南館 7 階病棟 南館 6 階病棟 南館 5 階病棟 本館 8 階病棟 本館 7 階病棟 西館 5 階病棟 内科外来センター 中央治療センター 外科センター 内視鏡センター 腎臓病センター 血液浄化ユニット 中央放射線部 生活習慣病センター 内分泌・糖尿病内科外来 10 階東病棟 10 階西病棟 8 階東病棟 7 階東病棟 7 階西病棟 6 階西病棟 5 階東病棟 5 階西病棟 4 階西病棟 4 階東病棟 放射線部 血液浄化センター 内視鏡センター 消化器・肝臓内科, 内分泌・糖尿病内科外来 心臓内科, 呼吸器内科, 心臓血管外科外来 在宅療養指導室
精神看護実習	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター デイケアセンター のぞみ	西館 4 階病棟 西館 3 階病棟
小児看護実習	埼玉医科大学病院  埼玉医科大学総合医療センター  埼玉医科大学 保育園めぐみ 埼玉医科大学日高キャンパス託児所 あすなろ 学校法人 聖公会北関東学園 毛呂山愛仕幼稚園 学校法人 村田学園 ときわぎこども園	南館 4 階病棟 南館 3 階 NICU・GCU 東館こどもセンター (外来) 3 階東病棟 総合周産期母子医療センター 4 階新生児部門
母性看護実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター	南館 2 階病棟 産婦人科外来 総合周産期母子医療センター (産科外来・母子 3 階病棟), 産婦人科外来
老年看護実習	埼玉医科大学病院 丸木記念福祉メディカルセンター	本館 10 階病棟 本館 9 階病棟 地域包括ケア病棟 回復期リハビリテーション病棟薫風園 5 階 回復期リハビリテーション病棟薫風園 6 階

在宅看護実習	埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 毛呂山町保健センター 越生町保健センター 鳩山町保健センター 毛呂山町地域包括支援センター、鳩山町地域包括支援センター 日高市高萩地域包括支援センター 日高市高麗川地域包括支援センター 埼玉医科大学 訪問看護ステーション 埼玉医科大学総合医療センター 訪問看護ステーション 埼玉成恵会病院 訪問看護ステーション 成恵 医療法人啓仁会 訪問看護ステーション 平成の森 東松山医師会訪問看護ステーション 坂戸鶴ヶ島医師会立 看護訪問ステーション さつき 社会福祉法人 育心会地域包括支援センター悠久園支所 社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会地域包括支援センターななふく苑支所 総合福祉エリア 地域包括支援センター 社会福祉法人敬寿会 年輪福祉ホーム地域包括支援センター 訪問看護リハビリステーションパープル カナオ訪問看護リハビリステーション鶴ヶ島 株式会社ユーハイムイット訪問看護ステーションハピネス 訪問看護ステーションコルア 株式会社クレバリーワン訪問看護ステーションハピネススマイリー埼玉県社会福祉協議会
--------	--

### 専攻科 母子看護学専攻

実習科目名	実習施設	実習病棟
周産期援助実習	埼玉医科大学病院 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科	成育医療センター 産婦人科外来、南館 2 階病棟 産科外来、病棟
分娩期援助実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科 医療法人慈桜会 瀬戸病院 医療法人青山会 吉田産科婦人科医院 医療法人愛和会 愛和病院 医療法人マウナケア会 清水病院	成育医療センター 南館 2 階病棟 母子 3 階病棟 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室 病棟 分娩室
新生児援助実習	埼玉医科大学病院 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 医療法人善淳会 小川産婦人科・小児科 医療法人マウナケア会 清水病院 医療法人青山会 吉田産科婦人科医院	成育医療センター 南館 2 階病棟 母子 3 階病棟、NICU 病棟、新生児室 病棟、新生児室 病棟、新生児室
地域母子保健実習	鶴ヶ島市保健センター 飯能市保健センター 日高市保健相談センター 毛呂山町保健センター	
助産管理実習	助産院もりあね はとがや助産所 中島助産院	

(8) 研究テーマ一覧と指導教員

看護学科

看護研究 テーマ	学籍番号	担当教員
児童虐待リスクを有する特定妊婦・社会的ハイリスク妊婦に対して行われている妊娠期からの支援の現状に関する文献研究	19A001	浅見多紀子 荒川みひろ
	19A010	
	19A018	
	19A081	
産前、産後の知識不足を要因とした不安に対する介入方法と効果の文献検討	19A065	今野 葉月 持田奈穂美
	19A067	
	19A080	
看護学生の SNS 利用の目的別にみた SNS 疲れの実態	19A024	鈴木夕岐子 宮崎 素子
	19A042	
	19A055	
看護学生のオンライン授業に対するストレスの感じ方とその原因	19A097	蒲生澄美子 小池 啓子
	19A098	
	19A101	
	19A103	

4) 入学者の受け入れ

(1) 学生募集の広報

令和3(2021)年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の対応を取りながら広報活動を行った。

① オープンキャンパス【令和元年度】

令和元年度		3/27(土)	5/25(土)	7/13(土)	8/24(土)	10/5(土)	合計
	看護学科	34名	42名	115名	146名	44名	381名
	母子看護学専攻			48名	44名	2名	94名
	合計	34名	42名	163名	190名	46名	475名

内容：学科紹介、入試概要、実習病院紹介、実習病院見学、現役ナースからのメッセージ  
校舎内キャンパスツアー、教職員及び学生による個別相談等  
10月のオープンキャンパスは大学祭共催；教職員及び学生による個別相談、  
学生による体験コーナー、キャンパスツアー、キャンパス自由見学

② オープンキャンパス参加登録者数

看護学科 令和2年度 332名、 令和3年度 371名  
専攻科 令和2年度 34名、 令和3年度 149名

③オンラインによるオープンキャンパス：動画の再生回数【令和2年度～令和3年度】（単位：回）

動画タイトル	看護学科		専攻科	
	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年
1. 学科紹介	491	250+α	30	115
2. 入試説明（看護）・入試概要（母子）	367	175+α	66	130
3. 学生生活紹介	277	264	33	132
4. 実習病院紹介	292	232	—	—
5. 現役ナースからのメッセージ	394	211	—	—
6. 受験対策	—	194	—	—
7. 学生寮紹介	285	218	—	—
8. キャンパス紹介	*1	159+α	—	—

\*1：配信方法が1-7と異なるため、再生回数の確認ができなかった。

a. 動画は原則としてオープンキャンパスの参加登録者に対する限定配信であるが、令和3年10月より看護学科の「学科紹介」「入試説明」「キャンパス紹介」はホームページ上で公開を開始した。

b. 配信期間：令和2年度 7/10-7/12, 8/6-8/22, 10/1-10/14, 12/1-12/14.  
令和3年度 5/20-6/2, 6/29-7/12, 8/12-8/23, 10/13-10/25.

④オンラインによるオープンキャンパス：グループ相談会【令和2年度～令和3年度】

令和2年度		7/12(日)	8/22(土)	12/12(土)	—	—	—	合計
	看護学科	31名	27名	1名	/	/	/	59名
	母子看護学専攻	6名	9名	—				15名
合計	37名	36名	1名	74名				
令和3年度		3/26(金)	5/29(土)	7/10(土)	7/11(日)	8/22(日)	10/23(土)	合計
	看護学科	2名	4名	7名	9名	28名	9名	59名
	母子看護学専攻	—	—	15名	—	23名	—	38名
	合計	2名	4名	22名	9名	51名	9名	97名

相談会：オンラインビデオ会議システムを用いてグループ相談・個別相談を行った。

グループは、参加者が1グループに2～3人の配置になるように編成した。

⑤ミニオープンキャンパス（午前・午後の2回実施）

	開催日	参加高校生等
令和元年度	6/15(土), 12/7(土)	47名
令和2年度	実施せず	—
令和3年度	実施せず	—

内容：学科紹介、入試概要、校舎内キャンパスツアー、個別相談（教職員が対応）

⑥本学への個別見学（ミニオープンキャンパス以外の来学者）

	看護学科	母子看護学専攻	合計
令和元年度	1名	0名	1名
令和2年度	実施せず		—
令和3年度	実施せず		—

内容：学科紹介、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

⑦本学への団体見学（高校単位：令和元年度～令和3年度）

	件数	参加高校生等	参加本学教員延べ数
令和元年度	0件	0名	0名
令和2年度	実施せず		—
令和3年度	実施せず		—

内容：学科紹介、模擬授業、校舎内キャンパスツアー（教職員が対応）

⑧学外説明会（高校生・予備校生等対象：令和元年度～令和3年度）

	件数	参加高校生等	参加本学教員延べ数
令和元年度	17件	132名	19名
令和2年度	2件	13名	2名
令和3年度	12件	92名	12名

内容：模擬授業またはブース対応（教員が出張もしくはオンラインにて対応）

⑨高校訪問（令和元年度～令和3年度）

	訪問高校延べ数	訪問延べ日数	訪問本学教職員延べ数
令和元年度	58校	22日	4名
令和2年度	12校	8日	1名
令和3年度	17校	6日	3名

(2) 選抜方法（学校推薦型選抜，社会人選抜，一般選抜型）

学校推薦型選抜入学・社会人選抜・一般選抜型の選抜方法は下記である。

	定員	学校推薦型	一般選抜型	一般／社会人選抜
看護学科	100名	○	○	
専攻科	20名	○*		○

\*専攻科の推薦は学内のみ。

① 看護学科 入学者の選抜

	学校推薦型選抜		一般選抜 I 期	一般選抜 II 期
募集人員	70 名		28 名	若干名
試験日	令和3年11月14日 9:30～		令和4年1月16日 9:30～	令和4年2月27日 9:30～
試験会場	埼玉医科大学短期大学			
出願資格	2022 年度 学生募集要項（別冊子）を参照			
出願期間	令和3年11月1日～11月11日		令和4年12月13日～令和4年1月13日	令和4年1月24日～2月25日
試験科目	科目等	時 間	科目・時間等（I 期・II 期 共通）	
	小論文	9:30～10:30	国語総合（古・漢文を除く） 9:30～10:20 コミュニケーション英語I・II 数学I・A より1科目選択 10:50～11:40	
	面接	11:00～15:00 頃	面接 13:00～15:00 頃 その他：書類選考（入学者の選抜は試験の成績及び調査書による総合的選抜を行う。）	
合格者発表	令和3年12月1日 10:00		令和4年1月18日 10:00	令和4年2月28日 16:00
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び 本学ホームページに掲載 本学ホームページ： <a href="http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/">http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/</a>			
入学手続期間	令和3年12月2日～12月10日		令和4年1月19日～1月28日	令和4年3月1日～3月9日

② 看護学科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
学校推薦型	72 名	72 名	72 名	1.0 倍
一般選抜 I 期	31 名	31 名	29 名	1.1 倍
一般選抜 II 期	5 名	3 名	3 名	1.0 倍

② 専攻科 入学者の選抜

	学内推薦選抜	一般・社会人選抜	
募集人員	6名	14名（社会人選抜4名程度を含む）	
試験日	令和3年11月14日 9:30～	令和4年1月9日 9:30～	
試験会場	埼玉医科大学短期大学		
出願期間	令和3年11月1日～11月11日	令和3年12月13日～令和4年1月7日	
試験科目	書類選考	科目等	
		時間	
		小論文	9:30～10:30
		学力試験	11:00～12:00
		面接	13:15～17:00頃
合格発表	令和3年12月1日	令和4年1月13日 10時	
	埼玉医科大学短期大学校舎前 及び 本学ホームページに掲載 本学ホームページ： <a href="http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/">http://www.saitama-med.ac.jp/tandai/</a>		
入学手続期間	令和3年12月2日～12月10日	令和4年1月14日～1月28日	
一般選抜・社会人選抜：入学者選抜は、小論文・学力試験（専門基礎分野・専門分野）・面接による総合的選抜を行う			
出願資格（令和4年度入学者） ＜学内推薦選抜＞ 埼玉医科大学短期大学 看護学科 を2022年3月卒業見込みの者 ＜一般選抜＞ 1. 大学・短期大学の看護に関する学科を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者 2. 看護に関する養成所を卒業した者、または2022年3月卒業見込みの者 3. 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者で、その最終の課程において看護に関する課程を修了した者、または2022年3月までに修了見込みの者 ＜社会人選抜＞ 1. 埼玉県内の産婦人科を標榜する病院、または産婦人科の診療所に常勤職員で1年以上勤務し施設長の推薦を受けた看護師で、合格した場合入学を確約できる者 2. 修了後は、推薦を受けた施設長の産婦人科を標榜する病院、または産婦人科の診療所に勤務できる者			

④ 専攻科 入学者の選抜結果

	志願者	受験者(A)	合格者(B)	競争率(A/B)
学内推薦選抜	6名	6名	6名	1.0倍
一般/社会人選抜	52名	52名	14名	3.7倍

(3) 学生定員充足状況

① 学生数（留年生を含む；括弧内は定員充足率）： 令和3年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	計
看護学科	102 (102%)	102 (102%)	102 (102%)	306 (102%)
専攻科 母子看護学専攻	20 (100%)	—	—	20 (100%)

② 男女比： 令和3年5月1日現在

		1年生	2年生	3年生	計
看護学科	男	4 (3.9%)	3 (2.9%)	2 (2.0%)	9 (2.9%)
	女	98 (96.1%)	99 (97.1%)	100 (98.0%)	297 (97.1%)
専攻科 母子看護学専攻	女	20 (100%)	—	—	20 (100%)

## ③ 学生出身地一覧（令和3年度）

令和3年5月1日現在

都道府県名	看護学科				専攻科 母子看護学専攻	合計
	1年生	2年生	3年生	小計		
北海道		1		1	1	2
青森	2		1	3		3
岩手	1	1	3	5	1	6
宮城		2	2	4		4
秋田			3	3		3
山形	2	1	3	6		6
福島		1		1	1	2
茨城	3		2	5		5
栃木	4	2	7	13		13
群馬	2	5	1	8	2	10
埼玉	57	66	57	180	8	188
千葉		1		1		1
東京	11	9	10	30	2	31
神奈川	1		1	2	1	3
新潟	2	5	4	11	1	12
富山	1			1		1
石川						
福井						
山梨			3	3		3
長野	7	4	2	13	1	14
岐阜						
静岡	5	1	1	7	1	8
愛知		1	1	2		2
三重		1		1		1
滋賀						
京都						
大阪					1	1
兵庫						
奈良						
和歌山						
鳥取						
島根						
岡山	1			1		1
広島		1	1	2		2
山口						
徳島						
香川						
愛媛						
高知						
福岡						
佐賀						
長崎	1			1		1
熊本						
大分						
宮崎						
鹿児島		1		1		1
沖縄	2			2		2
合計	102	103	102	307	20	326

#### (4)入学前教育

##### Plan

- ①学習の習慣化と基礎学力及びモチベーションの維持・向上のために下記の取り組みを行う。
  - i.入学前に取り組む課題の提示
    - a.課題図書から1冊選択し、関連する本を各自で選択する。2冊の内容の関連性と自己の考えをまとめる（学校推薦型選抜合格者のみ）。
    - b.志望動機や現代社会における自己の将来の役割をふまえて、入学後の3年間をどのように過ごしたらよいかをまとめる。
    - c.生物のワーク（ドリル）の学習、または業者による「入学前基礎学習講座」（医療系生物入門、生物総合、医療学生のための国語力入門《以下、国語》から1講座もしくは、生物系と国語の2科目）の案内
  - ii.「埼玉医科大学短期大学へようこそ」の配付  
前年度入学生のアンケート結果を基に作成した入学前の学習の準備と課題についてまとめた「埼玉医科大学短期大学へようこそ」を合格者全員に配付する。
- ②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートの実施  
入学前教育の評価に活かせるように、前年度のアンケート内容を見直し、令和3年度入学生に入学3ヶ月後、アンケートを実施する。

##### Do

- ①学習の習慣化と基礎学力及びモチベーションの維持・向上のための取り組み
  - i.課題は、課題に関する説明書（課題内容・レポート様式と注意事項・提出時期等）を、事務部が合格者へ郵送するものに同封した。毎年、指示通り提出できない入学生がいるため、具体例を示し詳細な説明を加えた。提出されたレポートは、入学後にアドバイザーが内容や提出方法を含めて指導し返却した。「入学前基礎学習講座」は、事前に業者と内容や時期などを検討後、業者が作成した「入学前基礎学習講座」の案内を同様に郵送した。以降は、業者と希望者間で進めてもらった。
  - ii.「埼玉医科大学短期大学へようこそ」を郵送した。
- ②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートを、入学3ヶ月後にWebClassで実施した。

##### Check

- ①学習の習慣化と基礎学力及びモチベーションの維持・向上のための取り組み
  - i.アンケートによると課題に取り組むことで、入学前に学習が「習慣化した・どちらかという習慣化した」が、課題aでは64%、課題bでは80%であった。課題cのうち、生物のワーク（ドリル）の学習では73%、業者による「入学前基礎学習講座」の生物の講座では80%、国語力の講座では81%であった。入学後、「役立てている・どちらかという役立てている（以下、役立てている）」は、課題aでは76%、課題cの生物のワークでは80%、生物の講座では96%、国語力の講座では94%であり、「入学前基礎学習講座」に取り組んだ学生は少なかったが、取り組んだ学生は、90%以上役立てている。課題を行って、入学前にモチベーションが「高

まった・どちらかというが高まった」は、課題 a では 73%、課題 b では 83%であった。提出された課題をみると、学習課題の目的に適った方法で取り組んでいた学生と、学習方法を確認し個別に支援が必要な学生がいた。

- ii. 「埼玉医科大学短期大学へようこそ」の先輩からのメッセージを読んで、「入学前に学習しておけば良かったこと（生物・化学・物理）」の中で、「生物」が学校推薦型選抜、一般選抜ともに最も多かった。取り組んだことは、入学後「役立てている」と回答した学生が 82%であった。「入学前に身につけておくと良かったこと（読む・書く力等）」の中で、「読書」、「小論文や作文」に取り組んだ学生が多かった。取り組んだことを、78%の学生が入学後「役立てている」と回答していた。「新聞や本を読むこと等」は、学校推薦型選抜・一般選抜ともに「ニュースを視聴した」学生が最も多かった。このことに取り組んだ学生の 83%が、入学後「役立てている」と回答していた。ほぼ昨年と同様の結果であった。

- ②「埼玉医科大学短期大学へようこそ」や入学前の課題の活用状況に関するアンケートを実施したことで、次年度の課題が明確になった。

#### Action

- ①学習の習慣化とモチベーションの維持・向上のための取り組み

- i. 学校推薦型選抜合格者に対する学習の習慣化に向けて、今後も課題内容・実施方法・学習途中の形成的な評価方法を検討していく必要がある。基礎学力及びモチベーションの維持・向上のために、課題提出状況や受講状況を把握し、入学前教育の目的が達成できるように検討する。業者による「入学前基礎学習講座」は受講料が必要であることから強制はできないが、受講した学生が少ないため、合格者の多くが受講できるよう内容や案内の方法についても継続して検討する。入学時のプレイスメントテストの結果も参考にして、入学前教育の評価を実施する。
- ii. 学校推薦型選抜・一般選抜合格者全員に「埼玉医科大学短期大学へようこそ」と題した入学前の学習の準備と課題については、内容を見直し継続して郵送する。

- ②入学前の課題の活用状況に関するアンケートは、内容を見直し継続して実施・評価する。

#### (5) これまでの受け入れ状況

#### 看護学科

- ① 志願者：( ) は男子内数（令和 2 年～令和 4 年）

	募集(A)	推薦入学	一般入試	志願者計(B)	倍率 (B/A)
令和 2 年度	100 名	98 ( 2 )名	84 (11)名	182 (13)名	1.8 倍
令和 3 年度	100 名	89 ( 3 )名	61 (4)名	150 (7)名	1.5 倍
令和 4 年度	100 名	72 ( 4 )名	36 (1)名	108 (5)名	1.1 倍

②推薦入学の結果（令和2年～令和4年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	入学者	倍率(A/B)
令和2年度	70名	98名	98名	78名	78名	1.3倍
令和3年度	70名	89名	89名	80名	80名	1.1倍
令和4年度	70名	72名	72名	72名	72名	1.0倍

③一般入学試験の結果（令和2年～令和4年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠入学者	入学者	倍率(A/B)
令和2年度		84名	81名	42名	0名	27名	1.9倍
I期	28名	63名	61名	40名	2名	27名	1.5倍
II期	若干名	21名	20名	2名	0名	0名	10.0倍
令和3年度		61名	56名	37名	2名	22名	1.5倍
I期	28名	49名	47名	35名	2名	21名	1.3倍
II期	若干名	12名	9名	2名	0名	1名	4.5倍
令和4年度		36名	34名	31名	0名	22名	1.1倍
I期	28名	31名	31名	29名	0名	20名	1.1倍
II期	若干名	5名	3名	3名	0名	2名	1.1倍

専攻科母子看護学専攻

①志願者：（令和2年～令和4年）

	募集	学内推薦	一般選抜・社会人選抜
令和2年度	20名	6名	30名
令和3年度	20名	5名	29名
令和4年度	20名	6名	52名

②学内推薦の結果（令和2年～令和4年）

	募集	合格者	入学者
令和2年度	6名	6名	6名
令和3年度	6名	5名	5名
令和4年度	6名	6名	6名

③一般選抜・社会人選抜の結果（令和2年～令和4年）

	募集	志願者	受験者(A)	合格者(B)	補欠	入学者	倍率(A/B)
令和2年度	14名	30名	29名	14名	2名	14名	2.1倍
令和3年度	15名	29名	29名	15名	1名	15名	1.9倍
令和4年度	14名	52名	52名	14名	3名	14名	3.7倍

## 2. 学生支援

### 1) 教育活動

#### (1) 新入生歓迎ハイキング

今年度の新入生歓迎ハイキングは新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。

#### (2) 宣誓式

### Plan

宣誓式は、学生自身が選んだ看護の道が適切であったかどうか自らを振り返る機会であり、自己の目標を明確にし、望ましい看護者として成長できる節目の儀式である。1年次生が、これらを意識して式典に臨めるよう働きかける。

### Do

日時：令和3年11月20日（土） 場所：短期大学7階大講堂 参加者：学生101名、教職員

- ①今年度は戴帽式から宣誓式へ名称変更後第1回の式典となるため、感染対策も含め次の要領で式典を開催した。
  - i.第1回宣誓式として新たな式典を学生が主体的に企画できるよう、1・2・3年次生合同の宣誓式委員会を実施した。2・3年次生からアドバイスをもらうことで、1年次生委員がこれまでの戴帽式の歴史もふまえて式典の目的を達成する新たな方法の検討に参加できた。また、1年次生全員に事前アンケートを実施し、全員の意見も考慮し方法を検討した。
  - ii.リハーサル（10月8日、10月22日、10月29日、11月5日、11月19日）、会場準備、式典の運営を行った。リハーサルには2年次生も参加し、1年次生に身だしなみや動き方についてのアドバイスをを行った。
  - iii.式典方法は、開式の辞の後に2名ずつ入場し、壇上にあるボードに決意表明カードを貼り、ナイチンゲール像からろうそくの灯を受け継ぎ、壇上で写真撮影を行い、自分の机に着席する方法で行った。誓いの言葉は代表者1名が述べ、祝辞は学長のみ会場で賜り、その他は事前収録ビデオ上映とした。国歌斉唱・校歌斉唱はCDを流すのみとした。
  - iv.式典参加者は学生と学長・副学長・学科長・教授・宣誓式委員・事務他役割のある教員と最小限の人数で実施した。
  - v.記念撮影は式典中の個人写真と3密を避けるため、いこいの広場での集合写真撮影とした。また、動画配信が中止となったため、希望者のみ式典終了後に個人の記念撮影を実施した。
- ②式典に向けた活動の支援として、各学年の委員の相談に対応した。
- ③総括として1・2年次生委員に委員としての役割や課題を確認し、感想や意識の変化について基礎看護実習終了後に1年次生全員にアンケートを実施した。

### Check

- ①宣誓式によって自己の理想とする看護師像を確認し、実習で現場の看護活動を見学することにより、目標が明確になり、今後の学習意欲を高めることにつながっていた。しかし、式典やリハーサルに欠席する学生が目立った。

- ②感染予防対策として、昨年度よりもさらにリハーサル回数を減らし実施したが、少ない練習回数でもスムーズな式典を実施することができた。
- ③1年次生は2年次生や教員からアドバイスをもらうことで、実習に臨むのにふさわしい身だしなみの整え方を身につけることができていた。
- ④キャンドルサービスを式典に取り入れたが、式典自体は1時間程度で終了することができた。集合写真撮影、個人写真撮影も新たに加えたが、スムーズに終了することができた。
- ⑤リハーサルに2年次生が参加することにより、他学年との交流に繋がっていた。
- ⑥昨年からの要望が上がっていた式典の動画配信は、個人情報保護と撮影機材の問題から実施することができなかった。

#### Action

- ①式典やリハーサルを欠席する学生が目立った。式典の目的を学生が理解できるよう説明、詳細なスケジュールの提示をし、学生が確実に出席するよう促していく必要がある。
- ②感染対策が今後も続き、父兄の参加が今後も制限される場合、何らかの動画配信の方法を検討していく必要がある。
- ③今年度はリハーサルを通して、2年次生委員との交流が図れたが、さらに企画・運営を通して、他の学年との交流を図る機会が持てるよう方法を検討していく。

#### (3) 卒業生への支援

##### Plan

就職一年目の本学卒業生が、母校で日頃の体験や思いを表出し共感し合い、情報交換を行うことで、現場でのストレス軽減や早期離職防止、自己成長に繋げる機会を提供する。

- ①就職一年目の会「卒後1年目 YUZU の会」の開催:6月～7月上旬開催予定
- ②卒後1・2年目に対して卒業生通信の発行・本学ホームページへの掲載（5月、8月、2月）

##### Do

- ①本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況であり、対面集合しての開催は困難と判断し就職一年目の会「卒後1年目 YUZU の会」を中止した。
- ②卒後2年目に対し卒業生通信「ふぞろいな YUZU たち」を5月に各個人宛に発送した。卒業生通信には、看護学科の各専門領域でまとめたメッセージとともに学内の近況を記載した。
- ③卒後1年目に対し卒業生通信「ふぞろいな YUZU たち」を6月に発行をした。卒業生通信には、看護学科の各専門領域でまとめたメッセージと「卒業生支援企画就職1年目の会」開催見合わせについて記載し、WebClassのメールに添付した。

##### Check

- ①「卒後1年目 YUZU の会」開催に伴う感染リスク拡大の予防処置として、開催中止は適切だったと考える。
- ②看護学科各専門領域のメッセージは、現場でのストレス軽減や早期離職防止、自己成長に繋がれることへの一助となっていると考える。

## Action

- ①新型コロナウイルス感染症状況や、埼玉医科大学の方針に則り、開催の不可を本学決定機関によって決定する。
- ②次年度も開催不可となった際は、今年度同様5月に卒業生通信として看護学科の各専門領域でまとめたメッセージを配付する。

## (4) 専攻科の学生支援

### Plan

- ①学生生活や学習進度に関する相談と支援
- ②夏季冬季休業前の安全、学習面に関する指導
- ③遠隔授業に伴う機器やネットワークに関する相談と支援
- ④新型コロナウイルス感染予防に関する学生指導と支援

### Do

- ①学習面、生活面を学生クラス委員と共に運営、実施した。
- ②アドバイザー制により、3名の教員が学生6～7名ずつを担当し、教育コンサルト、生活指導を実施した。アドバイザー面接は、4月、9月、12月の3回実施した。
- ③実習開始前に実習生の感染症抗体検査結果やワクチン接種について調査した。その結果から抗体価の基準値に達していない学生に対し、個別に指導した。
- ④国家試験対策委員会を中心として、模擬試験を5回（8月、10月、11月、1月は2回）に決定し実施した。10月は、実習中のため自宅実施、1月の1回目は学内実施、1月は新型コロナウイルス感染拡大のため自宅実施とした。また、専攻科教務委員の教員が中心となり、学生の学習状況を加味した国家試験のための補講授業内容について専攻科会議の中で検討し、1月18日（火）から1月21日（金）までの期間に3名の外部講師による補講を設定した。
- ⑤学生の学生生活が自主運営できるようにクラス委員活動に関する支援を行った。
- ⑥遠隔授業実施の可能性に伴い、パソコン、プリンター等の機器所持、無線ネットワークの確認、学習支援システムオリエンテーションを行った。
- ⑦新型コロナウイルス感染予防のため、バイト禁止や感染予防行動についての学生指導を行った。
- ⑧新型コロナウイルス感染学生と濃厚接触者学生に連日の健康確認を行った。また、食料確保の情報提供を行った。

### Check

- ①学生活動では、クラス内の委員による（クラス委員、学生委員会、国家試験対策、卒業アルバム、謝恩会）役割を担って活動した。それぞれが学生個々の役割を自ら積極的に行う姿があった。教員との打ち合わせを重ねながら活動できた。
- ②国家試験対策として模擬試験を行った。成績不良者については、アドバイザーが面接を行った。
- ③新型コロナ感染拡大に備え、WebClassの動作オリエンテーションを行い、Zoomによる授業参加の可能性のあることを説明し、学生全員が遠隔授業実施可能な段階であるか確認した。
- ④新型コロナウイルス感染と予防による健康確認は適宜、電話やメールを使用し、実施した。

## Action

- ①スムーズに実習に入れるよう感染症抗体検査結果やワクチン接種は、入学時データと健康診断のデータ収集を早めに行い、学生への支援・指導を行っていく。
- ②様々な学習背景、キャリアを持つ学生の一人一人の学習ニーズを捉え、学生が自ら納得できる活動の支援を行う。
- ③予定していたアドバイザーによる学生面接に変更が生じた際の早急な代替日程の検討を行う。
- ④遠隔授業のスムーズな導入の為に個別指導の実施を行う。
- ⑤新型コロナウイルス感染予防行動に関する学生指導は、適宜実施を行う。

## 2) 社会活動

### (1) 教員の活動

## 看護学科

### ① 講義

所 ミヨ子.看護論.埼玉医科大学大学院看護学研究科.2021.6.26.

久保 かほる.教育評価.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.7.1,7.2,7.3.

久保 かほる.看護研究の実際.埼玉医科大学中堅看護師研修.2021.8.3-2022.7.2.

霜田 敏子.看護教育課程論（小児看護学）,実習指導方法論（小児看護学）.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.7.31.

今野 葉月.教材の活用.令和3年度埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.7.2.

今野 葉月.ファシリテーション.埼玉医科大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル.2021.10.2.

浅見 多紀子.看護研究の進め方.秩父市立病院.2021.5-2022.3.

蒲生 澄美子.実習指導方法演習（実習指導案の作成）.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.8.12.13.19.21.28.

内田 貴峰.立川市パパママ学級講師 2021.5.15,7.10,9.11.計3回.

内田 貴峰.中堅看護師研修「看護研究の実際」.学校法人埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.2021.8.3.

内田 貴峰.看護研究研修.埼玉医科大学病院 看護研究委員会.2021.8,9,10.（WEB開催）計3回.

内田 貴峰.立川市子育てひろば育児参加促進講座の講師「子育てをパパママともに楽しむために」.2021.11.27.

瀧山 文恵.看護教育課程論（老年看護学）,実習指導方法論（老年看護学）.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.7.10.

清水 百子.実習指導方法演習.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.8.12.13.19.21.28.

清水 百子. 令和 3 年度 埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会「実習指導の実際」発表会講評.  
2021.11.7.

平岡 斉志,小池 啓子.ID の考えを使って授業の改善案を考えよう.島根県看護教育継続研修,  
2021.8.27-28.

平岡 斉志,小池 啓子.ID 入門-.国立病院機構近畿圏内看護学校 5 校教育研修会.2021.9.4 (WEB  
開催) .

平岡 斉志,小池 啓子.-オンライン授業の設計とコツと事例-.国立病院機構近畿圏内看護学校 5 校  
教員研修会.2021.12.4 (WEB 開催) .

平岡 斉志,小池 啓子.インストラクショナルデザインを用いた効果・効率・魅力的な授業設計.愛  
知県立大学看護学部 FD 研修会.2022.3.3 (WEB 開催) .

小池 啓子.便利に使おう Web Class-Web Class 活用のコツと授業設計-.埼玉医科大学総合医療セン  
ター看護専門学校.2021.3.17.

小池 啓子. 実習指導方法演習.埼玉医科大学看護学生実習指導者講習会.2021.8.12.13.19 .21 .28.

## ②講演、その他

小池 啓子.コロナ禍での授業オンライン化と, ID に触れた同僚の変化.熊本大学教授システム学研  
究センター第 6 回研究会.連携研究員活動報告.2022.3.2 (WEB 開催) .

石川 裕貴.育児相談.越生町子育て世代包括支援センター.育児期の母親とその家族を対象.2021.  
8.26.11.26,2022.1.27.3.24.

## ③所属学会

所 ミヨ子.日本教育学会,日本看護学教育学会,日本教育技術学会,日本応用心理学会.

田村 直俊.日本内科学会,日本神経学会,日本自律神経学会,日本発汗学会,日本頭痛学会,日本老年医  
学会.

久保 かほる.日本看護研究学会,日本看護学教育学会.

霜田 敏子.日本小児看護学会,日本看護科学学会,日本小児保健学会,日本笑い学会.

今野 葉月.日本看護科学学会,日本看護学教育学会,日本看護診断学会,日本看護管理学会,日本応用  
心理学会.

浅見 多紀子.日本看護学教育学会,日本看護研究学会.

蒲生 澄美子.日本看護学教育学会,日本応用心理学会,日本教育工学会,日本教育学会.

内田 貴峰.日本看護管理学会,日本看護研究学会,日本母性衛生学会,東京母性衛生学会,日本母子看  
護学会,日本教育工学学会,日本助産学会.

瀧山 文恵.日本老年看護学会,日本看護科学学会,日本高齢者虐待防止学会,日本認知症ケア学会.

秋山 千恵子.日本看護研究学会,日本看護学教育学会.

鈴木 夕岐子.日本看護研究学会,日本看護学教育学会.

宮崎 素子.日本看護学教育学会,日本看護技術学会,日本応用心理学会.  
勝久 淳.日本精神保健看護学会,日本看護学教育学会.  
清水 百子.日本応用心理学会,日本看護科学学会,日本看護研究学会,日本健康医学会,日本保健福祉学会.  
小池 啓子.日本教育工学会,日本医療教授システム学会,日本看護管理学会,日本看護学教育学会.  
荒川 みひろ.日本看護学教育学会,日本高齢者虐待防止学会.  
海野 文子.日本在宅看護学会,日本在宅ケア学会,日本看護科学学会,日本医療教授システム学会.  
渡邊 あゆみ.日本精神科看護協会,日本精神保健看護学会.  
北田 良子.日本小児看護学会.  
榎本 佑美.日本応用心理学会.  
石川 裕貴.日本母性衛生学会,埼玉県母性衛生学会.  
布施 好朗.日本小児看護学会.  
加藤 穂高.日本応用心理学会.  
持田 奈穂美.日本老年看護学会,日本高齢者虐待防止学会.  
杉本 真弓.日本看護学教育学会.  
増田 睦美.日本母性衛生学会,日本「性とこころ」関連問題学会,GID(性同一性障害)学会.

#### ④役員歴

田村 直俊.日本自律神経学会(理事,自律神経機能検査法委員長,編集委員,学会教育委員)  
田村 直俊.日本発汗学会(理事)  
田村 直俊.日本神経治療学会(功労会員)  
瀧山 文恵.社会福祉法人藤和会特別養護老人ホーム四季の郷上尾(評議員)  
瀧山 文恵.日本高齢者虐待防止学会選挙管理委員長

#### ⑤出席学会

所 ミヨ子.日本看護倫理学会.第14回年次大会.WEB開催,2021.5.30-6.30.  
所 ミヨ子.日本看護学教育学会.第31回学術集会.WEB開催,2021.8.18-9.17.  
所 ミヨ子.第35回日本教育技術学会.WEB開催,2020.12.12.  
久保 かほる.日本看護研究学会.第47回学術集会,WEB開催,2021.8.21-22.  
久保 かほる.第29回埼玉看護研究学会.WEB開催,2021.12.4.  
霜田 敏子.日本小児看護学会第31回学術集会.WEB開催,2021.6.26-27.  
霜田 敏子.日本小児保健協会第68回学術集会.WEB開催,2021.6.18-20.  
霜田 敏子.日本笑い学会第28回大会.WEB開催,2021.8.28-29.  
霜田 敏子.日本看護科学学会第41回学術集会.WEB開催,2021.12.4-5.  
今野 葉月.第25回日本看護管理学会学術集会.WEB開催,2021.8.28-9.27.

今野 葉月.第 41 回日本看護科学学会学術集会. WEB 開催, 2021.12.4-5.

浅見 多紀子.日本看護研究学会第 47 回学術集会.WEB 開催,2021.8.21-22.

浅見 多紀子.第 52 回日本看護学会学術集会.WEB 開催,2021.9.28-12.26.

浅見 多紀子.第 29 回埼玉看護研究学会.WEB 開催,2021.12.4.

蒲生 澄美子.日本看護学教育学会.WEB 開催,2021.8.18-8.31.

蒲生 澄美子.日本応用心理学会.WEB 開催,2021.8.28-10.10.

内田 貴峰.第 39 回東京母性衛生学会学術集会. WEB 開催,2021.5.23.

内田 貴峰.第 20 回日本母子看護学会学術集会. WEB 開催, 2021.7.4.

内田 貴峰.第 20 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会. WEB 開催, 2021.8.14.

内田 貴峰.第 25 回日本看護管理学会学術集会.パシフィコ横浜ノース (WEB 開催) ,2021.8.28-29.

内田 貴峰.第 35 回日本母乳哺育学会学術集会.群馬パース大学 1 号館 (WEB 開催) ,2021.9.18-19.

内田 貴峰.第 62 回日本母性衛生学会総会. WEB 開催,2021.10.15-16.

内田 貴峰.第 41 回日本看護科学学会学術集会. WEB 開催, 2021.12.4-5.

内田 貴峰.第 13 回日本臨床看護マネジメント学会学術研究大会. WEB 開催,2022.2.6-2.13.

内田 貴峰.第 3 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会.WEB 開催,2022.2.19

瀧山 文恵.日本老年看護学会 第 26 回学術集会. WEB 開催,2021.6.11-27.

瀧山 文恵.第 17 回日本高齢者虐待防止学会. WEB 開催,2021.9.26.

瀧山 文恵.第 41 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催, 2021.12.4-5.

秋山 千恵子.日本看護学教育学会 第 31 回学術集会. WEB 開催,2021.8.18-9.17.

秋山 千恵子.日本看護研究学会 第 47 回学術集会. WEB 開催,2021.8.21-22.

秋山 千恵子.第 29 回埼玉看護研究学会. WEB 開催,2021.12.4.

鈴木 夕岐子.日本看護学教育学会 第 31 回学術集会. WEB 開催,2021.8.18-9.17.

鈴木 夕岐子.日本看護研究学会 第 47 回学術集会. WEB 開催,2021.8.21-22.

鈴木 夕岐子.第 29 回埼玉看護研究学会. WEB 開催,2021.12.4.

宮崎 素子.日本看護学教育学会第 31 回学術集会.WEB 開催, 2021.8.18-9.17.

宮崎 素子.日本看護技術学会第 19 回学術集会.WEB 開催, 2021. 10.1-25.

宮崎 素子.第 52 回日本看護学会学術集会.WEB 開催, 2021.9.28-12.26.

宮崎 素子.第 3 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会. WEB 開催,2022.2.11 - 3.6.

勝久 淳. 第 29 回埼玉看護研究学会. WEB 開催,2021.12.4.

清水 百子. 第 34 回日本保健福祉学会学術集会. WEB 開催,2021.10.2.

清水 百子. 第 30 回日本健康医学会総会. WEB 開催,2021.11.13.

清水 百子. 第 41 回日本看護科学学会学術集会. WEB 開催,2021.12.4-5.

小池 啓子.日本教育工学会 2022 秋季全国大会.WEB 開催,2021.10.16-17.

小池 啓子.第 6 回神戸看護学会学術集会.WEB 開催,2021.10.1-30.

小池 啓子.日本臨床看護マネジメント学会第 13 回学術研究大会.WEB 開催,2022.2.6.

小池 啓子.第 14 回日本医療教授システム学会総会・学術集会.WEB 開催,2022.3.17-18.  
小池 啓子.日本教育工学会 2022 春季全国大会.WEB 開催,2022.3.19-20.  
小池 啓子.熊本大学教授システム学研究センター第 6 回研究会.連携研究員活動報告.WEB 開催,2022.3.8.  
荒川 みひろ.第 17 回日本高齢者虐待防止学会.WEB 開催,2021.9.26.  
荒川 みひろ.第 41 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催,2021.12.4-5.  
海野 文子.第 41 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催,2021.12.4-5.  
海野 文子.第 14 回日本医療教授システム学会総会・学術集会.WEB 開催,2022.3.17-18.  
渡邊 あゆみ.第 31 回日本精神保健看護学会学術集会.WEB 開催,2021.5.25.-6.25.  
渡邊 あゆみ.第 46 回日本精神科看護学術集会.WEB 開催,2021.6.1-7.31.  
渡邊 あゆみ.第 52 回日本看護学会学術集会.WEB 開催,2021.11.26-12.26.  
北田 良子.日本小児看護学会第 31 回学術集会.WEB 開催,2021.6.26 - 27.  
北田 良子.日本看護学教育学会 第 31 回学術集会. WEB 開催,2021.8.18-9.17.  
北田 良子.第 41 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催,2021.12.4-5.  
石川 裕貴.第 20 回母子看護学会学術集会.WEB 開催,2021.7.4.  
石川 裕貴.第 20 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会. WEB 開催, 2021.8.14.  
石川 裕貴.第 35 回日本母乳哺育学会学術集会.WEB 開催,2021.9.18-19.  
石川 裕貴.第 37 回埼玉県母性衛生学会学術講演会.WEB 開催,2021.10.2.  
石川 裕貴.第 62 回日本母性衛生学会総会. WEB 開催,2021.10.15-16.  
石川 裕貴.第 41 回日本看護科学学会学術集会. WEB 開催,2021.12.4-5.  
石川 裕貴.第 3 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会.WEB 開催,2022.2.19.  
布施 好朗.日本小児看護学会第 31 回学術集会.WEB 開催.2021.6.27-28.  
布施 好朗.第 41 回日本看護科学学会学術集会.WEB 開催.2021.9.4-30.  
持田 奈穂美.日本老年看護学会 第 26 回学術集会. WEB 開催,2021.6.11-27.  
杉本 真弓.第 31 回日本看護学教育学会.WEB 開催,2021.8.18-19.  
増田 睦美.第 20 回母子看護学会学術集会.WEB 開催,2021.7.4.  
増田 睦美.令和 3 年度埼玉県母性衛生学会学術講演会.WEB 開催,2021.10.2.  
増田 睦美.第 62 回日本母性衛生学会総会. WEB 開催,2021.10.15-16.  
増田 睦美.第 17 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会.WEB 開催,2021.10.23-24.  
増田 睦美.GID (性同一性) 学会.WEB 開催,2022.3.21.  
小野 真央.第 29 回埼玉看護研究学会. WEB 開催,2021.12.4.

#### ⑥受賞

鈴木 夕岐子.埼短賞.2021.8.2.  
小池 啓子.埼短賞. 2021.8.2.

⑦ボランティア活動

⑧その他

(研修会企画・運営)

霜田 敏子.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.8.30.9.2.9.6 - 9.

今野 葉月.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.8.30.9.1-3.9.7 - 10.

内田 貴峰.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.10.4-7.

内田 貴峰.公立昭和病院運営協議委員会委員

瀧山 文恵.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.9.27-30.10.11-14.11.18-21.

宮崎 素子.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.8.30-9.3.9.7-10.

勝久 淳.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.9.27-30.

清水 百子.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.9.7-10.

小池 啓子.熊本大学教授システム学研究センター.連携研究員（一般）,2021.4-2022.3.

荒川 みひろ.実習指導方法演習（実習指導の実際）.埼玉医科大学職員キャリアアップセンター.  
2021.9.6-9.9.13-16.

(認定・資格等)

霜田敏子.2021年度熊本大学公開講座「インストラクショナルデザイン入門編」受講.2021.11.3.  
デジタルバッジ取得.

小池 啓子.eラーニングプロフェッショナル資格更新.日本eラーニングコンソーシアム.2022.2.

**専攻科**

①講義

稲井洋子.埼玉医科大学中堅看護師研修「看護研究の実際」.学校法人埼玉医科大学職員キャリア  
アップセンター. 2021.8.18.

稲井 洋子.排泄機能.生殖機能.免疫機能に障害のある成人の看護（女性生殖器）.独立行政法人国  
立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校. 2021.9.10, 9.17（2日間）.

稲井 洋子.母性看護学概論.さいたま看護専門学校. 2022.2.15, 2.22, 3.1（3日間）.

## ②講演、その他

稲井 洋子. 北本市マタニティセミナー（後期）「安心して出産・育児を迎えるために、助産師への質問タイム、赤ちゃんをお風呂に入れてみよう」。北本市保健センター. 妊娠 28 週以降の妊婦とその家族を対象. 2021.4.16, 2022.2.26（2 日間）.

稲井 洋子. 助産師国家試験直前セミナー〔WEB 開催〕2022. 助産師学生（各回約 250 名）. 2022.1.10, 2022.1.23（2 日間）.

稲井 洋子. 人権教育講演「大切な命」について. 三芳町立藤久保小学校（第 5・6 学年約 220 名と教職員）, 三芳町立藤久保中学校（第 2 学年約 80 名と教職員）. 2022.1.24.

稲井 洋子. 人権教育講演「大切な命」について. 三芳町立三芳小学校（第 5・6 学年約 200 名と教職員）, 三芳町立三芳中学校（第 2 学年約 140 名と教職員）. 2022.2.27.

## ③所属学会

稲井 洋子. 日本母性衛生学会, 埼玉県母性衛生学会, 東京母性衛生学会, 日本助産学会, 日本母子看護学会, 日本助産診断実践学会, 日本生殖心理学会, 日本「性とこころ」関連問題学会, 日本周産期メンタルヘルス学会.

北川 典子. 日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本母子看護学会, 日本生殖心理学会.

橋本 祐佳. 日本助産診断実践学会.

## ④役員歴

稲井 洋子. 日本母子看護学会（理事）

稲井 洋子. 日本助産診断実践学会（常務理事）

稲井 洋子. 埼玉県母性衛生学会（理事）

稲井 洋子. 日本分娩監視研究会（常任幹事）

稲井 洋子. 日本生殖心理学会（評議委員）

## ⑤出席学会

稲井 洋子. 日本母子看護学会第 20 回学術集会. WEB 開催, 2021.7.4.

稲井 洋子. 第 10 回日本 DOHaD 学会学術集会・第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会. WEB 開催, 2021.9.3-4.

稲井 洋子. 日本助産診断実践学会第 4 回学術集会. WEB 開催, 2021.9.25.

稲井 洋子. 第 37 回埼玉県母性衛生学会学術集会講演会. WEB 開催, 2021.10.2.

稲井 洋子. 第 62 回日本母性衛生学会. WEB 開催, 2021.10.15-16.

稲井 洋子. 第 17 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会. WEB 開催, 2021.10.23-24.

稲井 洋子. 第 19 回日本生殖心理学会・学術集会. WEB 開催, 2022.3.18-31.

稲井 洋子. 第 36 回日本助産学会学術集会. WEB 開催, 2022.3.19-5.5.

北川 典子.第 20 回日本母子看護学会学術集会.WEB 開催,2021.7.4.  
北川 典子.第 4 回日本助産診断実践学会学術集会.WEB 開催,2021.9.25-10.9.  
北川 典子.第 37 回埼玉県母性衛生学会学術講演会.WEB 開催,2021.10.2.  
北川 典子.第 62 回日本母性衛生学会.WEB 開催,2021.10.15-16.  
北川 典子.第 17 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会.WEB 開催,2021.10.23-24.  
北川 典子.第 5 回日本産前産後ケア・子育て支援学会.WEB 開催,2022.2.27.  
北川 典子.第 44 回日本助産学会学術集会.WEB 開催,2022.3.2.  
橋本 祐佳.第 20 回日本母子看護学会学術集会.WEB 開催,2021.7.4.  
橋本 祐佳.第 4 回日本助産診断実践学会学術集会.WEB 開催,2021.9.25-10.9.  
橋本 祐佳.第 37 回埼玉県母性衛生学会学術講演会.WEB 開催,2021.10.2.

#### ⑥受賞

#### ⑦ボランティア活動

#### ⑧その他

(研修会企画・運営)

稲井 洋子.令和 3 年度埼玉県看護協会通常総会議長団・選挙管理委員.2021.6.15  
稲井 洋子.日本母子看護学会第 20 回学術集会.一般演題(口演)座長.2021.7.4.  
稲井 洋子.日本助産診断実践学会第 4 回学術集会.特別講演座長.2021.9.25.

(認定・資格等)

北川 典子.CLoCMiP(助産実践能力習熟段階)レベルⅢ認証〔更新〕

#### (2)地域貢献

手洗い出前講座

Plan

①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に応じて情報収集と実施を検討する。

Do Check

①新型コロナウイルス感染拡大が収まらなかったため、幼稚園や保育園への訪問を中止し、今年度も昨年度に引き続き実施しなかった。

Action

①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に応じて、対面だけでなく遠隔での実施等についても検討する。

## ボランティア活動

### Plan

東日本大震災に対して、もしくは同規模の災害の発生に対して、被災地に向け短期大学看護学科として支援する目的で平成 23 年度に結成した。今年度も情報収集と必要な支援を行う。さらに、SDGs を意識して、リデュース・リユース・リサイクル活動も行う。

### Do

- ①支援活動を目的に情報収集を行った。日赤令和 3 年 7 月大雨災害義援金（対象地域は静岡県と島根県）に義援金 35,000 円送った。
- ②ボトルキャップを回収し、「キャップの貯金箱推進ネットワーク」へ 1 回送った。
- ③古本を回収した。
- ④学生を対象にした「リサイクルコーナー」を設置し、文具をはじめとする物品（未使用品）をリユースできるようにした。

### Check

- ①災害に見舞われた地域に対する支援活動として、義援金活動が行えた。
- ②ボトルキャップ 5,056 個を寄付した。これはポリオワクチン 5.8 人分にあたり、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ「キャップの貯金箱推進ネットワーク」を介して寄付された。ボトルキャップの洗浄作業は、障がい者施設（5 箇所）へ、委託による仕事の提供がなされた。
- ③古本は段ボール箱で 4 箱ほど回収できた。
- ④「リサイクルコーナー」を 5 回設置し、文具や生活用品等を提供した。提供した品物の大半は学生が持ち帰ったことから、支援を必要とする学生がいることを確認できた。

### Action

- ①支援活動を目的に、東日本大震災をはじめとする災害に見舞われた人（地域）のニーズを把握する情報収集を継続し、対応する。
- ②ボトルキャップと古本の回収と寄付を継続する。
- ③「リサイクルコーナー」の設置を継続する。SDGs の理念を意識してこのコーナーを運営していることを、教職員や学生へ周知していく。

## 高校生“夢”プラン

### Plan

埼玉県民の日（11 月 14 日）高校生「学び」“夢”プランへの参加は、2014 年（平成 26 年）に第 1 回目を行い、2019 年度（令和元年度）まで 6 回実施してきた。2020 年度（令和 2 年度）は主催者側による実施形態の一部変更があり、指定された日時が本学の授業設定のない時期であったため不参加の連絡をしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、開催は中止となった。2021 年度（令和 3 年度）は、主催者側の指定日ではなく、受け入れ側の大学・短期大学の設定日（9 月～11 月）に実施することになった。これにより本学も実施可能ということで趣旨に賛同し参加することにした。

後期の時間割の中で実施される 1 年次の基礎看護技術の学内実習を受講できるように計画した。

#### Do

上記、計画を各加盟高等学校へ配信したが、期日までに参加申し込みはなかった。

#### Check

この企画は高校生が将来の学校や学部選択の参考にし、将来の生き方や職業を考える機会となることをねらいとしている。今日、学校や学部に関する情報は、オープンキャンパス、パンフレット、インターネット上のホームページ等で容易に得られるが、大学・短期大学で普段行われている授業を学生とともに受講し情報を得る機会は多くない。本学は看護系の短期大学であるので、専門科目である看護学の技術習得のための授業を体験し、職業選択の参考にして欲しいと願っている。

#### Action

主催者の企画が本学のカリキュラム上可能である限り、高校生の希望があれば協力していく。

#### (3)公開講座

##### Plan

看護学科カリキュラム委員会企画として、地域貢献を目的とした公開講座を実施する。

##### Do Check

新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、昨年度に続き今年度の地域貢献を目的とした公開講座の実施はできなかった。

##### Action

- ①2022 年度の公開講座の開催に向けて、カリキュラム委員会でテーマ（内容）・実施方法等を検討する。
- ②公開講座の依頼内容を検討する。
- ③公開講座の PR(宣伝)は、カリキュラム委員会で実施する。

#### (4)高大連携事業

##### Plan

- ①高校生に対して、看護に関する学習の機会を設け、大学及び看護への関心を高めることを目的とし、協定を結んでいる 3 校を対象校に高大連携事業を計画する。
- ②高等学校と短期大学の教職員間で、学習者の学力の三要素（1.十分な知識・技能、2.思考力・判断力・表現力等の能力、3.主体性を持って協働して学ぶ態度）を身につけ、さらに向上・発展させて社会人として成長できるようにすることを目的とし、教育上の情報交換を計画する。

##### Do

- ①高校生対象の事業は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施を見送った。
- ②高等学校と短期大学の教職員間における情報交換は、2021 年 7 月 1 日（木）に、協定を結んで

いる高等学校（坂戸西高等学校、埼玉平成高等学校、武蔵越生高等学校）へ事務部長が訪問し行った。今年度、担当者が変更となった高等学校に対しては、高大連携事業の概要について説明し質問にも答えた。3校共に医療看護系を目指す生徒に対応できるように、高等学校と短期大学の教職員間で教育上の情報交換を行う必要があると確認しあった。

#### Check

- ①新型コロナウイルス感染防止対策の為、高校生対象の事業の実施を見送ったことは適切だったと考える。
- ②高等学校へ短期大学の事務部長が訪問する事で、情報交換が行えた。

#### Action

- ①高校生対象の事業は、コロナ禍における開催を目指して企画する。
- ②高等学校と短期大学の教職員間における情報交換も、コロナ禍においても継続できる様に計画する。

#### (5) 正課授業の開放

#### Plan

- ①高校生に対して、本学の授業を体験してもらうことを目的に正課授業を開放する。
- ②看護学科カリキュラム委員が企画し、事務部の協力を得て短大事業として取り組む。
- ③授業は前期・後期とも各領域から2回ずつ募集する
- ④2021年度はオンラインで実施することとし、受講者募集と取りまとめは事務部、授業案内と配信は授業者が実施する。

#### Do

- ①年間の募集授業回数は前期、後期の総計で28授業であった。参加者数は前期14名、後期11名にとどまった。

領域	前期		後期	
	実施授業回数	参加者数	実施授業回数	参加者数
基礎看護学	2	1	2	0
成人看護学	2	0	2	2
老年看護学	2	5	2	0
小児看護学	2	3	2	6
母性看護学	2	5	2	2
精神看護学	2	0	2	0
在宅看護学	2	0	2	1

年間参加数計：前期14名、後期11名

## Check

新型コロナウイルスの感染予防対策としてオンラインでの授業公開としたことは、事業継続として有用である。また、遠方在住の参加希望者が容易に授業内容に触れることができる面では継続の意義がある。一方で、オンライン授業に適した内容、適さない内容がある。

## Action

次年度以降の実施形態を検討する際の柱を2点挙げる。1点は、集合またはオンラインでの公開、または、ハイフレックスで実施する。2点目は、集合とオンラインの特徴にそれぞれ適合する授業の精選と依頼に関する事項である。この2点について検討し企画することで授業者も参加者も実施しやすく参加しやすい授業公開となる。

### 3)生活への支援

#### (1)奨学金制度

奨学金として次の制度を活用している。

##### ①本学奨学金制度

看護学科全員を対象、月額50,000円貸与

##### ②日本学生支援機構奨学金制度

全学科を対象としている。貸与を受けている学生は次の通りである。

(令和3年8月1日現在)

	1年生	2年生	3年生	合計
看護学科	34名	43名	36名	113名
専攻科 母子看護学専攻	4名	—	—	4名

貸与額 (令和3年8月1日現在)

##### 第一種 (無利子)

	自宅通学月額	自宅外通学月額
H31-R3年度入学生	53,000	60,000

##### 第二種 (有利子)

月額20,000円～120,000円より選択(10,000円刻み)

##### ③埼玉県育英奨学金制度

全学科を対象としている。令和3年度に貸与を受けている学生はいない。

##### ④修学支援新制度 (授業料等減免)

令和2年度より始まった新制度であり、要件を満たす学生が対象となる。日本学生支援機構の給付型奨学金と併用となっている。減免を受けている学生は次の通りである。

※本学は看護学科が対象

(令和3年11月1日現在)

	1年生	2年生	3年生	合計
看護学科	6名	14名	8名	28名

世帯収入や資産の要件を満たしていること(住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯)としてⅠ・Ⅱ・Ⅲ区分に区分けされ、区分に応じ、授業料・入学金が減免される。

⑤『学生等の学びを継続するための緊急給付金』

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、修学の継続が困難になっている学生等に対し、日本学生支援機構を通じて要件を満たす申請者に給付金が支給された。

一次募集	二次募集	合計
22名	14名	46名

(2) 学生寮・家主会

① 学生寮

キャンパス内に看護学科の希望者を対象とした学生寮がある。新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は、12宿舎に1,2年次生計9名が入寮した。13宿舎学生寮の改修工事(4人部屋を2人部屋に変更)を6月から11月に行った。工事中は、学年別に期間を変え職員宿舎10宿・12宿へ引越した。新入生の入寮説明会は4月3日(土)に保護者を含めて行った。

入寮者 (2021年9月13日現在)

	1年生	2年生	3年生	計		寮費(月額)	
女子	24名	28名	33名	85名	女子寮	1人部屋	15,000円
						2人部屋	12,000円
						4人部屋	6,000円

② 家主会(埼玉医科大学家主会)

家主会(埼玉医科大学家主会)は、近隣のアパート・マンションの入居案内をボランティアで行っている大家(家主)の会であり、特に学生の学習に適した環境整備に力を入れている。

③ 学生寮の新型コロナウイルス対策について

- i. 昨年度作成した「学生寮における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の対応について」を見直し、再度、配布と説明を行った。学生寮で「発熱や風邪症状が出た場合の受診の流れ」をフローチャートにして、配付し説明・指導した。
- ii. 政府の緊急事態宣言やまん延防止措置発令時は、毎日の検温等の健康チェック、マスク着用、手洗い等の手指衛生や3密回避等、基本的な感染防止対策を継続して実施するよう指導した。

- iii. 寮内の点検を行い、3密を避ける必要がある場所に目印や掲示（エレベータ内、トイレ、洗面所、キッチン、浴室等）した。また手指消毒剤の設置を行った。
- iv. 寮内でコロナ陽性者が発生した場合の緊急隔離や療養のために、キャンパス内の職員寮ライラックに2部屋を確保し、必要な電化製品や生活用品を整備した。

(3) 食堂・売店

毛呂山キャンパスには、東館にタリーズコーヒー、オルコスホール隣にコンビニエンスストアがあり、5号館にも売店がある。また、校舎1階ロビーには昼食等の出張販売（利用時間：11：50～13：00）がくる。職員食堂は新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生の利用を中止していたが、12月6日より利用を再開、同時に丸木記念館1階にて学生専用で昼食の提供を開始した。

(4) 駐車場

学生が利用できる駐車場として、「阿諏訪駐車場」がキャンパスの近くにあり、料金は19,800円（1,650円×12ヵ月）の年間一括払いとなっている。

(5) 生活支援

Plan

看護学科学生部委員を中心に、アドバイザー教員等の協力を得ながら学生生活の支援、学生生活の支援を行う。

① 学生生活の支援

体調管理や挨拶等の意識付けを目的とした月間目標の掲示（表参照）、体調管理、夏季・冬季休業前の安全面・学習面に関する指導、適切なSNS（Social Networking Service）の利用についての指導、接遇向上のための取り組み、学習環境の整備、学生寮の点検、ロッカー室の点検、寮生活に関する相談対応等を行う。

② 学生生活の支援

学生会活動の相談対応、大学祭（遙光祭）の相談対応、卒業アルバム・謝恩会の相談対応、週番の役割指導等を行う。

Do

学生生活の支援では、月間目標の掲示、長期休業前の指導、適切な

表 看護学科学生部委員会 月間目標

月	月間目標（テーマ）
4・5	挨拶「あなたの挨拶届いていますか？」
6・7	感染「ロッカー室の床座り！そのお尻きれいかな？」
9・10	挨拶「その挨拶、届いていますか？」
11・12	感染「そのテーブル、机や椅子はきれいかな？ 使用前に消毒を！」
1・2	感染「話すときは、必ずマスクをつけよう！」

SNSの利用についての指導、接遇向上のための取り組み、ロッカー室の使用状況の定期的な点検、週番による昼休み前に新型コロナウイルス感染予防行動のアナウンス、昼休みにTverを放映し黙食できる環境の整備を実施、学生寮の点検と生活指導（感染予防）を行った。また、女子更衣室ロッカー

の鍵の暗証番号部分に目隠しをして盗難防止に努める活動を継続した。接遇向上のための取り組みとして、1・2年次生に対して集合と Zoom 会議システムを使用して、「接遇で大切なこと」と題し、身だしなみ、挨拶、態度、言葉遣い、個人情報の守秘に関して指導を行った。その際、3年次生からビデオメッセージを通して、アドバイスをした。また、1年次生は基礎看護実習前に、看護学生として適切な接遇ができるように、各自の行動の再確認をするように指導した。

学生活動の支援では、学生が主体となって企画運営を行うよう、学生会では相談に応じた。また、学生会費の使用方法について、部長会を通して学生会や各クラブの部長と適正に使用できているか確認した。

#### Check

学生生活の支援として、Web による SNS の利用についての指導では、情報の投稿についての指導を強化した。接遇指導については、学年間の接触を避けるため Web による指導を中心に行ったが、1・2年次生とも指導直後は行動できるが、時間の経過とともに挨拶が少ないとの指摘があった。寮内で風邪症状や発熱、インフルエンザや胃腸炎等の感染性疾患が発生したときには、寮長を通して感染予防策を徹底するよう指導した。また、すみやかに保健室へ隔離し、受診を行い、その後自宅で療養するよう指導したことで、感染拡大の予防に繋がった。

学生活動への支援として、学生会の運営に関する相談に対応し、事故なく安全に運営できた。

#### Action

学生生活の支援では、学生の SNS 利用状況全てを把握することは困難であるが、指導時期や方法を工夫し、学生自らが考え、適切に SNS を利用できるようにする。特に実習時の指導を徹底するよう全教員が意識する。接遇向上のための取り組みは、挨拶等日常生活でのエチケットやマナーを強化した指導を行う。また、各自が卒業時の目標を設定して、継続して取り組むことができるように関わる。学内環境の整備では、引き続きロッカーの使用状況の点検を行う。学生寮の生活指導は定期的及び必要時点検し、快適な集団生活を送れるよう関わる。

学生活動への支援では、学生が主体となってさまざまな学生活動に参加・協力するよう関わる。また、学生会費の使用方法についての見直しや検討を継続していく。

#### 4) 学生の健康管理

保健管理委員会が担当している。活動内容は以下の通りである。

(1)新入生オリエンテーション：4月5日

(2)健康診断：5月7日、5月12日、5月13日

(3)B型肝炎抗体価検査：健康診断時、12月

(4)B型肝炎ワクチン接種：新型コロナウイルスワクチンの接種日に合わせ、分散して行った。

1回目；6月18日、6月21日、7月9日

2回目；7月16日、7月21日、8月6日

3回目；11月5日、11月26日

(5)麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：B型肝炎抗体価検査と同時に実施

(6)インフルエンザワクチン接種：11月25日、12月10日

(7)新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応：健康観察シートの確認及びWebClass入力、後期授業開始前に抗原検査キットの配付・実施

## 5) クラブ・同好会

本学の建学の精神である「師弟同行の学風の育成」をもとに、各クラブ・同好会活動が円滑にすすむように、顧問をはじめ、有志の教員が学生とともに活動に参加している。

2021年度クラブ・同好会と顧問の配置状況は以下の通りである。

令和3年6月1日現在、※は2021年度内に廃部

	団体名	代表責任者	学年	顧問	資格	会員数
1	茶道部	芝田 晴菜	3	瀧山 文恵	クラブ	7
2	日本舞踊部	足達 里花	3	霜田 敏子	クラブ	4
3	華道部	山川 聖加	1	今野 葉月	クラブ	5
4	バドミントン部 ※	手島 菜摘	3	鈴木 夕岐子	クラブ	
5	アロマセラピー部 ※	川田 楓	3	杉本 真弓	クラブ	
7	バスケットボール部	三島 由羽	3	清水 百子	クラブ	9
8	軽音楽部	馬場 泰成	2	加藤 穂高	同好会	4
9	室内アンサンブル同好会 ※	玉川 瑛理	3	内田 貴峰	同好会	

## 6) 学生のボランティア活動

看護学科では、平成21年度入学生を対象に新科目「社会活動」が開講した。選択科目であるが、令和3年度の履修学生は84名であった。この「社会活動」科目履修者も含め、例年様々なボランティア活動を行っていたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア活動は行わなかった。

令和3年度 ボランティア活動一覧（専攻科）

No.	活動名（活動内容）	期間	場所	参加人数
1	埼玉県産婦人科医会 性教育委員会 「産婦人科ツアー」動画撮影の協力	5/25	埼玉医科大学病院 産婦人科外来	3
2	埼玉県産婦人科医会 性教育委員会 「産婦人科ツアー」動画撮影の協力	5/27	埼玉医科大学病院 産婦人科外来	3
	計2件			6

### Ⅲ 教育資源と財的資源

#### 1. 人的資源

##### 1) 活動組織

##### (1) 活動組織

##### ① 事務

学務課の主たる業務は、教育課程の編成及び授業に関すること、学業成績に関すること、学生の入学・進級・卒業・休学・留年・退学・除籍等に関すること、国家試験に関すること、講義室・学生寮の管理に関すること等である。

庶務課の主たる業務は、事務部の事務に関し連絡

調整に関すること、教授会その他本学に係わる会議開催に関すること、学則・諸規程の制定・改廃に関すること、学生の募集に関すること、入学試験に関すること、調査統計等回答・報告に関すること等である。

学校群統括部長		内田 和利
事務部	部長	相田 香
庶務課	係長 課員	堀江 浩子 佐藤 真
学務課	係長 主任 課員	島田 典明 矢部 則昭 本間 美咲

##### ② 教員

	専任教員					非常勤講師	
	教授	准教授	講師	助教	助手	法人内	法人外
基礎教育	—	—	0	—	—	5	14
看護学科	6	5	8	8	—	74	18
専攻科 母子看護学専攻	1	—	1	1	—	27	16

##### ③ 司書 1名

#### 2) 学生による授業評価

##### Plan

授業評価は「教員各自が担当科目の授業方法を向上させ、学生の教育満足度を上げる方法の1つとする」という目的で、看護学科、専攻科の非常勤教員を含む全教員で行っている。評価用紙は「講義用」「演習用」「臨地実習用」の3種類（p.97-101）である。

##### Do

- (1) 授業評価アンケートはそれぞれの項目を5段階評価にし、合計得点を100点に換算して、講義用、演習用、臨地実習用の平均をレーダーチャートで表している。この結果は「学生による授業評価アンケート集計報告書」として教員のみではなく学生にも公開している（学生による授業評価アンケート集計報告書参照）。
- (2) 2017年度から教育の質の向上を図ることをねらいとして、全専任教員が授業評価アンケートの集計結果を基に授業改善策を立案し、授業実施後に評価した結果を看護学科長、専攻科長に提出

している。

- (3) 看護学科では 2019 年度から、学生自身が授業評価アンケート結果を活用できるようにするために、授業評価アンケート項目の学習態度の部分を具体的に表現して評価できるようにした (p. 102-103)。2020 年度からは前期、後期に 2 回実施している。

## Check

- (1)2020 年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔授業が導入され、対面授業と合わせて授業が行われている。授業評価アンケートの回収率は、アンケート実施のタイミングや、回収方法の変更等により 60%以下の科目もあるが、看護学科も専攻科も大半の科目が 70%以上（専攻科は 95%以上）であり、評価結果は講義、演習、臨地実習ともに 80 点以上（専攻科は 89.1 点以上）であった。これらのことから授業形態が変化しても、授業はおおむね学生の満足が得られていると考えられる。

臨地実習の授業評価アンケートは看護学科も専攻科も実施した。回収率はどの科目も 80%以上であり、ほぼ 90 点以上の得点であった。対象学生や実習施設的环境も異なり変化しているので一概に比較できないが、昨年度と比較してみると、看護学科の基礎看護実習（Ⅰ、Ⅱ）の平均得点は 90.2（昨年度 86.5）、各領域別看護実習の平均得点は 96.4(昨年度 94.0)であり、すべての実習の評価がアップしている。昨年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、臨地実習は学生が主体的に患者への援助ができるものではなかったが、昨年度よりも実践できる内容が増え、患者とのコミュニケーションや援助について学習できるようになった。このため満足度が高くなったのではないかと考えられる。臨地実習の学習方法は学内に置き換えられた部分もあるが、教材の工夫等により、昨年度よりもより臨地での学習に近いものが工夫して実施された。しかし従来の到達目標とは若干異なるので、満足度と達成度は相関していないことが推察された。

専攻科の臨地実習の授業評価結果は、1 科目「分娩期援助実習」のみで、回収率 95.0%、得点 91.5 で非常に満足度が高かった。専攻科は 20 名の学生がそれぞれ異なる施設において少人数で実習するため、看護学科の学生と比べ、分娩期の援助を直接、体験するという、より主体的な学習姿勢が望まれる。学生は、この体験回数が自己の学習成果の指標となるため、満足度が高かったのではないかと考えられる。

- (2) 学生による授業評価アンケートの集計結果の活用では、教員個々が担当した授業の評価結果が最も低かったものについて、その原因の分析と改善策を考え実行してきた。このように教員個々が PDCA サイクルを稼動しながら授業改善を行うことや、ティーチングポートフォリオを作成することによって、さらに教育の質は向上すると考える。
- (3) 看護学科で独自に実施してきた授業評価「学習態度」については、自己分析が具体的でなく、活用できていない学生もみられる。引き続き教員と学生から活用状況の情報を得て評価し、他の委員会と協力して、さらに学習効果を高められるようにする。

## Action

- (1) 学生の教育満足度をさらに上げるために以下の内容を実施する。  
自己点検・評価委員会、IR 委員会のデータを共有しながら、学生の教育満足度のみではなく、  
実質的な学力向上の方策を検討する。
- (2) 今後も遠隔授業が導入されること、また評価項目を数年見直していないことから、授業評価アンケート項目を見直し、より実態に即した授業評価を実施する。
- (3) 学生の学習態度に関する自己評価表の活用を高める工夫をする。  
(各学年次生への動機付けの強化、フィードバックの工夫等)

【授業評価アンケート】

看護学科

授業評価アンケート(講義用)

埼玉医科大学短期大学  
自己点検・評価委員会

このアンケートは、講義担当教員が、次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A:満足 B:やや満足 C:普通 D:やや不満 E:不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料(プリント等)の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにはほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・力量等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つよう努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為(私語、携帯電話の操作等)に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. さらに深く学びたいと思える講義内容であった。
19. 総合的にこの講義は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A:あてはまる B:ややあてはまる C:普通 D:ややあてはまらない E:あてはまらない]

20. 講義を受けるための事前準備(シラバスの確認・予習等)を行った。
21. 講義中は集中して聴いていた。
22. 迷惑行為をしなかった。
23. 教員の説明内容を積極的に書き留めた。
24. 不明な点は、担当教員に質問した。
25. 講義内容は授業中に理解できた。

## 看護学科

### 授業評価アンケート（演習用）

埼玉医科大学短期大学  
自己点検・評価委員会

このアンケートは、次回からの演習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 要点が理解できる内容であった。
4. 演習に使用する器具・機器の使用法の説明が具体的でわかりやすかった。
5. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. レポートの量・提出期限は適切であった。
8. レポートの書き方・考察の指導は適切であった。
9. 提出した学習課題の指導は適切であった。
10. 提出した課題の返却時期は適切であった。
11. 正しい知識・技術を習得できるように、その都度、教員は指導していた。
12. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
13. 学生の知識・力量等に合わせて進められた。
14. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
15. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
16. 積極的に参加できる演習であった。
17. さらに深く学びたいと思える演習内容であった。
18. 総合的にこの演習は良かった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 演習を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 演習中は積極的に取り組んだ。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. グループワークは協調性をもって行えた。
23. 不明な点は、担当教員に質問した。
24. 演習内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（講義用）

このアンケートは、講義担当教員が次回からの講義をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この講義について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 教員の声の大きさは適切であった。
2. 話し方は明快で、その速さは適切であった。
3. 教員の熱意が感じられた。
4. 教科書、参考資料（プリント等）の使用は適切であった。
5. 黒板・視聴覚機器の使用は適切であった。
6. 参考文献等の紹介は適切であった。
7. シラバスにほぼ沿うように進められた。
8. 要点が理解できる内容であった。
9. 講義の内容はまとまりがあり、順序立てて行われていた。
10. 他の講義とのつながりが説明されていた。
11. 講義は学生の知識・能力等に合わせて進められた。
12. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
13. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
14. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
15. 集中して聴ける講義であった。
16. 知的好奇心が刺激される講義であった。
17. 新しいものの見方が得られる講義であった。
18. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える講義内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

19. 講義をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
20. 講義中は集中して聴いていた。
21. 迷惑行為をしなかった。
22. 不明な点は、教員に質問した。
23. 講義内容は授業中に理解できた。

## 専攻科

### 専攻科演習用

#### 授業評価アンケート（演習用）

このアンケートは、次回からの当演習をより良いものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいよう協力をお願いします。

この演習について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

尚、該当しない項目には「C」を、マークして下さい

[A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満]

1. 演習に使用する材料や物品は十分に準備されていた。
2. 教科書、参考資料（プリント等）の使用方法・量は適切であった。
3. 演習に使用する器具・機器の使用法が具体的でわかりやすかった。
4. 教員のデモンストレーション等は適切であった。
5. 要点が理解できる内容であった。
6. 教員の熱意が感じられた。
7. 正しい知識・技術を習得できるようにその都度、教員は指導していた。
8. 進行速度が適切で、開始・終了時間が守られていた。
9. 学生の知識・能力等に合わせて進められた。
10. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。
11. 迷惑行為（私語、携帯電話の操作等）に対して適切な対応をしていた。
12. 学習課題の量・提出期限は適切であった。
13. 学習課題の指導は適切であった。
14. 積極的に参加できる演習であった。
15. 次の課題が明確になり、さらに深く学びたいと思える演習内容であった。

下記項目についてはご自身に関して下記の評価を記入して下さい。

[A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない]

16. 演習をうけるための事前学習（シラバスの確認・予習等）を行った。
17. 演習中は積極的に取り組んだ。
18. 迷惑行為をしなかった。
19. グループワークは協調性をもって行えた。
20. 不明な点は、教員に質問した。
21. 演習内容は授業中に理解できた。

授業評価アンケート（臨地実習用）

このアンケートは、臨地実習をよりよいものにするための基礎的資料を得ることを目的として行われるものです。ご自身の体験を、公正に示して下さいをお願いします。

この臨地実習(以下、実習)について下記の評価をマークシートに記入して下さい。

前半は、実習担当教員に関する評価項目であり、後半はご自身に関する評価項目になっております。

〔 A：満足 B：やや満足 C：普通 D：やや不満 E：不満 F：該当外〕

【教材・教具】

1. 実習要項やオリエンテーション資料はわかりやすかった。
2. 実習で使用する資料や物品は準備されていた。
3. 参考文献などの紹介や使用方法の説明は適切であった。

【学習環境】

4. 指導者（スタッフ）と連携をとり、指導に一貫性があった。
5. 学生が対象者（患者・家族等）とうまく関われるように配慮していた。
6. 学生がスタッフとうまく関われるように配慮していた。
7. 報告・連絡・相談がしやすい雰囲気を作っていた。
8. 学生が望む体験ができるような機会を作っていた。
9. 記録する場所や記録の保管場所、カンファレンスルームなどを確保できるように調整していた。

【実習内容・方法】

10. オリエンテーションは、実習の目的・目標・実習内容・実習方法が具体的でわかりやすかった。
11. 学生の看護観を深める実習内容であった。
12. 場面（行動計画・援助場面・カンファレンス）に合わせて適切な指導をしていた。
13. 正しい知識・技術・適切な態度を習得できるように、その都度、指導していた
14. 対象者の個性を適確に捉え、計画・実施・評価の一連の過程を実施できるよう指導していた。
15. 看護者としてのモデルを示していた。

【態度】

16. 熱意や誠実性が感じられた。
17. 学生の人格を尊重した関わりであった。

【学習課題】

18. 記録物の量は適切であった。
19. 事前課題の提示の時期・量は適切であった。

【学生への配慮】

20. 実習開始・終了時間が必要以上に超過しないよう配慮していた。
21. 学生の知識・力量などに合わせて指導していた。
22. 学生が考えたり、質問・意見を言う時間を持つように努めていた。

【総合】

23. さらに深く学びたいと思える実習であった。
24. この実習指導は良かった。

ご自身に関して下記の評価をマークシートに記入して下さい。

〔 A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない 〕

【学習態度】

25. 実習に臨むための事前準備（シラバスや実習要項の確認・予習・実技練習）を行った。
26. 積極的（意欲的）・主体的に取り組み、常に学ぶ姿勢をもっていた。
27. 常に倫理観をもって取り組んだ。
28. チームメンバーの一員として、行動（責任ある行動、約束を守る、協力する）した。

【内容の理解】

29. この実習の目的・目標が達成できた。

(1・2年次生)

学籍番号

氏名

授業評価アンケート（講義用）の学習態度の自己評価（2021年度）看護学科

【目的】自分自身の学習態度を定期的に内省し、見いだした課題の解決に活用する。

該当する記号に○をつけ、下線部下段に○をつけた理由（根拠）を項目毎に具体的に記述して下さい。

A：あてはまる B：ややあてはまる C：普通 D：ややあてはまらない E：あてはまらない

	前期（提出日： ）	後期（提出日： ）
<b>1. 講義を受けるための事前準備（シラバスの確認・予習等）をした</b>  ○をつけた理由（根拠）	A B C D E	A B C D E
<b>2. 講義中は集中して聴いていた</b>  ○をつけた理由（根拠）	A B C D E	A B C D E
<b>3. 迷惑行為（おしゃべり・飲食・居眠り・退席・携帯操作等）をしなかった</b>  ○をつけた理由（根拠）	A B C D E	A B C D E

<p><b>4. 教員の説明内容を積極的に書き留めた</b></p> <p>○をつけた理由 (根拠)</p>	<p>A B C D E</p>	<p>A B C D E</p>
<p><b>5. 不明な点は、担当教員に質問した</b></p> <p>○をつけた理由 (根拠)</p>	<p>A B C D E</p>	<p>A B C D E</p>
<p><b>6. 講義内容は授業中に理解できた</b></p> <p>○をつけた理由 (根拠)</p>	<p>A B C D E</p>	<p>A B C D E</p>
<p>今後に向けた 自己の課題 (提出日ごとに 必ず記載する)</p>		<p>*前期を踏まえてどのように活用できたかについても記載する。</p>

1. 自己評価後、学習成績・健康管理ファイルに必ず綴じ、アドバイザーに提出する。
2. アドバイザーが確認後、個別面接により返却する。
3. アドバイザー、各委員会等で必要時、活用するため必ず綴じておく。

### 3) FD 活動

#### 看護学科

##### Plan

- (1) 今年度の目標設定:①授業内容・方法を見直し、改善する。
  - ②学生の学修成果を向上させる（GPAの上昇、成績不振者の減少等）。
- (2) 年間計画の立案: ①研究懇話会の実施；2回／年
  - ②課題解決に向けた組織での取り組み；1回／月（8月除く）
- (3) 企画内容の検討・実施・評価:
  - ①各教員が問題意識を持ち、取り組む内容を提供する。
  - ②組織で取り組む必要がある内容についてディスカッションをし、具体策を立案する。
  - ③具体策をもとに実施・評価する。
- (4) 令和3年度SD活動・FD活動報告書の作成

##### Do

- (1) 目標達成に向けて下記を実施した。
  - ①研究懇話会を2回、1時間／回、話題提供者各30分（質疑応答含む）実施した（表1）。

表1. 研究懇話会

月日（曜日）	テーマ	話題提供者	司会	書記	参加者
2021年 12月21日 (火)	タブレット型端末とホワイトボード使用 による演習の学生の反応	杉本 真弓	布施	浅見	25名
	新生児スキンケアチームの取り組み	増田 睦美			
2022年 1月25日 (火)	協働と専門性について	所 ミヨ子	石川	小野	23名
	老年看護実習における高齢者の活動の場 と健康支援に関する学びへの取り組み	荒川みひろ			

- ②課題解決に向けた組織での取り組みとして10回実施した（表2）。

表2. 組織での取り組み

月日（曜日）	テーマ	方法	司会	書記	参加者
2021年 4月27日(火)	2021年度 態度のルーブリック評価 表(基礎看護実習)の共通理解	全体ディス カッション	久保	小野	26名
5月25日(火)	①2021年度 態度のルーブリック評価 表(基礎看護実習)の共通理解 ②ティーチング・ポートフォリオ作成	グループ ワーク	浅見	布施	26名
6月15日(火)	ティーチング・ポートフォリオ作成	グループ ワーク	布施 石川	—	27名
7月27日(火)	①ティーチング・ポートフォリオ作成 ②新カリキュラムの新開講科目の概要	グループ ワーク	布施 石川	—	27名

9月21日(火)	ティーチング・ポートフォリオ作成	グループワーク	浅見 小野	—	27名
10月26日(火)	2021年度 態度のルーブリック評価表の評価	全体ディスカッション	久保	石川	21名
11月24日(水)	2022年度 態度のルーブリック評価表作成	全体ディスカッション	浅見	久保	25名
12月21日(火)	2022年度 態度のルーブリック評価表作成	全体ディスカッション	布施	浅見	25名
2022年 2月22日(火)	2021年度のFD活動の目標達成度	グループディスカッション	小野	布施	24名
3月22日(火)	次年度の目標・課題	全体ディスカッション	久保	浅見	26名

(2) FD活動の企画会議を14回実施した。

#### Check

FD活動企画会議で、年間計画の立案や企画内容の検討・運営・評価を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために密集を避け、広い部屋もしくは複数の部屋を使用して対面でのグループワーク、全体ディスカッションを実施できた。研究懇話会は、話題提供者にとってはプレゼンテーション力や参加者とのディスカッション力等を向上させる機会となり、参加者も自らの研究テーマとは異なるテーマに興味・関心を示す良い機会となった。基礎看護実習の態度のルーブリック評価について、基礎看護実習の目的・目標から1年次、2年次の評価基準を設定したことを共通理解した。2021年度用に作成した領域別看護実習及び総合実習の態度のルーブリック評価表については、実際に使用して改善する必要性がある項目について検討し、2022年度に向けて修正した。今年度は、私立大学等改革総合支援事業の評価のひとつであるティーチング・ポートフォリオの作成を、既存の動画に沿ってグループワークをしながら、各自で本文作成に取り組んだ。個人で作成するものではあるが、グループでシェアすることで課題が明確化できたと考える。上記の取り組みにより、授業内容・方法を見直し自己の教育能力の向上に繋がったと考える。

#### Action

次年度も、研究懇話会は、教員の研究活動への意識付けとディスカッション力向上の場として継続する。2022年度入学生から新カリキュラムがスタートする。様々な課題が予測されるため、その都度、タイムリーなテーマを提案し、改正の基本的な考え方に則って教員全員で解決策を考えていけるようにする。

組織としてのFD活動の方法を検討し、FD活動の目的である教育能力（看護者、教育者、研究者、社会人としての能力）の質の向上に繋げていく（なお、詳細はSD活動・FD活動報告書に記載する）。

## 専攻科 母子看護学専攻

### Plan

助産師教員が授業内容・方法を改善し向上させるための取り組みとして、下記に取り組んだ。

- (1)専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）
- (2)教員相互の授業参観の実施
- (3)新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

### Do

- (1)助産師教員の為の研修会へ参加・意見交換の実施

全国助産師教育協議会の下記の研修会〔WEB 研修〕へ参加し、専攻科内で意見交換する機会を持った。

- ①2021年8月21日(土)

「学生指導にも保健指導にも活用できる動機づけ面接」

- ②2021年8月28日(土)

「イマドキ学生の心の傾向 ～葛藤の仕方とストレス耐性から探る関わり方のヒント～」

- ③2021年8月28日(土)

「ダイバーシティの実現を目指した社会教育 ～多様な性をもつ対象への支援をどのように教育するか～」

- (2) 教員相互の授業参観の実施

助産診断技術学の講義・演習に随時、専任教員が参加し、妊娠期・分娩期・産褥期と新生時期の各助産診断技術学の授業内容を把握する機会とした。特に演習では、入学時のアンケート調査により、コロナ禍で看護学実習がシャドウイング実習となり基礎的な看護実践経験の乏しいという実態を把握していたため、学生の実態を把握する目的も兼ねた。

- (3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討について

「妊娠期の助産診断・技術学」「産褥期の助産診断・技術学」の科目責任者が中心となり、新任教員の作成した演習計画書の作成、模擬演習、演習の実際、演習実施後の評価を行った。

### Check

- (1) 助産師教員の為の研修会へ参加・意見交換

今年度もコロナ禍にあり研修が WEB 研修となった。そのため開催地区が遠方であっても容易に参加することができるため、複数の研修会へ参加することができた。

専攻科で継続課題としている「成人期にある助産学生の学生指導」については、全国の助産師養成施設の教員との意見交換により教育の現状と具体的な対応方法等について情報を得ることができた。また、研修後の専攻科内での意見交換では、具体的な実践方法について意見交換できた。

今後も助産教育に関する研修会に参加し、他校の教員と意見交換をすることは教員としての教育方法のスキルアップを効果的に図る手段となると考える。今後も様々な研究会に参加し情報を得て、教員間でブラッシュアップを図れるようにしたい。

## (2) 教員相互の授業参観の実施

各助産診断技術学の授業内容を把握することで、学生が妊娠期から産褥期までを継続して考えられる様に経時的にふり返りながら授業することができた。演習では、基礎的な看護実践にかかる清潔操作や安全な技術について再度学習する機会を設ける必要が示唆され、夏休み等を利用した自己学習への取り組みをサポートすることができた。

## (3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

専攻科の授業展開は前期に集中しており、次々に異なる演習が実施される。担当する演習がスムーズに運ぶように時間的な余裕が持てるようにスケジュールを確認したい。また、実践した演習を次の演習に活かせるようにしたい。

### Action

次年度も引き続き同様の FD 活動を続けてゆく。

- (1) 専任教員の為の研修会の開催（若しくは研修会への参加）
- (2) 教員相互の授業参観〔WEB 授業含〕の実施と意見交換の実施
- (3) 新任教員のための演習（教育方法と評価）の検討

## 4) SD 活動

### Plan

教員個々人の教育・研究能力の向上のみならず、図書館司書や事務系職員の職能開発も含めた短大教職員の資質の向上を図るために、SD 活動を平成 22 年度から開始した。この取り組みが円滑に行えるように、SD 活動の目的と目標を次の通り定め、研修会を企画し開催する。

#### (1)SD 活動の目的

学生の学習と生活の支援の充実及び教職員の資質向上をはかる。

#### (2)SD 活動の目標

**Your Happiness is our Happiness** を達成させるための 5 つの C

みんなで実践して **Happiness** に！

<b>Communication</b>	いつも笑顔で、丁寧にかかわりましょう
<b>Compassion</b>	思いやりをもって接しましょう
<b>Courtesy</b>	他者への礼儀を大切にしましょう
<b>Corporation</b>	互いに力を合わせとりくみましょう
<b>Challenge</b>	自分の成長のため、組織向上のために挑戦し続けましょう

### Do

- (1)SD 活動企画メンバーは学長、副学長、顧問、学校群統括部長・事務部長、入試部長・広報部長・学生部長、専攻科代表(1名)、看護学科代表(2名)で編成した。
- (2)SD 活動メンバーのグループ編成は、職種や職位に片寄りが無いグループを 6 つ編成した。

表 1. SD 活動メンバーのグループ

G	グループメンバー						
1	所ミヨ子	稲井洋子	鈴木夕岐子	榎本佑美	布施好朗	佐藤真	(6名)
2	久保かほる	蒲生澄美子	瀧山文恵	宮崎素子	北川典子	堀江浩子	(6名)
3	霜田敏子	小池啓子	渡邊あゆみ	石川裕貴	増田睦美	矢部則昭	(6名)
4	荒川みひろ	北田良子	加藤穂高	杉本真弓	島田典明	本間美咲	(6名)
5	浅見多紀子	内田貴峰	秋山千恵子	勝久淳	清水百子	橋本祐佳	荒川浩明 (7名)
6	今野葉月	海野文子	持田奈穂美	櫻井邦恵	小野真央	相田香	(6名)

(3)企画会議は 2 回開催した。

(4)研修会 1 の開催

埼玉県私立短期大学協会教員研修会で示された 6 つのテーマを表 1 のグループに割り当てた。テーマは「学生募集」、「入学前教育」、「専門教育・実習教育」、「学生生活支援」、「キャリア支援」、「地域・中高大連携」であった。意見交換はグループ毎に司会と書記を決め、「現状」と「課題（問題）」、「課題解決に向けた意見・提言」を話し合った。この成果は「令和 3 年度埼玉県私立短期大学協会教職員研修会報告書」に掲載された。

(5)研修会 2 の開催

研修会 2 は「個人情報の保護について（SNS 含む）」をテーマとし、講義とグループ（表 1）による意見交換で構成した。講義は弁護士の田澤先生に依頼し、内容は個人情報保護法の目的や仕組み、対象となる情報や種類といった基本的な内容と教職員から募集した事例を用いた法的解釈で、約 30 分の動画にまとめられていた。この動画は本学教職員に限定したオンデマンド配信とし、配信期間は 2022 年 2 月 2 日（水）～3 月 8 日（火）と設定した。動画を視聴した後、主体的な学習ができる学習環境の整備に向けて「個人情報の保護（SNS 含む）」に対する現在の取り組み、今後の取り組みについて話し合い、その結果を報告書にまとめ提出してもらった。

(6)研修の成果は、「埼玉医科大学短期大学 SD 活動・FD 活動報告書」に掲載する。

#### Check

本学で企画した研修会 2 を中心としたアンケートを準備し、研修が終了したタイミングで実施したところ 29 名の協力が得られた。この結果を踏まえて評価する。

表 2. 項目ごとの回答の結果

n=29

項目	回答
時期は適切か	はい：28、 いいえ：1、 その他：0
研修会 2 の講義は満足したか	はい：23、 いいえ：3、 その他：3
研修会 2 の意見交換は満足したか	はい：22、 いいえ：4、 その他：3
研修会 1.2 は自己研鑽に有益か	はい：27、 いいえ：1、 その他：1

### (1)時期について

大多数が「適切」と回答しており、時期は適切と思われる。しかし、「年度末は避けてほしい」という回答もあったことから、更に余裕のある時期を検討する。

### (2)プログラムについて

#### ①講義について

「満足」の回答が多数を占めている。講義はオンデマンド配信を行い、くり返し視聴できるようにした。このような講義形式を取った事で理解が深められたという意見がみられた。このことから、講義を企画する際にオンデマンド配信も視野に入れて、企画する必要があると考える。

#### ②グループごとの意見交換

意見交換では、全員が参加し、十分意見交換ができるようにグループ毎に工夫をしていた。話し合う前に、個別に意見をまとめ確認し合い、意見交換を複数回行っていった。このようにグループ活動が主体的に計画・運営されていたことから、「満足」の回答が多かったと考える。

### (3)研修会 1.2 は自己研鑽に有益か

大多数が「有益」と回答している。特に研修会 2 で取り上げた「個人情報保護法」は 2020 年に改正が公布され、2022 年 4 月から施行される。このことから、教育活動や学校運営に必要な知識になる適切なテーマだったと考える。

アンケート結果から、今年度の研修会はおおむね教職員の満足度が高く自己研鑽に有益であったと思われる。その一方で、今年度は各グループの研修成果を全教職員が共有できる場が設定できなかったため、提出された研修成果報告書を教職員全員に配信するにとどまった。研修成果の共有は教職員の一人一人の資質向上の一助となり、さらには協働性を高めると考えられることから、次年度は全体での研修成果の共有について企画する必要がある。

### Action

(1)研修の時期は 3 月中旬を目処に計画する。

(2)研修方法にオンデマンド配信を含め計画する。

(3)テーマは「学生・保護者への接遇」、「著作権法」、今年度の研修評価として「個人情報保護」といった希望を踏まえて企画する。

(4)研修方法は感染状況を踏まえ選択するが、研修成果が全教職員で共有し深められる方法も検討し、実施できるように企画する。

5)委員会活動

(1)全学委員会一覧 専門部会一覧

※任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年間）

※◎印は委員長

令和3年4月1日現在

			看護学科	専攻科	事務系
A 第2火曜日 ブロック	代表者会議	丸木 学長 ◎所 副学長 霜田 学生部長 今野 広報部長	久保	稲井	内田, 相田 島田, 堀江
	自己点検・評価委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	久保, 秋山	稲井 (北川)	内田, 相田 島田, 佐藤
	入学試験委員会 ※任期1年間	丸木 学長 ◎所 入試部長	久保, 今野 (SD) 荒川	稲井	内田, 相田 堀江
	広報部委員会	◎今野 広報部長	瀧山, 小池 持田, 増田 櫻井	橋本	内田, 相田 堀江, 佐藤 (島田)
	IR委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	久保, 秋山	稲井	相田, 島田 矢部, 荒川
	研究倫理審査委員会	丸木 学長 ◎所 副学長	看護学科教授	稲井	相田, 堀江
	研究審議委員会	◎丸木 学長 所 副学長	久保	稲井	相田, 堀江
B 第1水曜日 ブロック	教務委員会 (シラバス検討 小委員会)	◎霜田 教務主任	浅見, 宮崎 渡邊	北川	相田, 島田 矢部
	紀要委員会		◎今野, 田村 内田, 秋山	北川	荒川
	保健管理委員会		◎田村, 浅見 石川, 榎本	橋本	島田, 佐藤 本間
	学生部委員会	◎霜田 学生部長	鈴木, 清水 北田	橋本 (北川)	相田, 島田 (本間)
C 第2月曜日 ブロック	防災委員会		◎清水, 持田	橋本	相田, 島田 矢部
	学生便覧検討委員会		◎ 蒲生	北川	矢部
	情報ネットワーク委員会		◎宮崎, 増田	橋本	島田
	図書館運営委員会	◎霜田 図書館長		橋本	荒川

附表 令和3年度 専門部会一覧

※任期：令和3年4月1日～令和4年3月31日（1年間）

※◎印は部会長

令和3年4月1日現在

専門部会区分	専門部会		看護学科	専攻科	事務系
改革総合支援事業 専門部会	教員評価企画部会	◎丸木 学長 所 副学長	久保 霜田	稲井	相田 島田 矢部
	高大連携企画部会	◎丸木 学長 所 副学長	久保 霜田 今野	稲井	相田 堀江
SD活動企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	今野 霜田	稲井	内田 相田
長期総合計画企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	久保	稲井	相田
学習環境整備部会		◎丸木 学長 所 副学長	鈴木 宮崎 加藤	北川	相田 堀江
県民の日 高校生「学び」“夢”プラン 企画部会		◎丸木 学長 所 副学長	久保	稲井	堀江

(2) 全学委員会：活動総括

### 教務委員会

#### Plan

- ①カリキュラムに関する調整・運営
- ②試験に関する調整・運営
- ③その他教学に関する事項への対応

#### Do

12回の定例会議を開催し、計画に沿って実施した。

#### ①カリキュラムに関する調整・運営

- i. 新型コロナウイルス感染状況をふまえ、分散登校、対面・遠隔授業の併用で運営した。
- ii. 2022年度授業日程・学事予定・学年暦を作成した。
- iii. 2022年度時間割を作成した。
- iv. 2022年度新入生オリエンテーション、看護学科2,3年次生オリエンテーション日程を作成した。

#### ②試験に関する調整・運営

- i. 2021年度試験日程・試験監督者の調整を行った。新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者の試験期間の出席停止に対しては、追試験の調整を行った。
- ii. 看護学科では、新型コロナウイルス感染拡大防止のために1,2年次生が交差しないよう使用できる教室を限定し、試験時間の途中退室を不可とした。

iii. 試験結果は学内掲示板と WebClass で伝達した。

③その他教学に関する事項への対応

i. 履修登録の申請、確認を行った。

ii. GPA 実施規則に則り、中間 GPA、年度末 GPA を提示し、成績不振者に対するアドバイザーによる個別指導に活用した。学生が成績状況を確認し、学修管理できるように指導した。

iii. 2022 年度シラバスの編集と発行を行った。詳細はシラバス作成状況 (p.47) 参照

iv. 2022 年度非常勤講師の異動状況の調査及び調整を行った。

v. 成績優秀者への学習上の配慮として、2 年次生は看護学セミナーの領域選択の優先、3 年次生は記念品の贈呈を行った。

## Check

①カリキュラムに関する調整・運営

新型コロナウイルス感染状況をふまえ、分散登校、対面・遠隔授業の併用により、ほぼ予定通り授業を実施できた。2022 年度カリキュラム改正により、新旧カリキュラムの併用となるため、時間割の調整に苦慮した。

②試験に関する調整・運営

新型コロナウイルス感染症関連の出席停止者に対する追試験は、試験期間外にずれ込むこともあったが、全て実施できた。

③その他教学に関する事項への対応

中間 GPA について、看護学科では、学生への提示時期が遅くなり、また、一部の科目で評価のフィードバックが不十分であった。

## Action

①カリキュラムに関する調整・運営

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施しながら授業が行われるように、その都度対応していく。2022 年度カリキュラム改正に伴い、新旧カリキュラムの授業が学生の不利にならないよう実施する。

②試験に関する調整・運営

対面・遠隔試験が円滑かつ公正に実施されるよう、調整を行う。

③その他教学に関する事項への対応

学生が学修成果を把握し、主体的に学習に取り組めるよう、評価のフィードバック方法を検討する。成績不振者への対応や成績優秀者への配慮について、その効果を検証し、方法を検討する。

## 入試委員会

### Plan

本学看護学科および専攻科のアドミッションポリシーに基づいて的確に入学試験を実施し、本学の学生としてふさわしい人材を確保する。

## Do

- ① 埼玉医科大学短期大学入試委員会規則（平成 30 年 11 月 16 日改正）に則って委員会を 12 回（臨時入試委員会含む）開催した。
- ② 看護学科は、2022 年度入学者選抜実施要領に基づいて学校推薦型選抜、一般選抜（Ⅰ期、Ⅱ期）を実施した。専攻科は 2022 年度入学者選抜実施要領に基づいて、学内推薦選抜、一般選抜／社会人選抜を実施した。
- ③ 令和 5 年度(2023 年)看護学科の学校推薦型選抜指定校について検討した。
- ④ 本学看護学科および専攻科の令和 5 年度（2023 年）入学試験日程について検討した。
- ⑤ 看護学科 2022 年度新型コロナウイルス感染症対応の追試験（一般選抜入学試験Ⅱ期）について、実施要領等を検討し作成した。
- ⑥ 令和 5 年度（2023 年）学生募集要項について検討した。

## Check

- ① 入学試験実施結果は本誌 p.68-69 参照。

看護学科は昨年度に比してどの入学試験においても志願者数は減少している。これは 4 年制看護系大学の増加、18 才年齢人口の減少、という状況から考えて必然のことと考えられる。このような状況の中で、いかに本学の特色をだして入学生を確保していくかについては、これまで入試種別の変更や種別ごとの募集人数の変更、学校推薦型選抜の出願資格の変更等を検討し実施してきた。AO 入試や社会人入試等の多様な入試形態を導入することについては文科省の指導事項であるが、本学としては、質の高い看護専門職を育成するためにも、専門科目を学習するための基礎学力が身につけていること、自己成長のための柔軟性のある考えを有していることを前提に、入学生を確保することが重要であると考え、入試形態は変更しなかった。

また、さらなる志願者数の確保に向けて、学校推薦型選抜を 2 回実施することにした。これにより、本学の入学試験は年に 5 回（専攻科含む）実施することになる。今後も志願者数が減少していくことが予測されることから、この実施結果をみて、さらに志願者確保に向けて検討していく。

専攻科は志願者数が昨年度と比べ若干増加している。今後は、助産課程の増設や学修課程の大学院化がみられることから、大幅な増加は期待できない。志願者数を少しでも増加、維持できるように検討していく。

- ② 令和 5 年度（2023 年）看護学科の学校推薦型選抜指定校について

看護学科では学校推薦型選抜の指定校の見直しを毎年行っている。入学試験種別に看護学科の入学後の GPA や留年・退学率をみると、例外はあるものの、指定校推薦の入学者は他の入学試験種別入学者よりも GPA は高く、留年・退学者は少なかった。モチベーションも高く、比較的基礎学力が保障されていると考えられる。したがって、次年度は出願資格の変更等を検討し指定人数を増やした。

### ③令和 5 年度（2023 年度）入学試験日程について

看護学科及び専攻科の令和 5 年度（2023 年）入学試験日程について検討した結果、入学試験日時が関連校とできる限り競合しないよう、学校推薦型選抜試験日、一般選抜試験日を調整し志願者数を確保することにした。

### ④令和 4 年度(2022 年度)新型コロナウイルス感染症対応の追試験について

新型コロナウイルス感染症対応について検討した結果、昨年同様の対応をすることにした。看護学科の学校推薦型選抜と専攻科の一般選抜／社会人選抜は追試験を実施せず、看護学科の一般選抜のみ対応することにした。

一般選抜 I 期で感染のために受験できない場合は、受験料はそのまま一般選抜 II 期へ振り替えて受験、一般選抜試験 II 期で感染のために受験できない場合は、受験料は徴収せず追試験を受験できるように実施要領を作成した。これらはホームページ上に公表し、受験生へは文書で通知した。結果として、一般選抜 I 期で振り替え対象となった受験生も、II 期で追試験対象となった受験生もいなかった。

### ⑤令和 5 年度（2023 年度）学生募集要項について

令和 5 年度の入学者選抜は、学校推薦型選抜の出願資格の変更や、入試回数の変更に伴う入試時期の変更等があるため、5 月完成をめざし検討することとした。

## Action

①志願者を減少させず、本学のアドミッションポリシーに合った入学生を確保できるようにするため以下の活動をしていく。

- i. IR 委員会の情報を共有し、広報部委員会と連携し本学の特色をだした活動をする（魅力ある短大づくり）。
- ii. 入学試験方法（試験日、試験種別、試験方法）の見直しを継続していく。
- iii. 看護学科の学校推薦型選抜における指定校の見直しを継続していく。

## 研究審議委員会

### Plan

埼玉医科大学短期大学特別研究助成規則（第 1 条）埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則（第 2 条）に則って、本学の学術を振興するため、看護学科、専攻科（母子看護学専攻）の各分野から優れた独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として、特別研究費として特に重要なものを取り上げ研究費を助成する。

### Do

①埼玉医科大学短期大学研究審議委員会規則（平成 30 年 11 月 16 日改正）に基づいて、本年度は 2 回の委員会を開催し、以下のスケジュールで 2022 年度の助成金申請の募集を行い、交付について審議した。

申請期間：2021 年 11 月 1 日（月）～2022 年 1 月 28 日（月）17 時まで

②これまでの研究報告書（実績報告書・論文報告書）の提出状況を確認し、未提出者には提出を促した。

③2021年度に助成を受けた研究費の執行状況を確認した。

#### Check

①2022年度の申請件数は1回目の募集期間内では1件であった。このため再募集することになった。再募集期間を2022年2月18日（金）17時まで延長した。その結果、共同研究3件の申請があった。審議の結果、採択が決定し教授会の承認を得て交付することになった（表1）。申請件数が少ない状況が続いているので、その理由を分析し、より多くの申請（特に若手教員の申請）を受け付け助成できるように検討する。

表 1.2022年度の助成対象研究

研究課題	助成金額	備考
仮想現実による看取りの疑似体験をとおして得た看護学生のエンドオブライフケアへの認識	¥873,754	共同研究
ICT（情報通信技術）を活用した老年看護学実習における高齢者の活動の場と健康支援に関する学び	¥813,152	共同研究
三陰交への灸による刺激が女子大学生の冷えと月経随伴症状に対する症状緩和の効果の測定	¥998,781	共同研究
合計	¥2,685,687	

②これまでの研究報告書の提出状況について確認した結果、令和2年度助成対象2件の研究実績報告書が未提出であった。これらの実績報告書は今年度中が提出期限となっているものである。早急に実績報告書を提出するように指導した。論文報告書は5年以内に報告することとなっているため、期限内に論文作成し発表するように促していく。

#### Action

教員（特に助教）の研究を推進するための方法を検討する（看護学科、専攻科ともに教員の研究に対する意識改革及び業務改善により研究時間を確保する等）。

### 学生部委員会

#### Plan

本学学生の有意義な学生生活をめざし、次の事項を協議する。新型コロナウイルス感染症予防のため、年間議題を変更して活動した。

- ①学生の学内外における事故、事件等への対応と処理
- ②学生会活動及び諸行事の開催についての検討
- ③学生のルール・マナーの徹底
- ④学生の福利厚生に関する事項
- ⑤学則28条の罰則に関する事項

- ⑥学生寮の生活指導及び改修工事に関する事項
- ⑦新型コロナウイルス感染症対策に関する事項
- ⑧教授会より委嘱された事項

## Do

本年度は 11 回の定例会議と複数回の臨時会議を実施し、次の対応を行った。

### ①学生の学内外における事故、事件等への対応と処理

今年度は、他者へ被害が及ぶ事故や事件は発生しなかった。

### ②学生会活動及び諸行事の開催についての検討

i. WEB による学生総会にむけて指導・支援を行った。

ii. クラブ活動について、顧問と教職員の協力を得て活動の助言をした。運動系等、活動を自粛する中、華道部、日本舞踊部、茶道部、軽音部が対面活動を開始するにあたり、感染対策の徹底等を確認した。新入生への部活紹介や入部促進のためのアナウンスに協力した。

iii. 学年ごとに交流を図る新入生歓迎ビンゴ大会やクリスマス会の企画に際しては、学生の主体性を尊重して助言した。

iiii. 遙光祭はオンラインで開催（学内のみの限定公開）、謝恩会は今年度も開催せず、招待者へ御礼状を発送する形式とした。

iv. エントランスホールにクリスマスツリーを飾って季節感を味わった。

v. 学生主体の生活支援用品の補充について助言した。

### ③学生のルール・マナーの徹底

i. ポスター掲示の他、口頭で交通ルール、SNS 使用の注意、歩きスマホの注意を促した。

ii. 校内の整理整頓（特にロッカールーム）と、部外者の立ち入りについて指導した。

### ④学生の福利厚生

今年度も昼食時間前後のウェルフェアの出張販売を行った。12 月からの職員食堂の利用再開に向けて、学生一人当たり 1,000 円分のミールカードを配布した。学生の生活支援のための企業からの食料品寄贈を受け、寮生や一人暮らしの希望者へ配布した。

### ⑤学則 28 条の罰則に関する事項

今年度は該当事項なし。

### ⑥学生寮の生活指導及び改修工事に関する事項

i. 学生寮の防犯対策、寮規約についての指導を強化した。

ii. 複数名のコロナ陽性者が発生した際は、「学生寮における新型コロナウイルス感染 (COVID-19) の対応について」のマニュアルに沿って受診し、消毒徹底や濃厚接触者の隔離、Zoom による指導、夜間・休日の体調異変時の対応調整等を行った。

iii. オンライン授業に必要な寮の Wi-Fi 環境の整備が行われた。

iv. 感染対策のため 4 人部屋を全て 2 人部屋にするための改修工事を行った。

#### ⑦新型コロナウイルス感染症対策に関する事項

- i. 「新型コロナウイルス感染症対策における学生対応について」フローチャートにして全学生に説明、指導した。
- ii. 「新型コロナウイルス感染対策に向けた報告書」を作成（2022年1月に様式を変更）し、教職員が統一した対応ができるように、各学科長に提出後、事務部で保管することとした。
- iii. アルバイトは原則禁止だが、学生の諸事情を考慮し12月に容認する旨を学生に説明した。
- iv. 校舎利用時間の変更（月～金：午後6時30分、土：午後5時、日・祭日：閉館）  
校舎利用時間終了後に教職員が見回りを実施し、学生の帰宅を促し、施錠の確認を行った。
- v. 学年別の昼食場所の調整、週番業務の①昼食時間の黙食の啓発、②環境清拭クロスの確認・補充、③共有スペースの整理整頓について指導を行った。
- vi. 学内に環境清拭クロスを設置・管理し、エアードッグ5台を購入し設置した。
- vii. コロナ感染者の発生時は、学内の椅子や机、共有部分の消毒、感染者の移動援助を行った。

#### ⑧教授会より委嘱された事項

主に、新型コロナウイルス感染防止対策（学生寮の指導やPCR陽性者の対応等）を検討した。

#### Check

Plan②③④⑥⑦について述べる。

学生会活動及び諸行事開催については、Webを活用した学生総会で、学生会役員の決定や部活動費の使用、遙光祭の決算報告の確認ができています。諸行事も学生主体で工夫し運営しています。ルール・マナーの徹底については、接遇指導内容は概ね守られているが、歩行時のながらスマホや学内の消灯やエアコンの電源OFFについての指導を必要とした。

学生の福利厚生については、コロナ禍での生活支援のために、情報収集と情報提供、食事に関すること等に対し取り組んだ。学生寮の生活指導については、例年同様、学生から様々な報告が寄せられ、教員の対応を統一し、当事者間で話し合いを持ち、学務課の協力を得て解決に向けて指導した。7月～11月の寮の改修工事及び引っ越しは、寮生と教職員の協力の下、事故なく終了した。コロナ陽性者が発生した際は「学生寮における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応について」のマニュアルや病院感染対策室の助言等に沿って対応した。

#### Action

- ①学内外における事故、事件への対応：例年の指導を継続して実施する。
- ②学生会活動及び諸行事の開催については、対面とWEBの併用により学生主体で運用できるよう指導する。
- ③ルール、マナーの徹底：SNS利用時の通年教育について指導を継続する。駐車場・駐輪場の使用ルール、節電の徹底、歩行時のながらスマホについて指導を継続する。
- ④学生の福利厚生：出張販売内容（学生の希望する商品）についてウェルフェアと調整する。生活支援について、情報収集と情報提供を継続し、可能なことを実施していく。

⑤学生寮について

- i.全ての階が個室または2人部屋に改修工事が行われた。寮生が安全に安心して勉学に取り組めるよう、寮生活のルールを継続して指導する。
- ii.新型コロナウイルス感染症は病院や保健所の指示に従う。
- iii.インフルエンザ等の感染性疾患の場合は、原則として自宅療養とする。
- iv.災害時の寮内一斉連絡方法や1階の放送機器を防災委員とともに再確認する。

⑥新型コロナウイルス感染症対策については、各自が感染対策を徹底できるように保健委員と連携して指導していく。

⑦教員と学務課職員が密に連絡をとり、各情報を共有し話し合い、必要時役割を分担する。

## 図書館運営委員会

### Plan

- ①令和2年度図書利用統計報告
- ②令和2年度図書館予算決算報告、令和3年度図書館予算の説明
- ③令和2年度購入図書リスト作成、令和3年度購入希望図書の受付
- ④入館者数等及び開館日数
- ⑤年間受入図書冊数
- ⑥学生支援「学内外 Web 上での EVO 教材の映像コンテンツ」配信
- ⑦図書、雑誌及び視聴覚資料等の充実
- ⑧年2回の希望図書受付
- ⑨学生対象の「図書希望のリクエスト」
- ⑩新型コロナウイルス感染対策
- ⑪川越実習時の図書返却延長
- ⑫新入生オリエンテーション
- ⑬その他

### Do

①年間の入館者数等及び開館日数をデータにまとめた。

入館者数:2558人 貸出者数:1068人 貸出冊数:1916冊 開館日数:236日

②年間受入図書冊数

・単行本 278冊 ・AV 7巻 ・製本雑誌 78冊 (和:63、洋:5、紀要等10)

③学生支援 (EVO 教材の映像コンテンツの配信)

教員等からの要望もあり、継続及び新規に追加で3タイトルを契約した。

(年間契約配信コンテンツ 継続:○ 新規:◎)

○最新 基礎看護技術シリーズ (全24タイトル)

○臨床看護技術シリーズ (全26タイトル)

○映像で考える！看護のための情報リテラシー（3タイトル）

◎日常生活における高齢者のヘルスアセスメント

◎老年看護援助技術シリーズ

◎見て知るリハビリテーション看護

#### ④新型コロナウイルス感染対策

コロナ感染対策として、昨年度と同様に図書館利用について以下のことを継続していく。さらに今年度には図書貸出・返却する場所に、アクリル板を設置した。

- i. 感染予防のため、手指の消毒してからの入館とする。
- ii. 座席数を42席から18席に減席し、対面にならないようにする。
- iii. 換気のため、窓を2箇所オープンにする。
- iv. アクリル板の設置（図書貸出・返却時）（5月上旬設置）

⑤ 図書購入の優先順位は学生の利用頻度の高い図書を購入した。また、利用頻度の高い経年劣化した図書の補充を行った。継続図書（参考図書）及び雑誌購読・国家試験関係の見直しを行った。

⑥ 前後期と年2回に希望図書の受付をした。前期の締め切りを6月21日（月）とし、後期の締め切りを10月21日（木）とした。

⑦ 学生対象に「図書希望のリクエスト」を継続して行った。

⑧ 川越実習時の図書返却延長について

川越実習期間中、返却期日に図書を返却できない学生に対して、申請により延長を認めた。

⑨ 今年度から新入生オリエンテーション（図書館利用）を7F講堂にて、スクリーンを活用して説明を行った。

⑩ 図書館利用案内について学生便覧の見直しを行った。

⑪ 図書館掲示板に新着図書リストを掲示した。

#### Check

① 利用状況については、過去2年間を比較してみると横ばい状態である。前期はコロナの影響は少なかったが、後期1月半ば以降はコロナの関係で図書館を利用できなかったため減少したが、年間総数では前年度と同数くらいとなった。

② 学生支援のため、学内外で看護・医学系DVD教材の映像コンテンツ(EVO)をWeb上で視聴できるようにした。学内外Web上でのEVO教材の映像コンテンツ(EVO)配信については、学生の学習に最適な環境を提供することができた。コロナ渦での在宅期間中に学外(自宅)からの映像コンテンツを視聴できることは便利となった。また、内容が充実していて遠隔授業(自宅学習)教材としての用途もあるため高評価の意見が多く聞かれた。教員等からの要望もあり、継続及び新規に追加で3タイトルを契約した。さらに、学生の意見等を参考にしながら、他の分野の配信が必要なものを今後検討していく予定である。

③ 新型コロナウイルス対策による図書館利用に関しては、学生はルールを守り利用していた。

④ 国家試験問題集を利用する学生が増えたため、さらに教材等の充実を図った。

- ⑤利用頻度の高い雑誌に切り替えることで、雑誌の利用頻度が増えた。今後も継続して行っていく。
- ⑥今年度も各学科内で予算内での運用ができた。

#### Action

- ①本学図書館は、特に看護に特化した図書の充実を図る必要がある。利用者のニーズを把握し、講義や実習に役立つ図書の充実を図る。
- ②予算内での購入ができるよう確認する。
- ③引き続き、教員や学生が購入希望しやすい環境作りを行っていく。
- ④相互貸借や文献検索のアドバイスなど、利用しやすい図書館の運営に心がける。
- ⑤図書館内にパソコンの増設を計画する。
- ⑥古い図書及び雑誌のバックナンバーを保管できる場所を確保する。
- ⑦EVO コンテンツ及び視聴覚教材の充実を考える。

### 紀要委員会

#### Plan

- ①第 33 卷埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行
  - i .2 月末、原稿募集メールの配信
  - ii .演題エントリー：4 月末日
  - iii .原稿提出：8 月末日
  - iv .原稿審査結果報告書提出：10 月 14 日
  - v .訂正原稿提出：10 月 28 日
  - vi .修正後の確認：11 月 15 日
  - vii .印刷依頼：11 月末日
  - viii .令和 4 年 3 月発行

#### Do

- 9 月に委員会（メール会議）を行った。
- ①第 33 卷の演題エントリーは 5 編であった。
- ②原稿の提出は 5 編(原著 1 編、報告 4 編)であった。

#### Check

- ①演題エントリーの追加募集はしなかった。
- ②原著 1 編、報告 4 編を掲載した。
- ③初校、再校を経て令和 4 年 2 月 15 日に印刷依頼できた。
- ④原稿提出等の期日は守られたため、令和 4 年 3 月に発行できた。

#### Action

- ①第 34 卷埼玉医科大学短期大学紀要の編集・発行を継続する。
- ②埼玉医科大学関連施設、職員キャリアアップセンター、関連学校を通じて投稿を募集する。

## 保健管理委員会

### Plan

- ①学生の保健相談
- ②定期健康診断
- ③B型肝炎抗体価検査及びワクチン接種（抗体陰性者）
- ④麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査：看護学科1年生、専攻科生対象
- ⑤インフルエンザワクチン接種：希望者対象（実費）
- ⑥学生の健康上の問題が生じた場合の対策協議
- ⑦新型コロナウイルス感染拡大防止対策

### Do

- ①定期健康診断の日程及び役割調整（4月メール会議）
- ②インフルエンザワクチン接種の日程調整（9月メール会議）
- ③B型肝炎抗体価検査および麻疹・風疹・ムンプス・水痘の抗体価検査の実施
- ④B型肝炎ワクチン接種の実施
- ⑤インフルエンザワクチン接種の実施
- ⑥新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施：注意喚起、健康観察シートの配付・チェック、抗原検査キットの配付・実施

### Check

定期健康診断は予定通り行われた。B型肝炎ワクチンの接種は昨年実施しなかったため、看護学科1、2年次生と専攻科生を対象に実施した。新型コロナウイルスワクチンの集団接種及び個別接種により、B型肝炎ワクチン接種の日程調整が難しく、3回目接種が11月末までかかった。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策については健康観察シートの記入に加え、登校できない時も確認できるようにWebClassへの入力を行った。

### Action

- ①新型コロナウイルス感染拡大防止対策に応じて実施スケジュールを調整する。
- ②新型コロナウイルス感染拡大防止について、他の委員会と協力しながら対策を継続する。

## 学生便覧検討委員会

### Plan

- ①2021年度（令和3年度）学生便覧の掲載事項及び令和4年度学生便覧の発行に関する審議を行う。

### Do

- ①2021年度学生便覧を配付した。

学生：新入生に対しては看護学科・専攻科ともにオリエンテーションの際に冊子を配付した。

看護学科在校生に対しては学年別オリエンテーション時に配付した。

教職員：4月1日に配付した。

②2021年度学生便覧の正誤を確認し、以下の追加・訂正を行った。

i .p.14 及び p.19 授業科目「法学」について、2年次後期開講（誤植）を1年次後期開講（正）に訂正した。

ii .p.50 アドレスの脱字は、一斉メールで誤植を連絡し修正を依頼した。

③2022年度版学生便覧の編集・発行を担当した。

i .各委員へ学生便覧内容の検討を依頼し、編集作業を行った。

各委員会への原稿依頼日：令和3年9月13日（締切日：11月30日）

初校正1月・第2校正2月・最終校正3月（人事の関係のみ）

ii .発行部数：430部

内訳：看護学科学生350部、専攻科学生20部、教職員50部、予備10部

## Check

①学生便覧を事前に教員に配付し、オリエンテーション時には学生に配付したことで学生生活を送る際の一助として活用してもらえたことができたと思う。

②令和3年度学生便覧を配付と同時に誤植を確認し、修正を速やか伝達した。学生、教職員への周知が図れた。

③令和4年度(2022年度)学生便覧の編集について、各委員会、部署と連携し作業を行った。

## Action

①令和4年度(2022年度)学生便覧に訂正、追加等が生じた際には学生、教職員への周知を速やかに行う。

②今後も各委員会・部署と連携し、学生生活のサポートとなり、教職員が活用しやすい便覧の編集、発行をめざす。

## 防災委員会

### Plan

活動目的：防災意識の向上を図る。

①防災避難訓練

②学生寮（13宿）の避難訓練

③防災標語の作成

④短期大学の備蓄品の点検、整備

### Do

①防災避難訓練は、感染症対策のため学科及び学年ごとに新年度オリエンテーション内で実施した。

日にち：4月8日（木） 1年次生、2年次生、専攻科                      4月6日（火） 3年次生

内容：i .各教室で、避難時の基礎知識の動画の視聴と講話（事前学習として、防災に関する動

画を視聴してもらった)

- ii. 「憩いの広場」まで避難し、消火器の使用方法や実演を実施
- iii. 防災避難訓練後に課題を科した。

② 学生寮(13 宿)の避難訓練は感染症対策及び寮の改修のため、動画の視聴後の課題提出を科した。

動画の内容：災害に備えての準備(地震や火災)防災グッズの紹介

避難の実際(ベランダからの避難、避難梯子での避難、非常階段からの避難等)

視聴時期及び課題の時期：2021 年 12 月～2022 年 1 月

- ③ 防災意識の向上を図るため、学生から防災標語を募集し構内に掲示した。標語は個人投稿とし、4 月避難訓練時の課題と一緒に募集した。全部で 44 作品が集まり、投票で上位 10 作品を採用した。
- ④ 災害備蓄品(飲料水等)の数量と賞味期限の確認し、適宜追加購入した。
- ⑤ 「埼玉医科大学短期大学 災害時発生時避難マニュアル」、「学内での災害・事故・事件等発生時の緊急連絡先」、「火災・地震等における避難心得」の掲示を確認し、学生に周知した。
- ⑥ 地震発生後の教職員行動マニュアルを新任教職員へ配付した。
- ⑦ 学科ごとに保管している危険物(火災の原因となる物、鋭利な物、薬品類)の設置、保管状況を点検した。
- ⑧ 学生便覧に記載されている「防災関連事項」について検討し、追加・削除等の修正を行った。
- ⑨ 消防設備について、法令点検を 2 回受けた。
- ⑩ 火元責任者の確認、提示を行った。

#### Check

- ① 防災避難訓練は、避難時におしゃべりやスマホを見ながら避難する学生もいたため講評時に注意した。欠席者 1 名(体調不良)で個別に対応した。課題の未提出者には再度提出を求め、参加者全員の提出が確認できた。課題の中の学びや感想では、「動画が実際に活用できる内容で良かった」「消火器は実際に操作できたら良かった」「学生の中で防災委員を設けてはどうか」「避難訓練は年 2 回実施してはどうか」等の積極的な意見があった。
- ② 学生寮の防災訓練は、動画の視聴と課題提出のため、実際に避難する場合の動画を作成した。在寮生からは、避難時のイメージ化を図ることができた。
- ③ 防災標語は、個人投稿により例年よりも多くの投稿があった。災害に関する意識付けになった。
- ④ 災害備蓄品の数量と賞味期限の確認を行い、災害時に使用できるよう整備することができた。
- ⑤ 新年度オリエンテーション中の中で、防災避難訓練を、防災意識に関する啓蒙活動(防災に関する資料の配付や掲示、防災標語の掲示等)により、防災意識の向上の一助となった。

#### Action

- ① 感染予防対策のため、今後も全学生同時の避難訓練は実施できないと考えられる。学年別に段階を踏んで目標が到達できるよう内容や方法を検討し実施する。
- ② 今年度は、学生寮の避難訓練を実施できなかった。今後は、実際に避難訓練を行い、意識の向

上を図る自治寮のため、学生自身が身を守るための判断ができるよう働きかける。

- ③今年度の実施・評価をふまえて、消防防災訓練や学生寮の防災訓練の実施時期や方法を検討し実施する。
- ④今後も、防災標語や防災訓練の活動を通して、防災意識の向上を図る。

## 自己点検・評価委員会

本学における自己点検・評価体制（p.18-23）を参照。

## 情報ネットワーク委員会

### Plan

- ①学生・教職員 ID、ネットワーク・メール利用に関する運用・管理
- ②学習管理システム WebClass 及び動画配信システムの導入と運用
- ③共有フォルダの運用・管理
- ④ネットワーク環境の整備・管理
- ⑤コンピューター実習室の管理

### Do

- ①学生・教職員 ID、ネットワーク・メール利用に関する運用・管理
  - i. 教職員のネットワーク接続状況を確認し、情報技術支援推進センターへ報告した。
  - ii. ウイルス対策は、定期的に Windows update、ウイルスソフトの更新を教職員に促した。
  - iii. 必要時、学生・教職員のメール ID 登録や削除を情報技術支援推進センターへ依頼した。
  - iv. 学生メールの利用案内、転送設定、送受信確認を行った。
  - iv. 教職員及び学生の電子メール・WWW 利用状況を情報技術推進センターから収集し集計した。
- ②学習管理システム Web Class および動画配信システムの運用
  - i. 情報技術支援推進センターへ依頼しコースや ID を登録し、教職員と学生が利用できるように環境を整えた。学生へは学期ごと学年ごとに使い方や注意事項を説明し、定期的にメールによる案内を送り、個別に相談に応じた。教職員へは年度開始時に、利用方法と注意事項を連絡し、随時、学生の利用状況の情報提供をしながら利用に関する連絡を行った。  
さらに、教育コンテンツ利用に関する誓約書の内容を見直し、学生の誓約書を管理した。
  - ii. 動画配信システムとして、YouTube を利用した動画配信ができる環境（看護学科 2 か所、専攻科 1 か所）の管理・運用を行った。学生へは、入学生対象に、動画視聴案内し練習した上で動画による受講が問題なくできているか確認しサポートした。教職員へは、運用状況を知らせ、配信サポートや配信トラブルの対応を随時行った。
- ③共有フォルダの運用・管理
  - i. 教職員共有フォルダの使用方法的案内、新任教職員の ID 登録を行った。
  - ii. 学期ごとに共有フォルダ内を点検し、必要時フォルダ管理者に連絡調整した。

#### ④ネットワーク環境の整備・管理

- i. 入学生及び保護者向けに学業におけるネットワーク利用について案内を出し、準備を促した。入学後は、個別の相談に応じた。
- ii. 学生各自のネットワーク環境及び機器類の所持状況を調査し、教職員へ情報提供と学生への配慮を依頼した。
- iii. 学生寮の Wi-Fi 工事が 5 月に完了しネットワーク環境が整った。その後、9-10 月の学生寮の改修工事に伴うネットワーク環境の影響を確認し対応した。改修工事時に、Wi-Fi のアクセスポイントを増設し、改修工事後に各部屋内のネットワーク通信状況を再確認した。
- iv. 学内に設置された Wi-Fi や有線 LAN 等のネットワーク環境の確認を行い、講義室等の Wi-Fi 整備について検討した。

#### ⑤コンピューター実習室の管理

- i. コンピューター実習室の利用方法について新入生にオリエンテーションし、定期的に学生へ指導した。学生のルール違反が複数回発生し、注意喚起を繰り返し行った。
- ii. コンピューター実習室の機器や備品の故障や破損、使用状況を確認し対応した。
- iii. パソコンの買い換え及びシステム改善について、関連部署や業者への連絡調整を行った

### Check

#### ①学生・教職員 ID、ネットワーク・メール利用に関する運用・管理

- i. メール利用回数は、教職員・学生ともに多く、連絡ツールのうち最も利用させていた。学生・教職員から、個別に数件の「特定のメールが受信できない」「関係のないメールが送信させる」等の連絡があった。
- ii. ウイルス対策については、学生・教職員ともに随時注意を促し、問題は発生しなかった。

#### ②学習管理システム WebClass 及び動画配信システムの運用

- i. WebClass は、看護学科入学生へは入学前の 2 週間で練習を行い、入学後は概ねスムーズに利用開始できていた。専攻科入学生へは、入学時オリエンテーションで使い方の説明を行い、問題なく利用できた。学生からは「困ったことはない」「使い慣れた」という意見があった。
- ii. 動画配信システムは、ライブ動画配信が中断することが多かった。

#### ③共有フォルダの運用・管理

- i. 共有フォルダの利用頻度は多く、情報共有の場として有効活用している。
- ii. 情報漏洩等のトラブルはなく、データを共有ができた。

#### ④ネットワーク環境の整備・管理

- i. 入学生へは、入学前からネットワーク環境や機器類の整備を学生へ促したことで、大多数の学生は準備を整えることができた。
- ii. 今年度、学生寮の Wi-Fi 工事が完了でき、調査結果より学業に支障がない範囲でネットワーク環境が整った。
- iii. 校舎内の講義室の Wi-Fi 整備については申請中である。

#### ⑤ コンピューター実習室の管理

- i . 利用方法のオリエンテーションや学生のルール違反に対する注意喚起を行った結果、概ね適切な利用ができていた。
- ii . 現在のパソコンは 9 年以上経過し、学生から操作性の遅さに関する意見・要望が多い。しかし、パソコンの買い替えは次年度以降に見送りとなった。

#### Action

##### ① 学生・教職員 ID、ネットワーク・メール利用に関する管理・運用

- i . ID とパスワードの管理等のセキュリティー強化、ウイルス対策について、引き続き学生・教職員ともに定期的に注意を促し、周知徹底していく。
- ii . 一斉メールの利用状況を把握しながら、必要時有効利用できるよう使用方法を見直す。

##### ② 学習管理システム WebClass 及び動画配信システムの運用

- i . 学生向け・教員向けの利用案内方法（時期・内容・方法）を見直し、利便性を高め、使い方の質が向上するよう運用する。
- ii . 動画配信と動画管理方法について利用状況を把握し、他のシステムの利用を含め、引き続き検討する。

##### ③ 共有フォルダの運用・管理

- i . 教職員共有フォルダの利用状況を把握し、セキュリティー管理を含め、適切に有効利用できるよう運用・管理する。

##### ④ ネットワーク環境の整備・管理

- i . 学生寮の Wi-Fi の管理・適切な運用を行う。
- ii . 講義室等の Wi-Fi を整備ができるよう、引き続き関係部署との連絡調整を行う。

##### ⑤ コンピューター実習室の管理

- i . 利用者が有効に適切に利用できるよう、オリエンテーションや定期的な指導を行う。
- ii . 次年度以降に、コンピューター機器類の入れ替えやシステムの変更を行えるよう、引き続き関係部署との連絡調整を行う。

### 広報部委員会

#### Plan

本学の教育研究活動の取組を広く社会に発信するとともに、学生募集を円滑に行うことを目的とする。

- ① オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスの企画、運営
- ② 本学への個別相談、団体見学の調整
- ③ 高校訪問の企画、調整
- ④ 学外説明会への参加、担当者の調整
- ⑤ 電子媒体、紙媒体の広報（受験生インフォメーションの改訂、入試用 Q&A の修正、本学ホームページの更新、進学関連の電子媒体と紙媒体への広告）
- ⑥ 受験生アンケート「志望校決定について」の実施

## ⑦本学の教育研究活動の取組の公開

### Do

学校法人埼玉医科大学委員会運営規程（平成11年3月20日制定）に基づき、埼玉医科大学短期大学に設置する埼玉医科大学短期大学広報部委員会（平成30年11月16日）の運営に則って、定例会議を実施した。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と広報活動の両立を目指した。

①オープンキャンパスは昨年度に引き続きオンラインを活用して開催した。開催に関するお知らせと申し込みフォーム（Googleドライブで作成）はホームページに公表し、参加者と連絡を取った。オープンキャンパスは看護学科6回（3月・5月・7月は2回・8月・10月）、専攻科2回（7月・8月）実施した。

②本学への個別相談、団体見学への対応は中止した。

③高校訪問は指定校の内、在校生が多く通学しやすいと思われる高校を選び、訪問の許可が得られた17校を教職員3名で分担し訪問した。コロナ禍における高等学校の授業や志願者の状況、オープンキャンパスに関する要望等について意見交換した。高校から本学への要望も受け、これらの内容は入試委員会へ提供した。

④学外説明会（高校生・予備校生対象）は、可能な限り参加し県外（遠方）の場合は資料を送付した。

⑤電子媒体、紙媒体の広報

i. 過去3年出願のあった高校を対象に、看護学科の募集要項を236部郵送した。

ii. 近隣の病院や看護系大学を対象に、専攻科の募集要項を35部郵送した。

iii. 資料請求を希望する個人に対して、2,000冊を超えるパンフレット等の資料を郵送した。

iv. メディアプラン「看護の学びしごと」に学生の手稿を掲載した。

v. リクルートスタディサプリ進路のアプリ（フォト・ムービー）の更新を行った。

VI. ホームページの「入試 Q&A」の掲載を継続した。

⑥受験生アンケート「志望校決定について」を集計した。

i. 本学のホームページに、受験生のほぼ全員がアクセスしていた。

ii. 看護学科の結果から、オンラインオープンキャンパスに参加した受験生は、学校推薦型選抜試験で98.5%、一般選抜試験では100%であった。本学を志望で参考にしたこと（複数回答）は、学校推薦型選抜試験では「パンフレット、ホームページ、オープンキャンパス」が多く、受験の決め手（複数回答）は「埼玉医科大学関連病院への就職、関連施設での実習、奨学金制度、アドバイザー制度、」であった。一般選抜試験もほぼ同様の回答であった。

iii. 専攻科の結果から、受験に際して最も参考にした内容（複数回答）は、学生募集要項、本学のパンフレット、ホームページが多かった。

⑦ホームページの専任教員「研究活動内容」に掲載している「教育研究活動の取組」を更新した。

### Check

オンラインオープンキャンパス、高校訪問、学外説明会等の参加人数を含めた詳細は、学生募集の広報p.66-68を参照する。

①オンラインオープンキャンパスは看護学科・専攻科共に参加者の満足度は高く、ニーズに一致した企画・運営であったと考える。

②個別相談と団体見学への対応は中止した。その理由は、新型コロナウイルス感染者数の急激な増加のため、感染防止対策を適切に行いながら対応するのが困難なためである。

③高校訪問、学外説明会について

i. 高校訪問では指定校の内、在校生が多く訪問の許可が取れた17校を訪問した。高校生の進路に関する志向や本学への要望といった情報を収集し、これらの情報を入試委員会へ提供した。

- ii. 学外説明会は12件参加し、参加者92名に本学の教育活動を紹介し、学生募集の一翼を担った。
- ④電子媒体、紙媒体の広報
  - i. パンフレットの内容は一部修正し、増刷した。希望者や高等学校、業者等に郵送し広報に努めた結果、再度増刷が必要となった。
  - ii. ホームページは、最新の情報が提供できるように適宜更新した。オープンキャンパスの開催に関わる通知は、時期を逸すること無く示せたことから、オープンキャンパスの企画・運営がスムーズに行えた。
  - iii. 進学関連の電子媒体と紙媒体の広告は、費用の関係もあり庶務と相談して調整できた。
- ⑤受験生アンケートの考察
  - i. 受験者のほぼ全員がホームページを閲覧していることから、ホームページの内容を充実させたり、レイアウトを工夫したりすることが求められる。スマートフォンからアクセスする場合も閲覧しやすいように整える必要がある。
  - ii. 受験生のほとんどがオープンキャンパスに参加しており、動画の視聴回数からくり返し視聴していたと推察される。そのため、受験生のニーズと一致した情報提供になるよう更なる工夫が求められる。

#### Action

- ①本学の特徴を明確にして、その特徴を社会に正しく発信することを継続する。配信方法としては、ホームページやパンフレット、ポスター及び進学関連業者の広告(紙媒体と電子媒体)を用いる。更に、可能であれば在校生が出身校を訪問する「母校訪問」を再開する。
- ②受験生のニーズ及び学校選択に関わる志向等の情報収集を継続する。
- ③アドミッションポリシーに基づいた入学生の確保を実現するために、高校生の進路に関わる志望や高校からの要望等、広報活動で得た情報を入試委員会へ提供する。

### 研究倫理審査委員会

#### Plan

埼玉医科大学短期大学研究倫理審査委員会規定(平成30年11月改正)に則って、本学看護学科及び専攻科における人間を対象とする研究(教材も含む)に関する倫理性を審議する。

#### Do

今年度は合計7件の倫理審査の申請があり申請受理後、その都度会議を開催し審査した。申請内容の内訳は以下の表の通りである。

表 1. 令和3年度 申請状況

	申請件数 (件数)	
	学内 (6)	教員 (4)
		専攻科 (0)
	学生 (2)	看護学科 (2)
		専攻科 (0)
学外 (1)		(1)

表 2.平成 27 年度～令和 3 年度 申請状況 数字は、件数

年度(西暦)		H.27	H.28	H.29	H.30	R.1	R.2	R.3	
		(2015)	(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	
学内	教員	看護学科	2	8	7	6	2	6	4
		専攻科	0	1	4	3	1	0	0
	学生	看護学科	7	3	5	1	2	1	2
		専攻科	21	18	18	0	0	0	0
学 外		4	4	4	0	0	0	1	
合 計		34	34	38	10	5	7	7	

## Check

①今年度は申請件数が昨年度と同様であった。過去 7 年間の申請傾向をみると、減少した状態が続いている。

②今年度の申請中 1 件は、外部からの学生へのアンケート調査実施の依頼であった。申請内容を検討した結果、倫理的に問題ないということで承認の返事をし、調査に協力することになった。

他の 6 件は学内からの研究倫理審査申請であった。申請された研究計画書 6 件中、4 件は教員から、2 件は学生からの申請であった。審査の結果、6 件中 3 件は 1 回の審査で承認された。2 件は条件付き承認となり、計画書を修正し再提出されたものを委員会で確認した。他の 1 件は再審査となり、再提出されたものを審査した結果、条件付き承認となり、再再提出された計画書を委員会で確認した。

条件付き承認や再審査となった研究は、研究方法や倫理的配慮等、十分に検討されないままの申請になっている傾向がみられた。

②平成 27 年に研究倫理審査委員会規定が定められ、正式に委員会が発足してからの申請状況の推移をみると、大きな変化は専攻科学生からの申請がなくなったことである。これは臨地実習の関係で、選択科目である「母子看護学研究Ⅱ」の履修者がなく、受け持った症例をまとめるところに留まったため申請者がいなかったのではないかと考えられる。看護学科の学生からの申請も減少している。以前は個人研究の申請もあったが、徐々にグループ研究になってきたこと、人間を対象としない文献研究であったことから、研究する学生数はこれまでと同様であっても、件数として少なくなったのではないかと考えられる。

また、教員の申請数が横ばいである。これは教員の欠員や、学生気質の変化が要因となっていることが考えられる。基礎学力の低下や生活体験の希薄さからくる手先の不器用さの目立つ学生が増えてきたことで、技術修得に向けた学生指導に時間を要するようになってきた。このような学生の特質をふまえ、教員は欠員状況の中で教育活動、学生指導を行わなければならない。さら

に新型コロナ感染予防への対応も加わり、研究活動が思うようにできなかったのではないかと考える。

研究活動は教育活動や学生指導等、多忙な業務の中での活動ではあるが、大学教員としての責務であるので努力していく必要がある。

③委員の役割遂行のための活動として、今年度も学校法人埼玉医科大学主催の「公的研究費の適正使用」に関する研修会への参加や、研究倫理向上 e ラーニング受講等を行い学習してきた。

より適正な倫理審査を行うためにも、さらに学習を継続していく。

#### Action

①教員、学生に対して研究倫理の教育を強化する(オーサーシップに基づいた研究分担の明確化等)。

②審査委員のスキルアップのため研修を受講する。

### IR (Institutional Research) 委員会

#### Plan

埼玉医科大学短期大学 IR (Institutional Research) 委員会規則 (平成 30 年 11 月改正) に則って委員会を 8 回開催した。目的は次の通りである。教育、研究、その他の運営に関して、データを調査、収集し、分析することで得た客観的エビデンスを教育、研究、学生支援、経営等に活用し、本学の質の向上を推進する。この目的のもと次の 4 つの役割を実行した。1.各部署からのデータ収集 (教育、研究、学生支援、経営等に関する)、2.分析のためのデータの統合と資料作成・管理、3.データの分析と課題の考察、4.分析結果の報告 (教授会、関係各部署へ)、5.分析結果の活用の促進。

2021 年度の年間活動計画に基づいて以下の内容を実施した。

#### Do

①卒業生・修了生の動向調査と分析

i.卒業時・修了時、ii.卒後・修了後 1 年目、iii.卒後・修了後 3 年目、iv.卒後・修了後 5 年目

②プレイスメントテスト実施 (看護学科 1 年次生)、結果の分析

③ティーチングポートフォリオ作成状況の確認

④看護学科・専攻科アセスメントテスト実施、結果の分析

⑤学習ポートフォリオ活用状況の確認

#### Check

①卒業生・修了生の動向調査と分析

今年度の調査対象となった学生は、卒業時・修了時は 2022 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 1 年目は 2020 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 3 年目は 2018 年 3 月の卒業生・修了生、卒後・修了後 5 年目は、2016 年 3 月の卒業生・修了生であった。回収状況は表の通りである (表 1、表 2)。

表 1.看護学科

	対象者数	回収	回収率(%)
卒業時	90	89	98.9
卒後 1 年	82	73	89.0
卒後 3 年	48	44	91.7
卒後 5 年	34	33	97.1

表 2.専攻科

	対象者数	回収	回収率(%)
修了時	19	19	100
修了後 1 年	19	13	68.4
修了後 3 年	20	13	65.0
修了後 5 年	20	9	45.0

看護学科の昨年度の卒業時の調査は、新型コロナウイルス感染対策のため、Web 上での調査になったため回収率があがらず困難をきわめた。このため、今年度は登校時に調査した結果、回収率はアップした。

看護学科は卒後の年数が経つに連れて調査対象者数が減少している。特に卒後 3 年目の減少が目立つ。これは種々の理由により就職時の職場に在職していないためではないかと考えられる。法人関連施設における本学の卒後 3 年目の離職率は 38.8% (2021 年 4 月現在) であった。2020 年度の厚生労働省の報告によると、短期大学卒業生の卒後 3 年目の離職率は 41.4%、医療福祉系は 37.6%である。このことから考えると、3 年目で調査対象者が減少しているのは平均的な数値であるといえる。

専攻科の回収率は修了後の年数が経つに連れて下がっている。就職後 3 年目の離職率は 42.9% (2021 年 4 月現在) であった。2020 年厚生労働省の報告では大学卒業後 3 年目の離職率は 31.2%である。専攻科は看護基礎教育プラス 1 年間と考えて、大学卒業後 3 年目と比べると離職率がやや高い。これは就職した施設における助産師としての役割内容が影響しているのではないかと考えられる。法人関連の施設は、正常分娩よりも、高度医療の対象となる異常分娩の援助が多い。このため、修了生は正常分娩の経過をとる対象への助産経験を希望し他施設へ異動するため、容易に連絡がつかず、回収率も低くなっているのではないかと考えられる。

## ②プレースメントテスト

看護学科は 2019 年から、「学生自身が自己の基礎学力を客観視し、専門科目を効果的に学習する方法を身につけられるようにする」という目的で実施している。教員はこの結果を活用し、学生個々の基礎学力に応じた指導方法を追究し、学習効果を高められるように支援している。

今年度は、このテストの導入対象となった学生が卒業したため、他のデータ (受験した入試種別、3 年間の GPA、アセスメントテスト結果、国家試験対策模擬試験の結果) と関連づけて分析した。その結果、プレースメントテストで高得点の学生は GPA、アセスメントテスト、模擬試験結果ともに高いレベルを維持できていた。また、反対にプレースメントテストの得点が低かった学生は、他のデータも低レベルに位置する傾向がみられた。これらのデータは学習効果を高められるように、学生と共に教員も活用しているが、プレースメントテストで基礎学力の高い学生はさらにモチベーションを高めレベルアップできるように支援し、低い学生は、モチベーションが下がらないように、基礎学力を補強しながら専門的な知識・技術が修得できるように個別指導を行っていく必要がある。

### ③ティーチングポートフォリオ作成

2020年から看護学科・専攻科の全教員が、自らの教育改善と教育業績の評価に活用することを目的として、ティーチングポートフォリオを作成してきた。ティーチングポートフォリオの学習会を重ね、教員個々がエビデンスに基づいた教育活動を省察することによって、今後の課題を見いだすことができた。次年度は、明確になった自己の課題を追究し、さらに教育改善に努めていく。

今年度は作成することの効果について、教員個々の意識を具体的に把握するまでに至らなかったの  
で、教員の意識調査を行う。

### ④アセスメントテスト

#### i.看護学科

看護学科は学年末に1回実施している。今年度の結果は、1年次生の平均点は72.3点（昨年度69.2点）、2年次生は77.6点（昨年度76.5点）、3年次生は96.5点（昨年度96.6点）であった。1,2年次生は昨年度と比べ若干アップしている。緩やかではあるが学習が進むにつれて専門的な知識が身につくにつれてあるのではないかと考えられる。

学生が不得意とする問題は、各学年とも昨年度と同様で、「ホルモン」、「ジャパンコーマスケール」等に関する問題であった。これらの知識は想起しながら看護専門分野で活用していくものである。看護教員一人ひとりが自分の担当分野の中で、学生個々が活用できるように具体的に指導していく必要がある。

また、2年次生は1年次生よりも正解率が低い項目がみられた。この時期、2年次生は臨地実習を除いて、すべての専門科目の講義・演習が終了していることから、既習の内容を復習し、看護専門科目の内容と関連づけて学習するということが不足しているのではないかと考えられる。アドバイザーと連携し、学習態度や学習方法の指導をしていく。

#### ii.専攻科

今年度は2回実施した。1回目の平均得点は31.3点（昨年度39.8点）、2回目は46.8点（昨年度51.5点）であった。1回目よりも2回目の平均得点はアップしているが、昨年度の学生と比較すると低い。これは入学時の基礎学力の程度や、入学後の学習方法等が影響しているのではないかと考えられる。特に、コロナ禍の影響により臨地実習の制限等があり、学生にとって思うような学習ができにくかったことも要因の一つではないかと考えられる。どのような条件下にあっても、目標達成に向けて学習できるように支援していく必要がある。

### ⑤学習ポートフォリオ

2020年から看護学科・専攻科共に学習ポートフォリオ活用を目指して指導してきた。学習ポートフォリオ作成は「学生自身が教科目の学習や課外活動の成果についてプロセスを含めて記録し、この客観的データを基に自己省察する。これにより目標の達成度や課題を明らかにし自己の成長をはかる」ことを目的としている。学習ポートフォリオを作成することによって、学生は自己の成長を可視化でき、教員も情報を共有でき、学習支援に役立てることができる。しかし活用状況を見ると、「必要なデータを整理できない」、「データを客観的に分析できない」、「活用の意図や方法がわからない」等の問

題が浮き彫りになった。今後は他の委員会と協力し、学生に活用目的や方法について周知できるようにする。

## Action

- ①卒業生・修了生の動向調査と分析
  - i.卒業時・修了時、ii.卒後・修了後1年目、iii.卒後・修了後3年目、iv.卒後・修了後5年目
- ②プレイスメントテスト実施（看護学科1年次生）、結果の分析
- ③ティーチングポートフォリオ作成しての評価
- ④看護学科・専攻科アセスメントテスト実施、結果の分析
- ⑤学習ポートフォリオ活用状況の確認
- ⑥ディプロマ・サプリメント作成効果の確認

## 学習環境整備専門部会

### Plan

学習環境整備委員会は看護学科、専攻科、事務部の有志で構成され、教授会の承認を得て専門部会として発足し平成28年4月から活動を開始した。平成29年3月には学習環境整備専門部会運営方針が制定され、この方針に則って現在は活動している。構成メンバーは、学長、副学長、看護学科教員3名、専攻科教員1名、事務部2名の計8名である。活動目的は次の通りである。1.学生の自主学習・協同学習のスペースを設け、自主的・自律的な学習を支援し、知識の創造を促進する。2.フリースペースでの教員と学生の学習活動が他の学生の学習意欲を刺激することにより学力の向上につなげる。3.安全・安心な学習及び生活環境を確保する。

以上の目的のもと今年度は3つの目標を設定し年間計画を立て活動した。

- ①安全・安楽な環境を確保する（校舎、寮）
- ②自己学習スペース・指導環境を充実する。
- ③教室の整備・視聴覚機器、教材の充実
  - i.7階講堂の机、椅子の改修とモニターの設置
  - ii.学内実習用教材の充実（看護学科・専攻科）
  - iii.2階実習室のリネン類の新調
  - iv.Wi-Fi環境の整備（2階,3階,4階,7階講堂、学生寮）

### Do

委員会は5回開催し、随時、委員間で情報交換しながら実施した。活動した内容は次の通りである。

- ①安全・安楽な環境の確保
  - i.新型コロナウイルス感染症対策に向けた環境整備  
教室用及びロビー用アクリル板パーテーションの活用状況、破損の有無について検討した。
  - ii.同窓会からの寄附により、新入生（看護学科・専攻科）用ゴーグルを配布した。
  - iii.2階実習室（和室）の畳表を替えた。

- iv.同窓会からの寄附により、看護学科全学生へ手指消毒用剤（ポシエット付き）を配布した。
- v.5階コンピュータ室の絨毯の除去について検討したが、配線等の関係で除去は難しいということになった。
- vi.校舎玄関の傘立てを看護学科学年ごと、専攻科に区分して使用できるようにした。
- vii.1階ロビーの掲示板、椅子、テーブルの配置を変えた。
- viii.13宿（看護学科学生寮）の改修が行われた。

感染対策の一環で、4人部屋と勉強部屋を2人部屋（個室の仕切りあり）に改修した。また、東側ホールと多目的ルームを一人部屋に改装した。

#### ②自己学習スペース・指導環境を充実する。

13宿の改修に伴い不要になった机と椅子を、7階ロビー、5階更衣室、自販機コーナー、専攻科ロビーで自己学習用として使用できるように設置した。

#### ③教室の整備、視聴覚機器・教材の充実

- i.5階コンピュータ室のパソコンの入れ替えを申請したが、予算の関係で実現しなかった。継続して申請していく。
- ii.13宿のWi-Fi環境の整備をした。短大校舎内の整備は未定である。
- iii.9号館の空調設備の整備（教材が劣化する）を検討したが、実現しなかった。
- iv.4階、地下1階の医学部教室を短大で使用できないか検討した。医学部との交渉等、継続していく必要があることを確認した。
- v.2階実習室のリネンの新調、各教室のカーテンの交換、7階講堂の机、椅子の改修、モニターの設置等については予算との関係で実現できなかった。

### Check

#### 活動目標1:

##### ①安全・安楽な環境の確保

###### i.新型コロナウイルス感染症対策に向けた環境整備

アクリル板パーテーションは積極的に活用されていた。風等により倒れて破損した物があったため、予備のものと交換し使用している。また、同窓会からの寄附によるゴーグルや手指消毒剤は、学内実習、臨地実習で積極的に活用されている。

2階実習室（和室）の畳表を交換したことにより、カビ等の発生を予防できたが、5階コンピュータ室の絨毯は、配線の関係で替えることはできなかった。今後はカビや害虫の発生を予防するためにも、清掃や換気を徹底していく必要がある。

13宿（看護学科学生寮）は感染対策の一環で、他者と接触せず密を避けられるような構造（2人部屋でも共有部分はあるが、仕切りあり個室になる）に改修した。これにより集団生活における感染の危険が軽減し、プライバシーの保持にもつながった。

1階ロビーの掲示板、椅子、テーブルの配置を変えたことによって、道路通行者からの視界を遮

断でき、学生の安全を確保できるようになった。

ii.快適な環境作り

学生参画の自己点検・評価委員会議で学生から出された意見を基に、玄関の傘立ての活用法を改善し整備した。これにより学生は利用し易くなり、外観的にも玄関が整然とし美観もよくなった。

②自己学習スペース・指導環境の充実

13 宿の改修に伴い不要になった机と椅子を、7 階ロビー、5 階更衣室、自販機コーナー、専攻科ロビーで自己学習として使用できるように設置した。この結果、自己学習に活用している学生の姿が見られるようになった。

③教室の整備、視聴覚機器・教材の充実

13 宿の Wi-Fi 環境は整備されたが、短大校舎内の整備は実現できなかった。当面、Wi-Fi 利用の場所等を考慮して使用する等、工夫しながら対処していく。

5 階コンピュータ室のパソコンの入れ替え、9 号館の空調設備の整備、2 階実習室のリネンの新調、各教室のカーテンの交換、7 階講堂の机、椅子の改修等について今年度は実現できなかったが、短大の予算を考えながら継続して申請していく。

また、校舎内の医学部使用の教室の利用についても、継続して交渉していく。

Action

①安全・安楽な環境を確保する

- i.各教室のカーテンの交換（又はクリーニング）
- ii.各教室の壁の修繕
- iii.地下1階、4階の医学部実験室を短大で使用できるように継続交渉する

②自己学習スペース・指導環境を充実させる

- i.個別指導スペースの確保

③教室の整備・視聴覚機器・教材の充実

- i.7階講堂の机・椅子の改修とモニターの設置
- ii.2階実習室のリネン類の新調
- iii.5階コンピュータ室のコンピュータの入れ替え

(3)看護学科

①臨地実習委員会・看護学実習協議会

<臨地実習委員会>

Plan

- ①領域別看護実習・総合実習に関する全体オリエンテーション・諸手続きの実施
- ②領域別看護実習に関する中間評価、領域別看護実習・総合実習に関する最終評価（フィードバック）の実施

- ③基礎看護実習のオリエンテーション・諸手続き、まとめの実施
- ④令和4年度実習ローテーション作成とグループ編成表の作成
- ⑤看護学実習協議会の開催
- ⑥臨地実習指導者会議の開催
- ⑦「看護実習要項」、「看護実習評価表」の印刷発注、配付
- ⑧ヒヤリ・ハット、事故報告書、物品管理報告書の管理
- ⑨実習方法の検討
- ⑩その他：「実習指導の手引き 第6版」の見直し

## Do

- ①領域別看護実習・総合実習に関する全体オリエンテーションは3月29日に対面で実施した。諸手続きとして実習部署への書類の提出、診療マニュアルの配付を行った。抗体検査及びワクチン接種自己申告書では抗体価が低いとの感染対策室からの指摘があり、学生へ感染予防への注意喚起を指導した。
- ②領域別看護実習に関する中間評価、領域別看護実習・総合実習に関する最終評価（フィードバック）は、各学年のフィードバックが3年間の一連の流れを整理し、臨地実習のねらいの達成度に焦点を当て、目的・目標・内容を見直した。3年次生の領域別看護実習に関する中間評価は、夏季休業時にLMSを活用し、欠席状況とヒヤリ・ハット報告、グループディスカッションを実施した。領域別看護実習・総合実習に関する最終評価（フィードバック）は、集合・対面ではなく、LMSを活用して実施した。内容は出欠席の状況、ヒヤリ・ハット、事故、物品管理報告書の集計・分析結果をライブ配信で報告し、意見交換・学びの共有をLMS上で実施した。
- ③基礎看護実習のオリエンテーションは2年次生に対しては対面とオンラインを併用して行った。新型コロナウイルス感染症対策として実習前2週間の自粛生活ができなかった学生に対して実習時期の変更が必要となり、グループ編成の変更を行った。また医大病院より「個人情報に関する誓約書」の提出を求められ、他の提出書類と同時期に提出した。実習後の〈まとめ〉は、事前に自己の振り返りを行い、今後の課題と解決策についてグループワークを行い、掲示により公表・共有した。1年次生に対しては入学時オリエンテーション期間で、ユニホーム及び実習靴、実習用バックの購入方法を説明し購入してもらった。臨地実習（12月）時に必要な諸手続きはオンラインを利用して進めた。動画視聴の不十分な学生に対しては個別に指導した。実習前のオリエンテーションはオンラインで行った。基礎看護実習I-2〈まとめ〉は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面・グループワークを変更し、書面にて実習の振り返りと自己の課題について記載した。教員間で回覧し、個別にコメントを書き入れ指導（3月に実施）する。
- ④令和4年度実習ローテーション作成は各領域の意見をまとめ、調整した。実習予定人数を把握し、グループ編成表を作成（3月に実施）する。
- ⑤看護学実習協議会は6月に短大3階講義2で開催した。
- ⑥臨地実習指導者会議は新型コロナウイルス感染症拡大のため集合・対面式を中止し、昨年同様書

面による意見交換とした。

⑦「看護実習要項」の共通編の見直しを行った。ヒヤリ・ハット報告書及び事故報告書について、それぞれインシデント報告書及びアクシデント報告書に表現を変更するための検討をした。

⑧ヒヤリ・ハット報告書は総数 55 件の報告があった。〈情報の漏洩〉 47 件と最も多かった。発生要因を心理的要因と考えている学生が多く、なかでも〈注意力不足〉 が最も多かった。ヒヤリ・ハットに学生自身が気づくという報告は少なく、今後の指導課題の 1 つと考える。

事故報告書は 1 件で、学生がアンプルカットの際にグローブをしていたが自傷してしまったという報告だった。物品管理については破損の報告はなく、物品の持ち運び・返却の確認不足に関する内容が 6 件あった。学生の行動特性をふまえて指導していく必要がある。

⑨実習方法について

実習施設の実習受け入れ条件に合わせ、病院での実習人数を 5 人以下／病棟／日にし、健康観察・行動管理を継続する等の制約の中で、4 月から臨地実習を開始した。実習受け入れを依頼していた施設から受け入れを断られる、PCR 検査の依頼等があり、その都度対応を検討し実習施設の利用が可能となるように調整・実習方法の検討も行った。今年度の実習方法は、患者と学生が 15 分間／回であれば直接会話可、学生自身が立案した援助計画の実施可と一部制限が緩和された。実習学生の受け入れ人数に制限があるために学内あるいはオンラインでの自宅学習が必要で、学年の異なる学生が交叉しないように講義室の利用調整が必要であった。

基礎看護実習Ⅱでは、実習病棟での新型コロナウイルス感染者の発生によりやむを得ず実習を中断し、令和 4 年 2 月に追実習（対象者数 11 名）を行っている。

⑩「実習指導の手引き 第 6 版」の在庫残数の減少のため見直しを行っている。

## Check

新型コロナウイルス感染の影響により感染予防対策を徹底する必要があった。マスクの配付、健康管理シートを用いた体温チェック、感冒症状の有無・倦怠感の有無等を確認しながら実習を行った。携帯用手指消毒剤は 9 月下旬に準備でき、後期の臨地実習から使用開始した。

ワクチン接種は任意で 3 学年に対して 4 月 20 日以降、指定された日時で 2 回／人施行されている。3 回目のワクチン接種は 2 月上旬に実施されている。ワクチン接種後の副反応により発熱する学生も多かったが、1~2 日で解熱する等無事に終了している。

臨地実習に関わる諸手続きでは、1 年生の「抗体検査及びワクチン接種自己申告書」の作成は 7 月に書類作成の必要性、ワクチン接種が必要な場合の対処法等を説明した。ワクチン接種が必要な学生には期限を伝え、スケジュール調整とワクチン接種を促し、スムーズに手続きを終えることができた。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、発熱や濃厚接触疑いにより実習が出席停止になった学生は 10 名であった。新型コロナウイルスの感染者は 1 名でこの学生に関する濃厚接触者はいなかった。

ヒヤリ・ハット及び事故・物品管理報告は、実習方法の影響を考慮する必要がある。実際に援助を行うことが制限されている現状を考慮し、観察の不足・学習の不足等に起因するインシデントの芽に

学生自身が気づくように指導する必要がある。

領域別看護実習・総合実習のローテーション作成では、川越キャンパスと毛呂山キャンパスでの実習の回数について、実習グループによる偏りをなくす努力をしたが限界があった。学生には他校との調整、病院・病棟との調整等複数の条件を調整する必要があることを説明し現状を受け入れることができるようにする必要がある。

#### Action

感染防止対策の一環として、臨地実習用に学生全員にゴーグル、携帯用手指消毒剤を配付する。

「抗体検査及びワクチン接種自己申告書」の作成は学生が感染予防対策の必要性を理解し主体的に行動できるように、今後もスケジュールを可視化した指導計画を継続する。

日常生活における健康管理と感染対策の心がけが実習施設及び周囲に影響を与えることを、理解できるように指導をしていく必要がある。

領域別看護実習・総合実習のローテーション作成では、2022年度も新型コロナウイルス感染拡大の状況によって臨地実習が困難となる可能性もある。実習ローテーション表を変更する必要が生じた場合は、2021年度と同様に病院と連携し状況に合わせて対応する必要がある。

学生による授業評価アンケート（臨地実習）が2019年度より開始された。その結果を参考に、今後も実習内容・方法を継続検討する必要がある。

ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書は、それぞれ次年度からインシデント報告書、アクシデント報告書と変更して使用する。またインシデント報告書はインシデント分類基準を参考に記入してもらい、学生の医療安全に対する意識の向上を図る。

2022年4月の入学生から新カリキュラムが適用となる。随時、改正点等の情報交換を行う必要がある。

#### <看護学実習協議会>

##### Plan

看護学実習を円滑に実施するために実習指導に関する連絡・協議を行う。①看護学実習協議会開催：6月（2021年度委員・規約の確認と検討、年間計画等）、②埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議へ代表者参加、③臨地実習指導者会議の開催：2022年2月（2021年度看護実習評価と2022年度看護実習計画）を計画する。

##### Do

看護学実習協議会は、2021年度委員・規約の確認、協議会の年間計画の決定、6月までの実習状況（出欠席、ヒヤリ・ハット及び事故・物品管理報告の途中経過）に関する報告と情報交換を行った。

2022年度よりカリキュラムの改正に伴い実習施設に埼玉医科大学国際医療センターを新規申請している。このことから規約の改正が必要であった。検討の結果、規約の改正が承認された。

埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議は10月22日に開催され、副学長、実習委員長が参加した。9月下旬から10月にかけて、既に埼玉医大グループ関連4校間で調整済みの資料を基に臨地・

学校双方で確認した。会議の席で実習受け入れ可能となった病棟が確認でき、一部再調整が必要となったが本校には影響なかった。

臨地実習指導者会議の開催は令和4年1月下旬から新型コロナウイルス感染拡大が認められ、集会による会議を断念した。文書による2021年度看護実習評価と2022年度看護実習計画を報告し、臨床との意見・情報交換を行うこととした。

#### Check

看護学実習協議会の年間計画に沿って活動した。

埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議前に埼玉医科大学グループ看護系4校が集合し、事前実習病棟調整を行った。そのため、埼玉医科大学グループ臨地実習合同調整会議当日に実習受け入れ可能となった病棟・施設が確認できた際の変更は、最小限の変更で調整できた。

臨地実習指導者会議は集会という形式は取れなかったものの実習部署からの意見等をふまえて総括することができ、次年度の実習方法及び内容を検討することができた。次年度から臨地実習施設に予定している埼玉医科大学国際医療センターとの情報交換は、実習開始時期が12月であることを考慮し、次年度6月以降に予定する必要がある。

#### Action

新型コロナウイルス感染の影響を考慮し、今後も実習施設等との密な連携と感染対策としての予防行動の徹底指導の継続が必要である。

主たる実習病院は高度な先進医療を提供しているため患者の在院日数の短縮、在宅医療への移行、他大学の臨地実習参入等、実習期間を通して一人の患者を継続して受け持つことや実習病棟の確保が困難になりつつある。新型コロナウイルス感染の影響による実習施設の実習生受け入れ人数の制限のために実習方法のさらなる検討が重要となる。

## ②国家試験委員会

### Plan

1年次生：①国家試験に興味をもち、看護師免許所得の方法について理解する。

②「解剖生理を一系統極める」～得意分野をもつ～

2年次生：①「調べ学習」「解説学習」のスキルを身につける。

②必修問題の出題基準を理解し、2月の必修模擬試験で7割以上とる。

3年次生：国家試験全員合格

①立案した学習計画を模擬試験結果に基づいて見直し、自律学習できるようサポートする。

②成績低迷者を抽出し、アドバイザーと連携し学習のサポートを行う。

### Do

1年次生：5月末に看護学生スタートアップテストを自宅受験で実施した。WebClassを使って、8月末に国家試験ガイダンスを実施し解剖学の模擬授業を公開した。12月に基礎看護実習

で行く病棟に合わせた内容で、購入した解剖学のテキストを使用し学習を実習グループごとに実施した。2月の基礎力チェック模擬試験を自宅受験で実施した。

2年次生：WebClassを使って、5月に国家試験ガイダンスを実施した。9/21に学研の必修模擬試験を自宅受験に切り替え実施した。11月19日、12月17日に学内で国家試験対策を実施した。国家試験に向けた学習方法の確認と実践方法を習得するという目的で行った。2月16日にメディックメディア必修問題と第111回国試必修問題の模擬試験を自宅受験に切り替え実施した。模擬試験成績推移を可視化できるようにWebClassを使ってeポートフォリオを導入し運用を始めた。

3年次生：4月の国家試験ガイダンス時に、年間計画表を用いて学習計画を立案してもらった。模擬試験を8回実施（学内での受験5回、自宅受験3回）し、模擬試験毎にeポートフォリオを使って自己の結果を振り返り、学習計画の修正ができるようにした。春対策として5月に自律学習の方法についてグループワークを行った。夏対策としてWebClassでPASS NOTEテストを実施した。8月の下旬に習熟度別グループを掲示し、低迷者に対し模擬試験の解き直しとZOOMで個人面談を実施した。アドバイザー教員ごとに国家試験委員の担当者を決め、成績低迷者の把握と指導の連携を図った。冬対策として12月6、7日にPASS NOTEの必修300問テストを実施した。12月13日から24日まで成績低迷者を対象に看護学科各領域の教員による冬補講を実施し、1月4日から1月27日まで成績低迷者に直前対策を実施した。国家試験直前オリエンテーションでは、国家試験当日の具体的な注意事項や必要な準備について説明した。

## Check

1年次生：国家試験ガイダンス、WebClassで解剖学模擬授業公開、解剖学のテキストを使った基礎実習と関連した解剖学の学習、模擬試験を実施したことにより、目標である国家試験に興味をもち、看護師免許取得方法を理解するは達成することができた。「解剖学一系統極める」ことについては学生アンケートより目標達成度が中間であったため未達成とする。

2年次生：国家試験ガイダンス、3回の模擬試験、学生委員企画の11月と12月の国家試験対策を実施した。今年度はそれ以外に、WebClassでeポートフォリオを導入し学生自身が自分の成績状況を把握し対策を立てること、それに対し教員がアドバイスをを行った。目標である「調べ学習」「解説学習」のスキルを身につけるは達成できた。「必修問題の出題基準を理解し、2月の必修模擬試験で7割以上とる」の目標に関しても、学生の平均点数が7割以上とれたため達成できた。

3年次生：4月に国家試験委員の活動の年間計画や国家試験までの残日数を示したことにより、学生の学習計画の立案に役立った。春対策で学習計画のグループディスカッションを行ったことやeポートフォリオでの学生自身の内省によって学習計画の見直しが図られた。コロナ禍で対面での模擬試験が実施できない時期もあった。ZOOMを繋げての模擬試験は、緊張感を維持するのが難しく課題が残った。一方、学内で実施した模擬試験については、

緊張感を持って実施することができた。夏対策の PASS NOTE テストは、WebClass の設定上の限界がありトラブルが多発した。アドバイザーとの連携に関しては、成績低迷者についてのメンタル面のサポート等に役立った。模擬試験成績の累積結果から成績低迷者 32 名を選出し、12 月からの冬補講については、成績低迷者以外も受講できるように配慮したことで、苦手分野の克服やメンタル面のサポートに繋がった。1 月の直前対策は、朝テストを導入したことで生活リズムの維持やモチベーションの維持に繋がった。国家試験直前オリエンテーションを実施したことで、受験当日についてイメージすることができ、落ち着いて国家試験を受験することができた。

## Action

- 1 年次生：1 年次より、国家試験に対する意識が持てるように、学生委員企画の実施や外部講師を招いてのガイダンスを取り入れることが必要である。また、1 年次から模擬試験を実施し低迷者への学習方法の指導を行う等の支援が必要である。
- 2 年次生：国家試験をより意識ができるように、学習支援の内容を検討していく必要がある。また、学習方法等も確認し、早い段階で学習支援に取り掛かる必要がある。
- 3 年次生：特に、成績低迷者とメンタルサポートが必要な学生に対して教員間の連携を図る。対面で予定されていた夏対策ができなくなった際に対応が難しかったため、予め感染対策を考慮した計画立案をしていく。また、eポートフォリオの活用方法もさらに検討し、国家試験委員と教員の連携と学生の学習支援に効果的に役立てることができるよう改善する必要がある。国家試験学生委員との連携を図り、学生の希望に沿った運営を行っていく必要がある。

## (4) 専攻科

### 臨地実習の運営と実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習施設の確保が難しく「出産前教育実習」は未開講となり、「周産期援助実習」「新生児援助実習」「分娩期援助実習」「地域母子保健実習」「助産管理実習」を行った。

周産期医療を取り巻く状況は、新型コロナウイルス感染の影響により出生数の減少となった。分娩介助の実習を展開する施設での妊婦のハイリスク化と正常分娩の減少もあり分娩介助例数の確保は難しい状況であり施設により学習進度に影響している。今年度は学生 19 名が実習し、分娩介助の平均は 9.5 例であり、昨年を平均を上回る事となった。今後は、出生数の減少、新型コロナウイルス感染のため実習制限をした形が続き、分娩介助例数の確保が困難である状況は続くであろう。今年度のその活動内容を示す。実習施設は、「学外実習施設一覧」(p.64) に記した。

## Plan

- ①専攻科実習における学生への学習支援:臨地実習オリエンテーション企画、分娩介助の技術確認、臨地実習記録の事前確認等

- ②臨地実習関連の準備：専攻科臨地実習会議の調整、外部実習施設との調整及び打ち合わせ、実習要項、評価表の作成、臨地実習記録の見直し、実習ローテーション作成、グループ編成、臨地実習調整会議の参加（埼玉医科大学グループ主催、愛和病院主催）

## Do

### ①専攻科実習における学生への学習支援

- i. 臨地実習オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染者の状況から分娩期援助実習の時から早めて許可のある施設もあり予定早く、前期 2 回と後期の 1 回に分けて実施した。各実習施設により制約があり人数変更や実習体制は随時変更のあることを学生に伝えた。実習前から学生の行動や感染対策、健康観察や体調不良時の対応について指導した。
- ii. オリエンテーションでは、施設ごとの特徴や実習の方法について担当教員が実施した。
- iii. 講義終了後と夏季休業中に学生が分娩介助技術の確認が分散してできるよう演習できる場所の確保や演習物品を増やし準備した。

### ②臨地実習関連の準備

- i. 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、臨地実習会議は、開催せず、直接担当者が実習施設に出向き調整をした。周産期援助実習は、実習を担当する教員の確保が困難であったため小川産婦人科小児科 6 名、埼玉医科大学病院 13 名の学生が実習を行った。継続妊婦さんの選定については、直接施設と調整し選定となった。埼玉医科大学病院においては学生 2 名で 1 名の継続妊婦とした。新生児援助実習（NICU 見学実習）は、直接施設と実習方法・内容を調整した。地域母子保健実習についてはコロナ禍であり保健センターとメールや電話の相談で対応し進めた。後期実習前にも施設ごとに担当者がコロナ禍での実習内容の確認をし、実習が円滑に行くように指導者との打ち合わせを行なった。複数施設を教員は担当するため、実習中も実習指導者と担当教員間で随時調整を行った。施設実習は、人数制限があり 2 名ずつの実習を行い、分娩介助例数は 10 例を目標にし、介助できない場合は、間接介助の事例も展開することを学生に伝え進めた。
- ii. 埼玉医科大学病院、総合医療センター、愛和病院、清水病院では、実習にあたり「抗体検査及びワクチン接種自己申告書」を提出した。抗体価が規準に満たない場合は学生への指導を行った。小川産婦人科小児科、愛和病院では、コロナ禍の実習となるため実習生と担当教員の PCR 抗体検査を求められ抗体価が陰性であることを確認した。それ以外の学生には、簡易キットによる検査による陰性を確認して実習開始となった。
- iii. 小川産婦人科では、新型コロナウイルス感染の影響が落ち着いている時期（8 月末）からの実習受け入れ許可があり、スケジュールの調整を行い実習開始した。
- iv. 小川産婦人科小児科 6 名、埼玉医科大学病院 4 名、総合医療センター 2 名、吉田産婦人科 3 名、愛和病院 4 名で分娩介助実習を開始し、11 月に瀬戸病院に 3 名、清水病院に 2 名実習施設を移動した。

## Check

- i. 周産期援助実習は 2 施設で実施した。埼玉医科大学病院では学生 13 名が 2 人一組となり 7 名の全例帝王切開予定の継続妊婦を受け持ちし、妊娠中期から産後 2 週間から 1 ヶ月健診までを受け持つ希望であったが、実習施設・実習期間の関係で 4 名の学生は産褥入院期間までの受け持ちとなった。小川産婦人科小児科では、一人ずつの継続妊婦をもち 2 例経膈分娩、3 例は帝王切開予定、1 例緊急帝王切開の事例であった。紙面上の展開を含め妊娠中期から産褥 2 週間もしくは 1 か月までの経過を学ぶことができた。
- ii. 分娩期援助実習では、7 ヶ所の実習施設に学生を配置した。助産管理実習と継続ケースの予定日を加味してスケジュールを組んだ。分娩介助 10 例を目標としていたが実習施設の実習人数や時間制限もあり一人平均 9.5 例の分娩介助であった。10 例に満たない学生は、間接介助事例の助産過程の展開と学内事例の助産過程の展開を行い、助産過程をもとにした学内技術演習を行うことで分娩介助事例として補った。
- iii. 新生児援助実習では、ハイリスク新生児を対象にした NICU 見学実習を 0.5 日と継続ケースの新生児を対象に経過診断や援助を行う展開をすることができた。
- iv. 助産管理実習は、3 ヶ所の助産所で実習が行われた。助産院もりあねからは、感染対策として実習時間短縮の要請があり午前中のみの実習となり、所沢市内の栗原助産院の見学実習を急遽依頼し対応し、実習時間の確保をすることができた。
- v. 地域母子保健実習では、県内 4 ヶ所の保健センターで感染予防のため実習人数を制限し、2 つのグループに分かれて 3~4 日間計画した。7 月末に新型コロナウイルス感染増加の傾向があり、学生 1 名が感染したこともあり、毛呂山町保健センター実習の受け入れが困難となった。他施設の学生も影響を受けたが、1 日遅れて地域母子保健実習開始となり予定通り実習できた。中止した毛呂山町保健センターの実習は、12 月に振り替えて母子保健事業のある 6 日間を選定し 5 名の学生が 2 グループに分かれ、3 日間の実習を行うことができた。それぞれ参加できた母子保健事業についてカンファレンスにおいて学びを共有し学びを深めることができた。不足する実習時間は、母子健康手帳の交付演習を学内で行い対応した。
- vi. 各実習において、少人数での実習となりカンファレンスを実施できず経過した。受胎調節に関するカンファレンスは、12 月に各グループで実施した。様々な対象に対しどのような指導が望ましいのかディスカッションすることができた。
- vii. 臨地実習会議は、1 月からのオミクロン株の感染急増のため開催困難となり、各実習施設からの振り返りを文書でもらい、学生アンケートや実習総括・評価、次年度に向けた課題をまとめ、文書で送付した。
- viii. 指導者と教員と保健指導チェックカードを用いて連携し、学生は一人 1 回以上の保健指導の実践をすることができた。2 人一組であった学生は、他施設で分娩期援助実習をしているため指導者との連携がとりにくい現状があった。

ix. 実習ローテーションは、各実習施設での条件をクリアするため、学内実習期間を取り入れた。

また、学生の健康状態を守るため、休養がとれるように原則土日祝日は休日にすることや夜間実習も学生の実習状況や実習科目や各施設の状況を踏まえながら調整をした。10月末より感染者が減少し12月10日までに全員が10例の介助はできなかったが、目標の介助例数を確保できた。

また、地域母子保健実習を振り替えた学生も実習することができた。

## Action

新型コロナウイルス感染の影響や出生数の減少、高度な医療や合併症妊婦、高齢妊婦等ハイリスク妊婦が多い現状や、学生が「周産期援助実習」や「分娩期援助実習」で事例を確保することが難しくなっている。また、妊産婦や家族から分娩介助実習への同意が得られにくい状況がある。今年度の状況を踏まえ、これらのことから学生が今後、実習期間内に正常分娩を10例介助するとは、非常に困難である。施設での実習人数を制限してなんとか9.5例の分娩介助ができたことを考え、学内実習を有効に活用し、助産過程の展開の指導やカンファレンスを検討する必要がある。教員も少ないため実習施設の実習指導者との連携・調整・協力体制が必要である。

次年度は、新カリキュラムとなり周産期援助実習は、従来の周産期援助実習と新生児援助実習を網羅した形になっている。継続妊婦を学生2名で受け持つことで学生が相談しながら援助できた半面、個々の能力が発揮できていない面もある。後期実習開始前に継続妊婦への準備を個々で必要である。また、対象がハイリスクであることを想定し、個人の学習を深め、知識を確認しておくようにする。分娩介助については学内での学習を十分に行い、基本的な技術を自分自身の時間で繰り返し鍛錬できるよう準備する。

臨地実習において、施設の協力は不可欠である。有意義な実習とするために実習施設とは、指導体制を含め連携を図ることが必要となってくる。継続ケースの分娩状況や分娩介助の進捗を考えると共に、学生自身の健康管理や体調不良や事故が発生しないようスケジュールの調整や指導をしていく。

## 6) 教育・研究活動(実績)

### (1) 埼玉医科大学短期大学特別助成金制度

本学では平成10年より表記の研究助成制度を発足させ、学長を委員長とする研究審議会がこの制度の運用の任にあっている (p.115-116)。

### (2) 研究誌の発行状況と編集方針

「埼玉医科大学短期大学紀要」が紀要委員会の編集により、1990年以来毎年1巻発行されている。

#### ① 発行状況

令和4年3月に第33巻(原著1編、報告6編掲載)が刊行された。300部発行し、学内91部(図書館、教職員、関連施設)、学外209部(医療系の大学・短期大学・専門学校、その他)に配布した。

## ②編集方針

他雑誌に未発表の原著論文、総説、報告等を掲載する。投稿者は本学及び埼玉医科大学、丸木記念福祉メディカルセンターの教職員（非常勤を含む）及び紀要委員会が特に認めた者とする。4月末を演題エントリー（投稿する意思の表明）、8月末を入稿の締め切り日としている。

## (3)教育研究に関する意思決定の方法・体制

学校法人埼玉医科大学には寄附行為に基づき理事会（理事 15～17 名、監事 2～3 名）が設置されており、本学を含む法人の管理運営と設置目的の遂行にあたっている。一方、本学には学則に基づき教授会が置かれており本学の教育研究に関する事項の決定実行にあたっている。理事会と本学教授会の意見調整の必要のあるときは学長（理事長兼務）がこれを行う。

## (4)研究業績

### 看護学科

#### ①原著

菅谷 洋子, 所 ミヨ子. 介護技術「医行為でない行為」の教育 介護基礎教育における卒業時到達目標の現状. 日本看護学会論文集 看護管理・看護教育 51 回, 2021;08:112-115.

Ota K, Nakazato Y, Yokoyama R, Tamura N, et al. A Japanese family with P102L Gerstmann–Sträussler–Scheinker disease with a variant Creutzfeldt-Jakob disease- like phenotype among the siblings: A case report. e Neurol Sci 255, 2021;100380.

岡田 真里子, 中里 良彦, 大田 一路, 田村 直俊他: 精神性刺激のみで全身性の激痛発作とコリン性蕁麻疹が誘発された Idiopathic pure sudomotor failure—疼痛, 蕁麻疹出現の経過についての考察— . 発汗学, 2021;28: 56-57.

持田 奈穂美, 瀧山 文恵, 平良 朝子. 看護学生がバーチャルリアリティ認知症体験をとおして得た認知症者の理解. 埼玉医科大学短期大学紀要, 2022;33:1-13.

#### ②著書

今野 葉月. 腹圧性尿失禁、切迫性尿失禁、慢性機能的便秘、消化管運動機能障害. 古橋洋子編著. イラスト看護診断. 初版. 東京: 医学書院; 2021:34-81.

#### ③総説

田村 直俊. 標準的神経治療：めまい（2020）. 循環器疾患によるめまい. 神経治療, 2020; 37: 800-803.

田村 直俊, 中里 良彦. 古典の紹介: Brown-Séguard と生理的味覚性発汗（1850 年）. 発汗学, 2021; 28:16-18.

田村 直俊. 体位性頻脈症候群（PoTS）の病態. 脳神経内科, 2022; 96: 52-56.

#### ④報告、その他

菅谷 洋子, 所 ミヨ子, 石田真知子, 工藤由美子. 「医行為でない行為」の教育の実態と課題. 保健福祉学研究, 2021; 19: 1-11.

田村 直俊. 汗腺と体毛の関係について. 発汗学, 2021; 28: 34.

小柳 雅美, 鈴木 夕岐子, 杉本 真弓, 秋山 千恵子, 浅見 多紀子, 久保 かほる. コロナ禍における成人看護実習の実習目標に沿った学生の学び. 埼玉医科大学短期大学紀要, 2022; 33: 15-28.

霜田 敏子, 宮崎 素子, 清水 百子, 榎本 佑美. 「社会活動」開講 13 年間の授業検討と改正カリキュラムに向けての課題. 埼玉医科大学短期大学紀要, 2022; 33: 37-50.

内田 貴峰. 父親の育児不安・育児ストレスと育児支援に関する文献検討. 埼玉医科大学短期大学紀要, 2022; 33: 29-36.

小池 啓子. LMS を活用した訪問看護実習代替のデザインと学生の学び. 神戸看護学会誌, 2021; 5(1): 29-36.

#### ⑤学会発表

内田 貴峰, 石川 裕貴, 増田 睦美. シミュレーション学習を活用した妊婦健康診査の演習効果に関する研究. 第 62 回日本母性衛生学会総会. WEB 開催, 2021.10.15-10.16.

清水 百子, 富田 幸江, 小林 由起子, 勅使河原 俊子. 看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトとその要因に関する研究の動向と課題. 日本健康医学会雑誌. WEB 開催, 2021.30 (3) .322-323.

勅使河原 俊子, 富田 幸江, 小林 由起子, 清水 百子. 看護職に関する社会人基礎力とその関連要因に関する研究の動向と課題. 日本健康医学会雑誌. WEB 開催, 2021.30 (3) .324-325.

清水 百子, 富田 幸江, 小林 由起子, 勅使河原俊子. 大学病院に勤務する未就学児をもつ女性看護師のワーク・ファミリーコンフリクトとその関連要因. 日本看護科学学会学術集会. WEB 開催, 2021.12.4-5.

勅使河原 俊子, 富田 幸江, 小林 由起子, 清水 百子. 手術室に勤務する新卒看護師の社会人基礎力とその関連要因. 日本看護科学学会学術集会. WEB 開催, 2021.12.4-5.

小池 啓子, 海野文子, 平岡齊士. LMS を活用し遠隔・非同期で効果的な相互学習を支援する授業設計. 第 14 回日本医療教授システム学会総会・学術集会. WEB 開催, 2022. 3. 17-18.

海野 文子, 小池 啓子. 学習管理システム(LMS)を活用した訪問看護実習時のマナーに関する授業の効果と課題. 第 14 回日本医療教授システム学会総会・学術集会. WEB 開催, 2022. 3. 17-18.

高野 直美, 山岸 智子, 小池 啓子, 宮島 祐. 放課後児童支援員を対象にした児童の緊急時対応の e-ラーニング教材開発. 第 14 回日本医療教授システム学会総会・学術集会. WEB 開催, 2022. 3. 17-18.

持田 奈穂美, 瀧山 文恵, 平良 朝子. 看護学生が仮想現実体験から得た視空間認知障害の人の理解. 第 26 回日本老年看護学会抄録集. WEB 開催, 2021.202.

## ⑥学術講演

田村 直俊.自律神経研究の歴史—情動と自律神経—.自律神経レクチャーズ (教育講演) .第 74 回日本自律神経学会総会.WEB 開催,2021. 10. 23-24.

小池 啓子. 看護学臨地実習の代替, 補完に効果的に LMS を活用する-コロナ禍における実践と課題 2020-2021-. 第 6 回神戸看護学会学術集会一般企画IV. 看護実践力を養う代替実習の設計.WEB 開催, 2021. 10.

小池 啓子.コロナ禍における看護基礎教育での工夫と, 学生の変化・特徴 -遠隔授業への取り組みからみた学生の柔軟性と教育担当者の課題-. 日本臨床看護マネジメント学会第 13 回 学術研究大会. WEB 開催, 2022.2.6.

小池 啓子.【第 48 回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関 DX シンポ. 国立情報学研究所. WEB 開催, 2020.3.25.

## ⑦公的研究費

杉本 真弓,秋山 千恵子,久保 かほる,浅見 多紀子,鈴木 夕岐子.慢性期看護実習におけるシミュレーション学習の実践と今後の課題.埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.令和 3 年度.

瀧山 文恵,荒川 みひろ,持田 奈穂美.コロナ禍におけるICT(情報通信技術)を活用した高齢者のフィジカルアセスメント技術演習による看護学生の学びと今後の課題.埼玉医科大学短期大学特別研究費.埼玉医科大学短期大学.令和3年度.

高野 直美,山岸 智子,小池 啓子,宮島 祐.放課後児童クラブにおける児童の緊急時対応に関する教育プログラムの開発. 科学研究費助成事業, 基盤 C(一般), 研究分担. 2020- 2022.

## ⑧学外との共同研究

所 ミヨ子.看護と介護の連携シートの開発-V.ヘンダーソン看護論を基盤にして-, 2020.12-2022.12, 菅谷 洋子,庄司 幸恵.東北文化学園大学.

田村 直俊.令和 3 年度日本医療研究開発機構研究費・障害者対策総合研究開発事業「脳脊髄液減少症の病態生理と診断法の開発」班.分担研究者.

小池 啓子.放課後児童クラブにおける児童の緊急時対応に関する教育プログラムの開発.2020- 2022. 高野 直美, 山岸 智子. 宮島 祐.科学研究費助成事業,基盤 C(一般).日本医療科学大学 研究分担.

## ⑨調査活動

### 専攻科 母子看護学専攻

#### ①原著

#### ②著書

③総説

④報告、その他

岩崎 和代,濱崎 真由美,稲井 洋子,斎藤 益子.日本における分娩期のマタニティ診断と主なる提案と課題.日本助産診断実践学会誌. 2021;3(2):45-51.

⑤学会発表

稲井洋子,北川典子.コロナ禍における助産学実習の実践報告～分娩介助実習の例数確保と学習内容の充実に向けた取り組み～.日本助産診断実践学会. WEB 開催,2021.9.25-10.9.

北川典子,稲井洋子.コロナ禍における地域母子保健実習の実践報告.日本助産診断実践学会. WEB 開催,2021.9.25-10.9.

⑥学術講演

⑦公的研究費

斎藤 益子,濱崎 真由美,稲井 洋子,岩崎 和代,ケニヨン 光子,志村 智絵.日本助産診断実践学会研究助成金対象 診断名の開発ワーキンググループ「分娩期の健康生活診断に関する診断名の検討」令和3年度.

⑧学外との共同研究

⑨調査活動

斎藤 益子,濱崎 真由美,稲井 洋子,岩崎 和代,志村 智絵.日本助産診断実践学会 診断名の開発「分娩期の健康生活診断に関する診断名の検討」;継続中.

## 2.物的資源

### 1)施設設備の整備・運用状況

#### (1)学内ネットワークの整備

学校法人埼玉医科大学 IT化推進委員会と協調して短期大学の IT化の一環として進めてきたネットワーク基盤強化は平成 17 年度までにほぼ整備され、以下の様に運用と保守を継続して行っている。

- ①事務部のネットワークは、強化されたセキュリティの下で共有サーバを用いて教職員間の情報交換に有効に利用されている。
- ②コンピューター実習室の学生用機器は、コンピューター活用の授業以外の教育にも広く利用されている。コンピューター実習室内の学生用 PC は、平成 24 年 8 月にノート PC となり、実習室内に複合機とプロジェクターが設置されている。
- ③学生のノート PC 用に盗聴防止策を施したアクセスポイントを配備し、安全な接続が可能である。
- ④遠隔授業開始に伴い、環境を整備した。

#### (2)建物

校舎・学生寮としては、短大本校舎・専攻科棟の 2 棟と学生寮 1 棟を、施設部と短大事務部により日常の保守管理を行っている。その他、施設・設備・衛生設備・電気設備・防火設備に関する保守管理については、法令に基づき定期的に専門業者により実施されている。

#### (3)危機管理体制

防災委員会に拠る教職員の防火・防災体制については、フローア責任者及び各室に責任者を置き、防火・防災体制を敷いている。消防訓練・避難訓練については学事に組み入れ、地区の消防組合の指導の下、4 月、7 月に実施している。

#### (4)防犯体制

キャンパス内の防犯体制については、警備会社による、夜間の立ち入り検問、校内巡回等により、厳重に行われている。

### 2)令和 3 年度購入教育備品

品 名	規 格 等	数 量
遠隔授業用機器		
ノートパソコン	FMVA8804DP	3台
書画カメラ	MA-1	3台
21.5型ワイドカラー液晶ディスプレイ	PTFWLD-22W	3台
タブレット	ZA5T0233JP	3台

3) 図書利用状況

(1) 令和3年度単行本受入冊数

	購入分	寄贈分	研究費分	合計
和書	278	0	0	278
洋書	0	0	0	0
A V	7	0	0	7
合計	285	0	0	285

(2) 令和3年度製本雑誌受入冊数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	63	10	73
外国雑誌	5	0	5
合計	68	10	78

(3) 令和3年度現行受入雑誌数

	購入分	寄贈分	合計
国内雑誌	46	109	155
外国雑誌	4	0	4
合計	50	109	159

(4) 平成元年度（開学年度）からの累計冊数

	和書	洋書	合計
単行本	19,119	51	19,170
製本雑誌	3,017	544	3,561
A V	231	0	231
合計	22,367	595	22,962

(5) 令和3年度 図書貸出状況及び入館者数

	教職員	看護	専攻科	その他	合計
貸出者数	160	799	109	—	1,068
貸出冊数	375	1,402	139	—	1,916
入館者数	275	2,084	198	1	2,558

(6) 令和3年度開館日数 236日

### 3. 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

#### 1) 学術情報システムの活用状況

	E-Mail 件数					WWW			短大 HP アクセス
	学内		学外		合計	学生	教職員	合計	
	学生	教職員	学生	教職員					
2021/01	32534	4952	9398	35819	82703	401	5647	6048	9735
/02	16969	5561	4351	34710	61591	166	2845	3011	7817
/03	7315	4979	1620	37081	50995	129	2564	2693	8762
/04	32390	6218	8238	38357	85203	156	2293	2449	9619
/05	28791	5108	7704	35146	76749	185	2263	2448	8488
/06	37930	5341	10130	37114	90515	166	2610	2776	9028
/07	27269	5107	9482	35426	77284	171	1938	2109	9056
/08	20420	5082	2696	38326	66524	131	2200	2331	10194
/09	20556	4749	4378	36129	65812	166	1939	2105	7280
/10	36651	5373	6668	36470	85162	173	1894	2067	7666
/11	29733	4761	3217	32639	70350	133	2026	2159	7816
/12	26756	5144	3255	33611	68766	293	1814	2107	7223
2021/01-12	317314	62375	71137	430828	881654	2270	30033	32303	102684

#### 4. 財政資源

資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡して順調な運営がなされている。平成28年度から令和4年度の第4次長期総合計画を策定し、計画的な事業運営に取り組んでいる。収支バランスも良く健全な運営がなされている。

## IV リーダーシップとガバナンス

### 1. 理事長のリーダーシップ

理事長は、当該法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。法人の寄附行為を基に、学校行事、特別講義等で学生及び教職員に講和し、意識づけることによって、本学の発展に寄与している。理事長は、本学の学長を兼務し、自己点検・評価委員会の委員長として、リーダーシップの下、全専任教職員で教育の質保証を図る査定の仕組みが機能している。

### 2. 学長のリーダーシップ

学長は、人格高潔で、学識が優れ識見に富み、かつ教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。寄附行為及び建学の精神に基づき教育研究を推進し、本学の向上・充実に向けて努力している。また、校務をつかさどり所属職員を監督している。

### 3. ガバナンス

理事長のリーダーシップのもと、医療人としての意識改革に努めている。学校法人埼玉医科大学の基本理念『限りなき愛』を基本にして、5年ごとに長期総合計画を策定し実施し、現在は第4次長期総合計画を実行中である。この法人全体の理念を引き継ぎ、本学においても、建学の精神及び教育目標、三つの方針を明確にした「行動のしおり」を作成し、教職員及び全学生が携帯し意識改革に努めている。

令和3年度自己点検・評価委員

丸木 清之	(学長)
所 ミヨ子	(副学長・委員長)
小室 秀樹	(短大事務部顧問)
内田 和利	(学校群統括部長)
相田 香	(事務部長)
久保 かほる	(看護学科)
稲井 洋子	(専攻科)
今野 葉月	(SD活動企画代表)
秋山 千恵子	(看護学科)
加藤 穂高	(看護学科)
島田 典明	(学務課)
佐藤 真	(庶務課)

令和3年度報告書編集委員

秋山 千恵子	(看護学科)
加藤 穂高	(看護学科)
島田 典明	(学務課)
佐藤 真	(庶務課)

学校法人 埼玉医科大学  
埼玉医科大学短期大学

令和3年度自己点検・評価報告書  
(2021年度年報)

令和4年3月31日発行

埼玉医科大学短期大学  
自己点検・評価委員会

〒350-0495

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049-276-1512

FAX 049-294-8604

E-mail : [tangakumu@saitama-med.ac.jp](mailto:tangakumu@saitama-med.ac.jp)